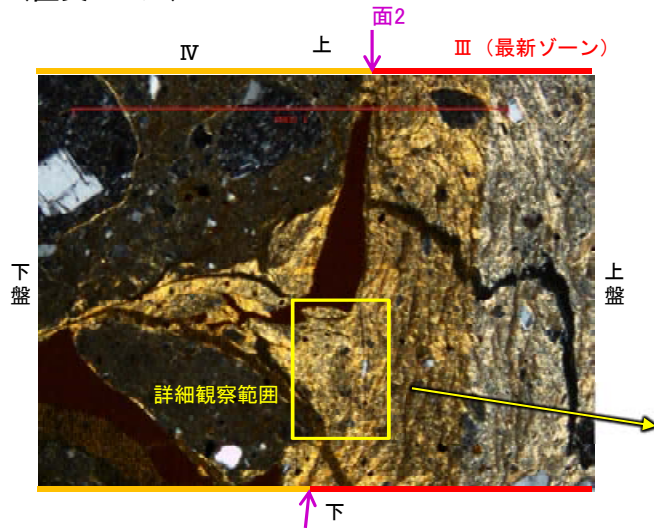


【詳細観察】

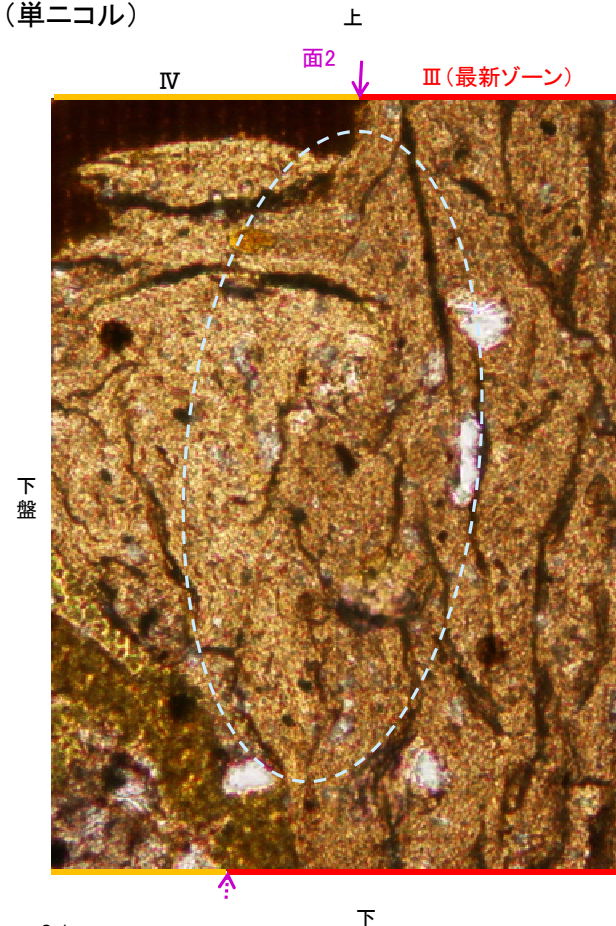
・不連続箇所の粘土鉱物 (I/S混合層) にせん断面や引きずりなどの
変形は認められない。

(直交ニコル)

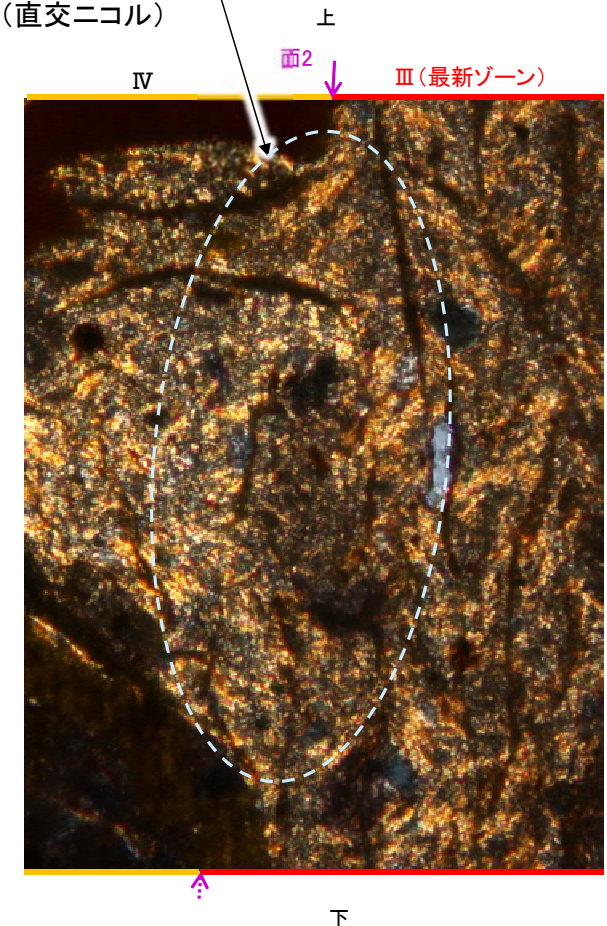


範囲A写真

(単ニコル)



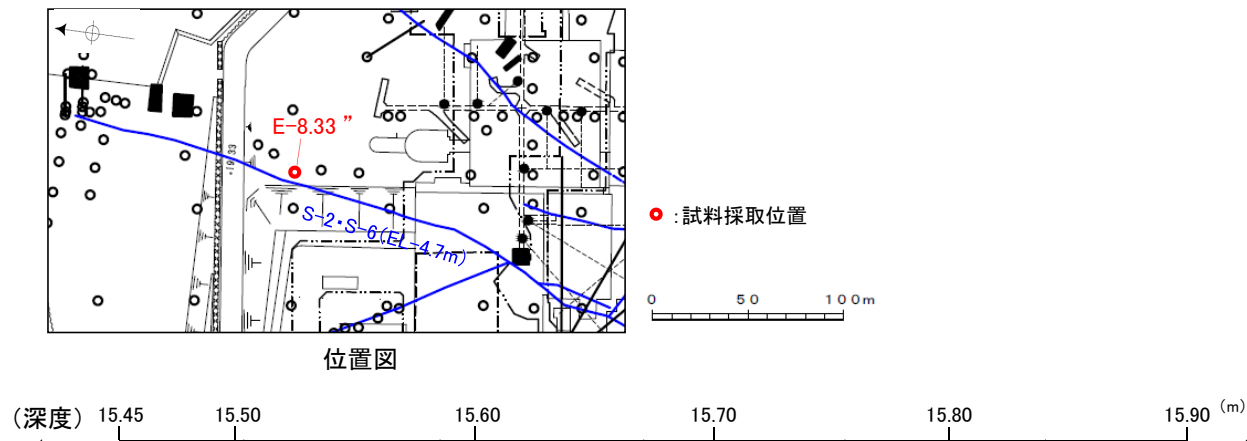
(直交ニコル)



詳細観察範囲写真

◀… : 延長位置

(2) SEM観察



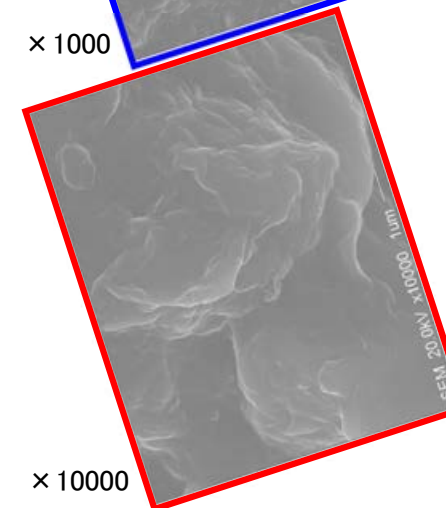
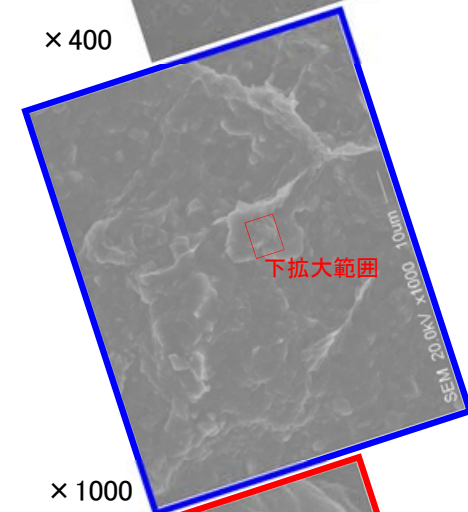
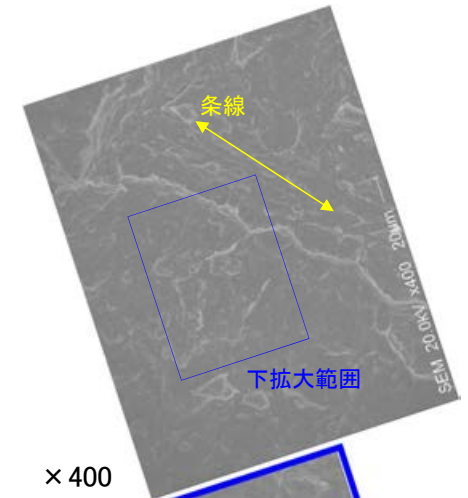
コア写真(E-8.33"孔)



最新面写真(下盤側上面)



試料(E-8.33"孔)



- SEM観察により、条線が認められた最新面上における粘土鉱物(XRD分析, EPMA分析からI/S混合層と認定)の結晶構造及びその破碎状況を観察した。
- SEM観察の結果、条線が認められた最新面上に、フレーク状の粘土鉱物の自形結晶を確認した。
- この粘土鉱物の自形結晶に破碎は認められない。

余白

補足資料5. 2－5

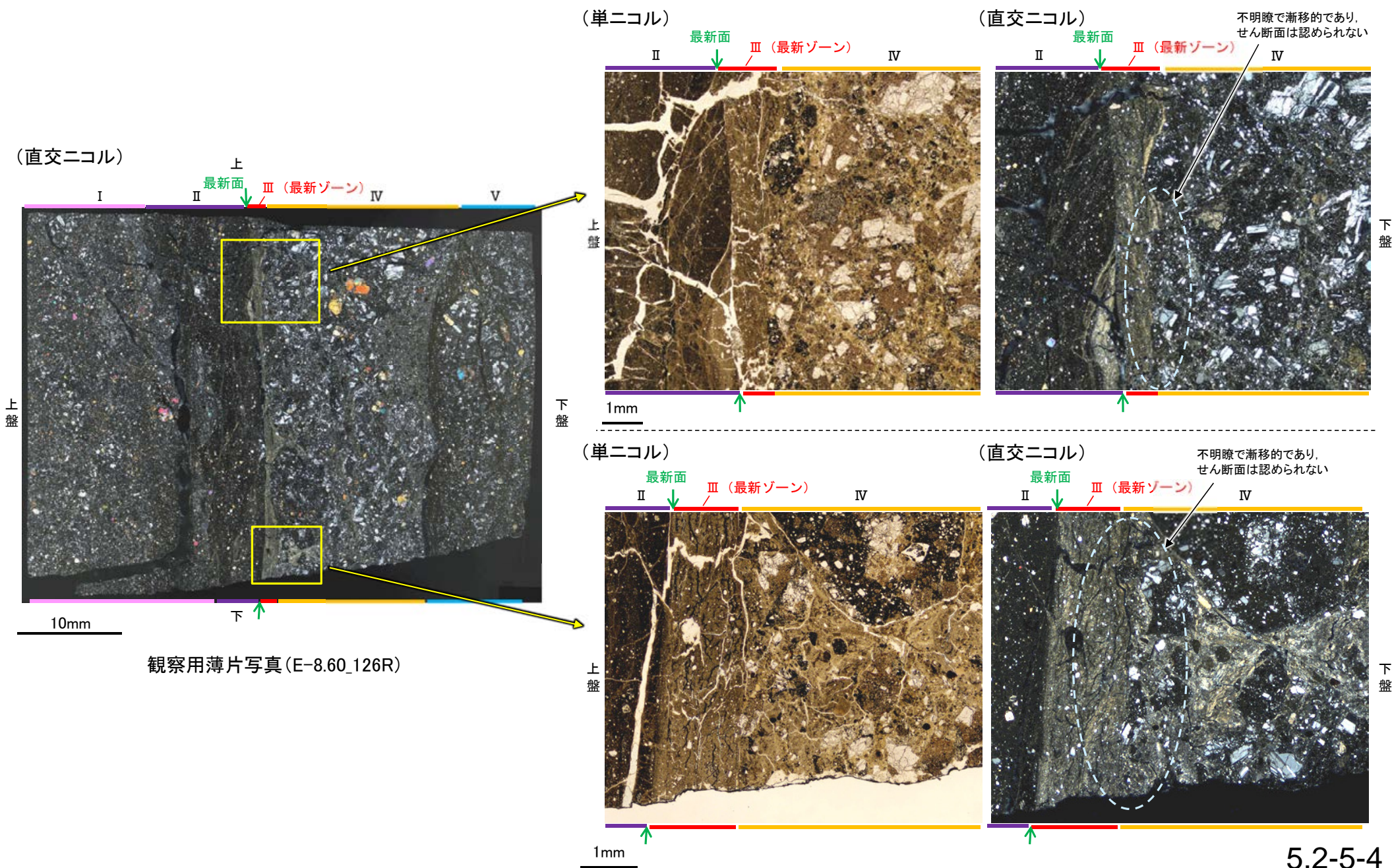
鉍物脈法等に関する調査結果(S-4)

(1) 薄片觀察

(1)-1 E-8.60孔

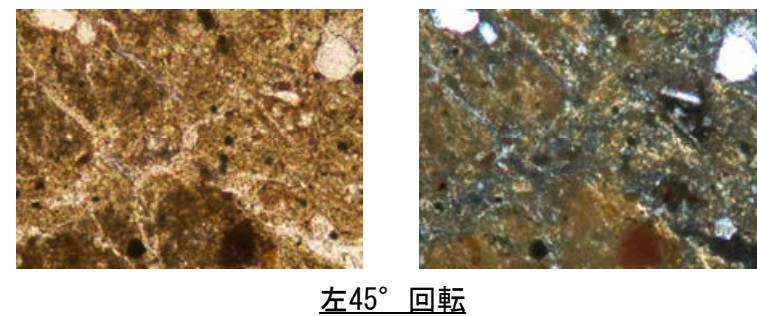
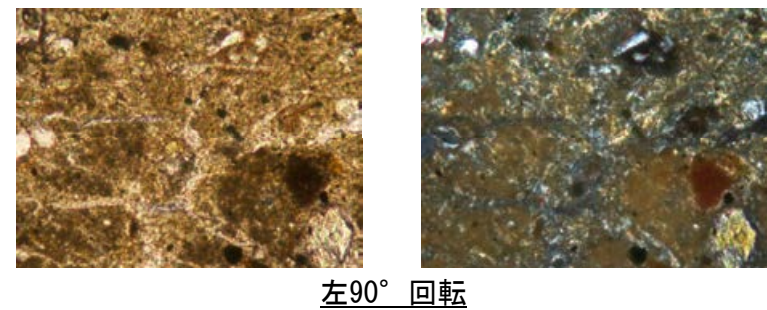
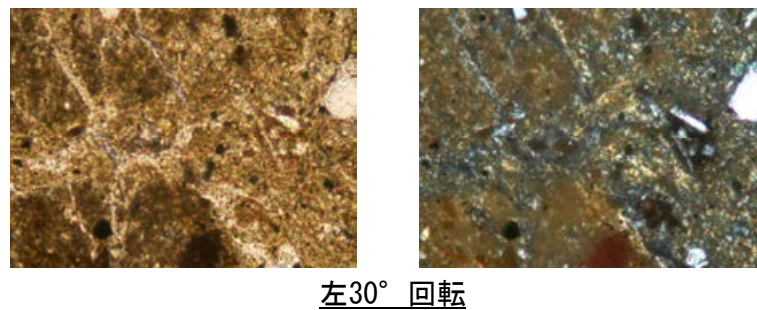
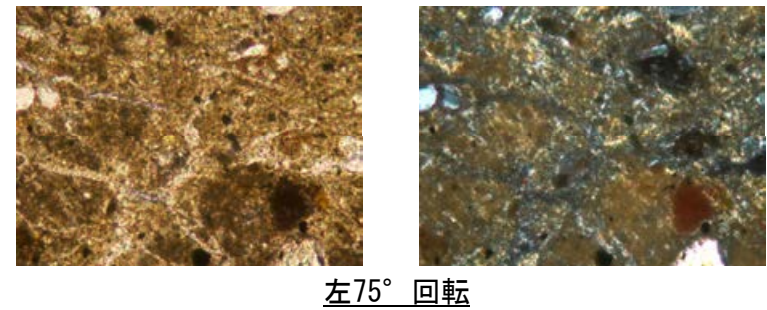
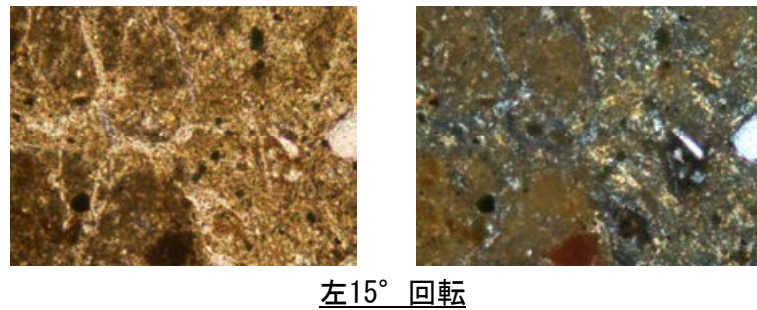
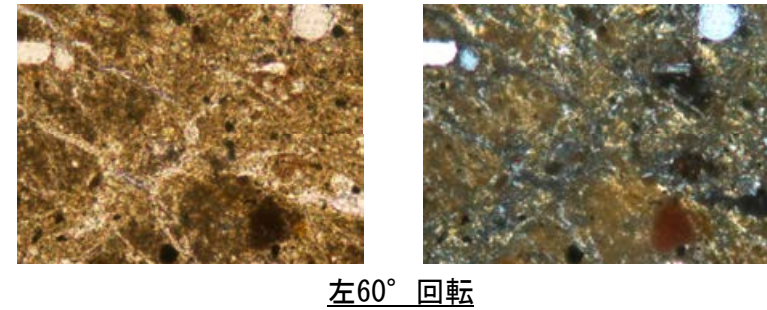
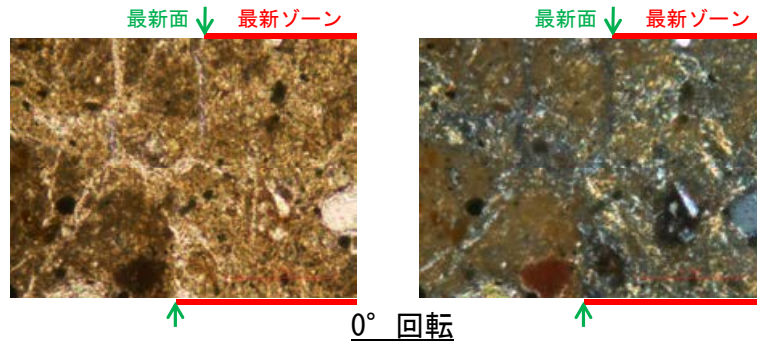
E-8.60孔 ー最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界(微視的観察)ー

○観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界は不明瞭で漸移的であり, せん断面は認められない。



E-8.60孔 ステージ回転写真(範囲A)ー

○本資料P.218の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。

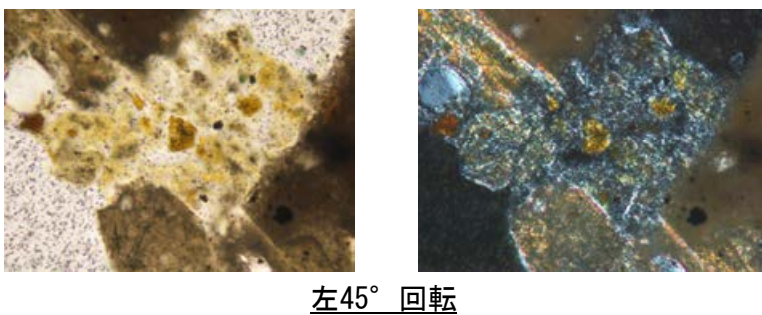
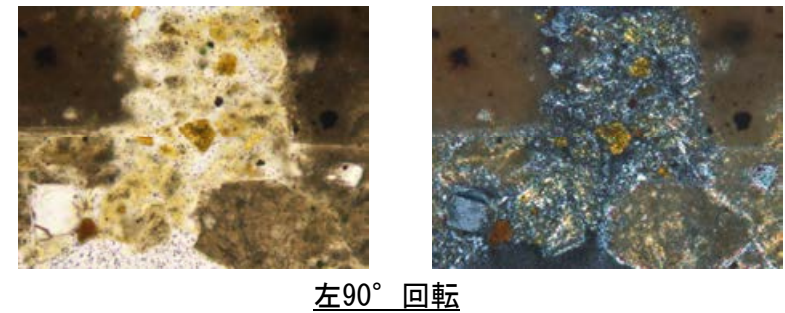
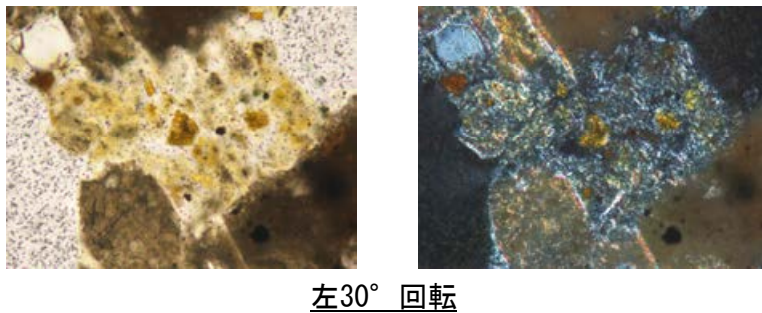
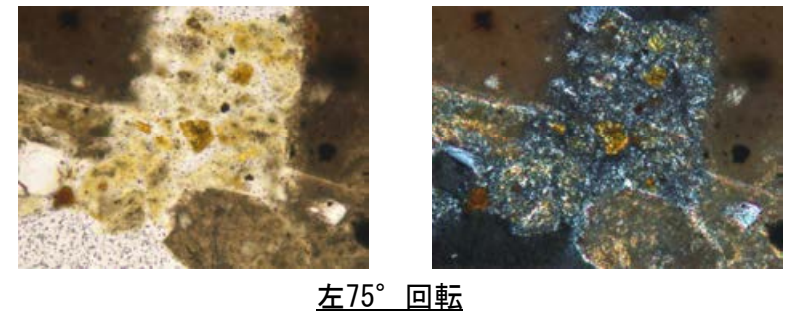
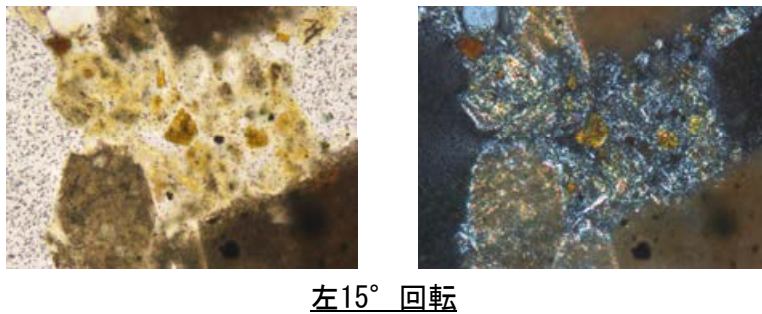
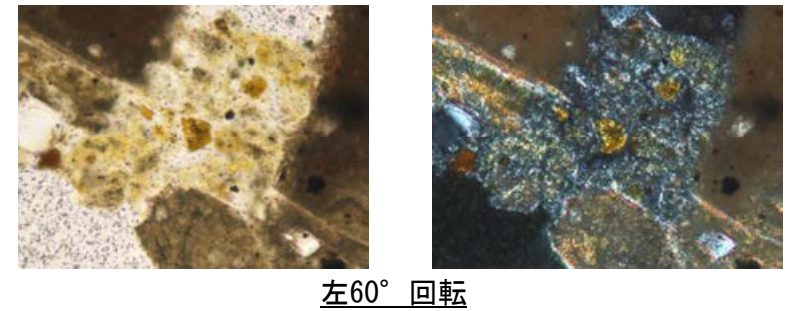
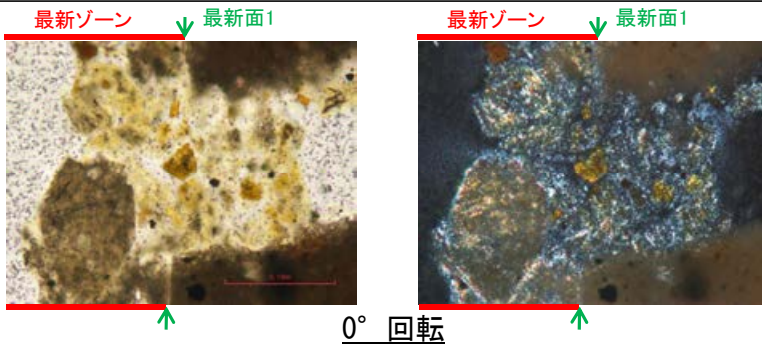


0.1mm

(1)-2 E-11.1SE-2孔

E-11.1SE-2孔 ステージ回転写真(範囲A)ー

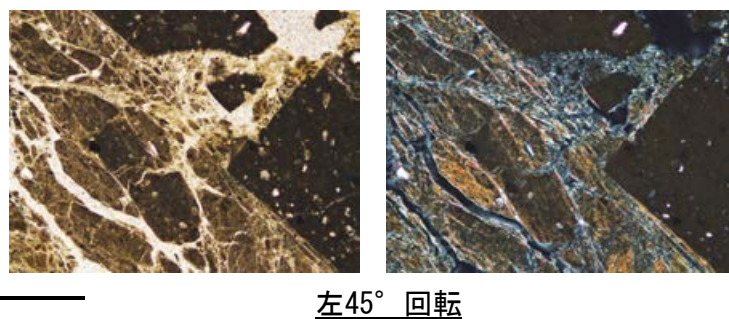
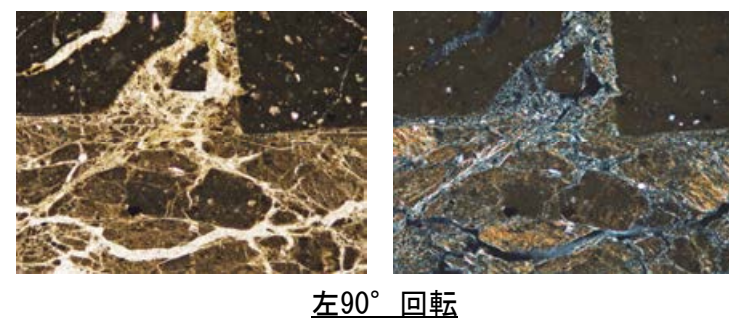
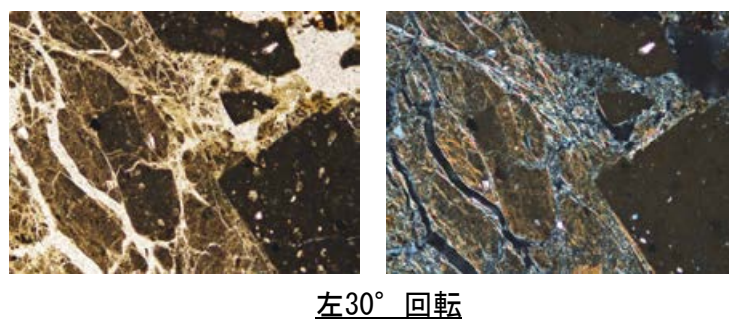
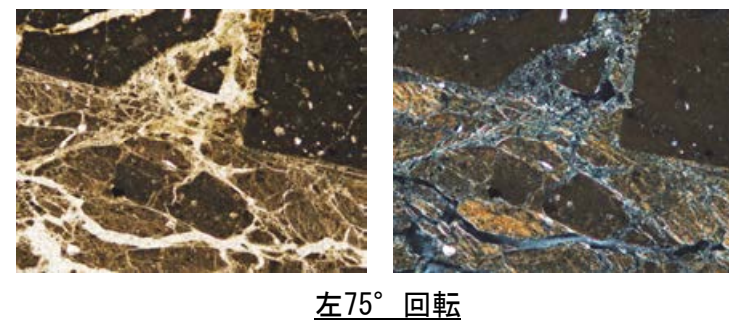
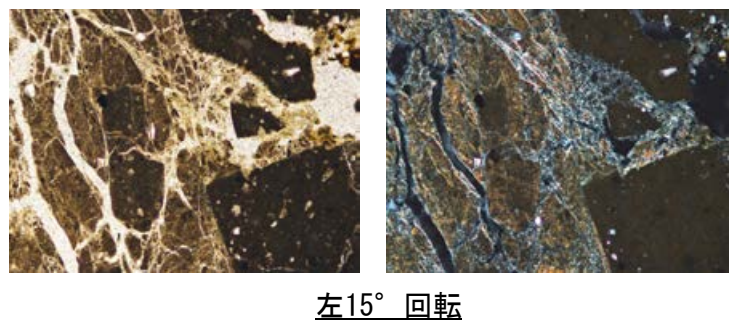
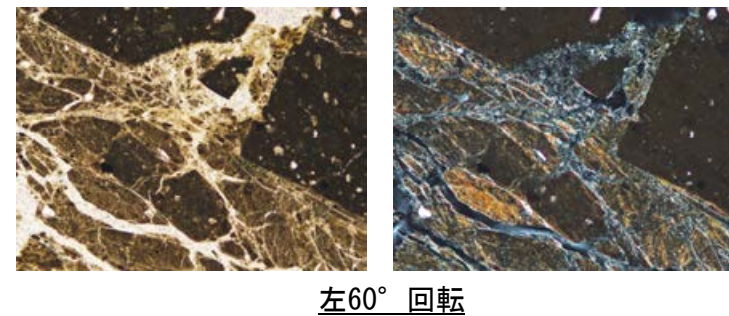
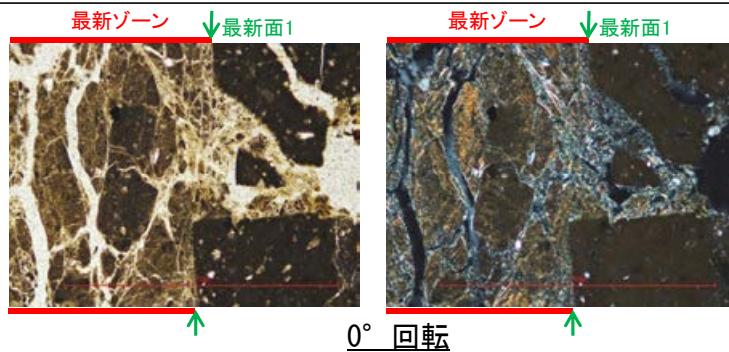
○本資料P.230の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



0.1mm

E-11.1SE-2孔 ステージ回転写真(範囲B, 最新面1) -

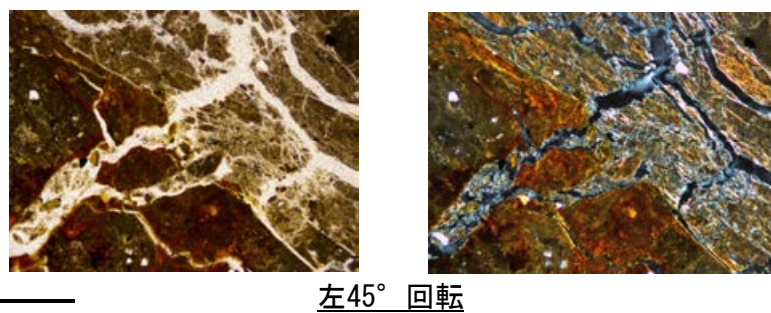
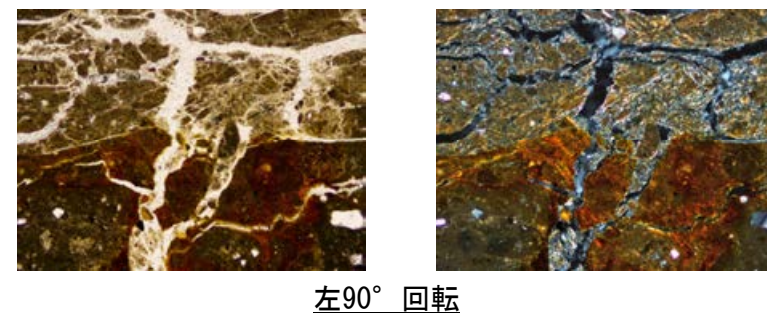
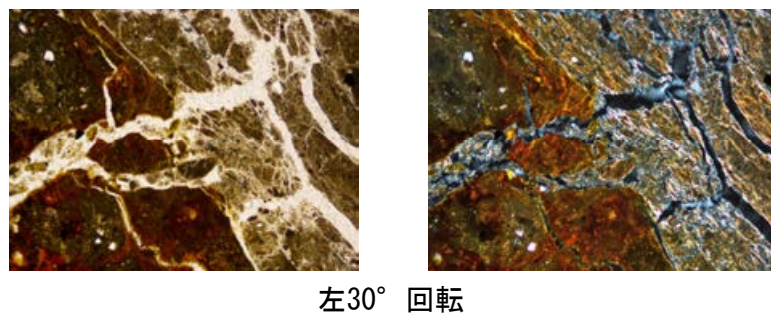
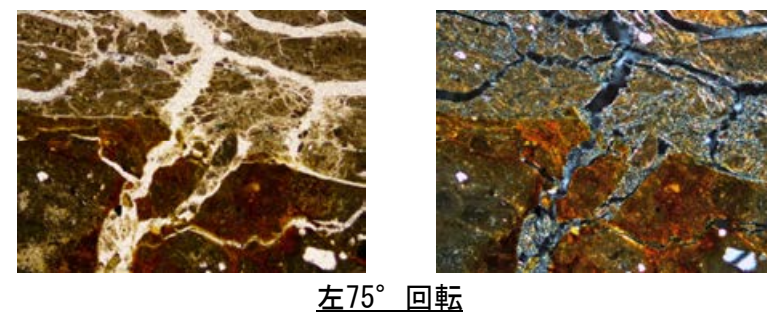
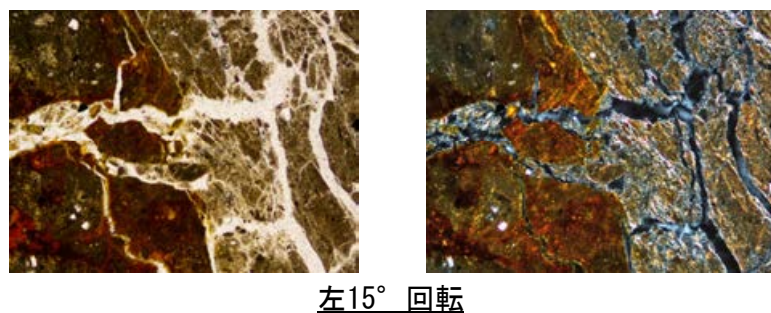
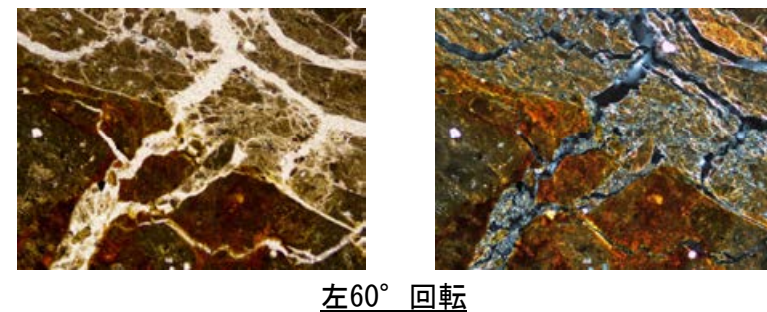
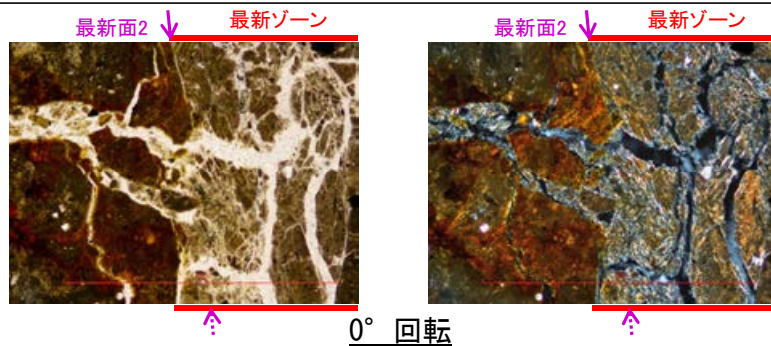
○本資料P.233の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



1mm

E-11.1SE-2孔 ステージ回転写真(範囲B, 最新面2) -

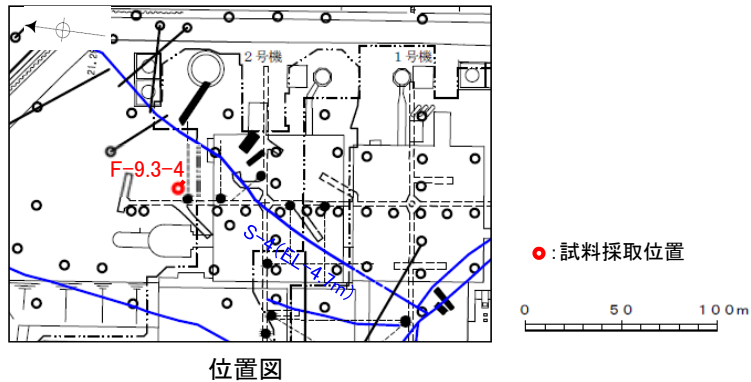
○本資料P.235の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



1mm

←… : 延長位置

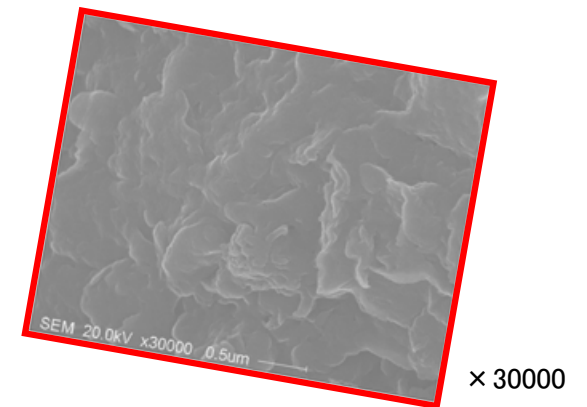
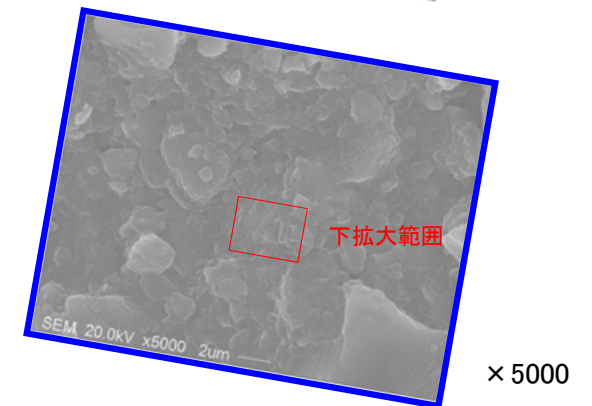
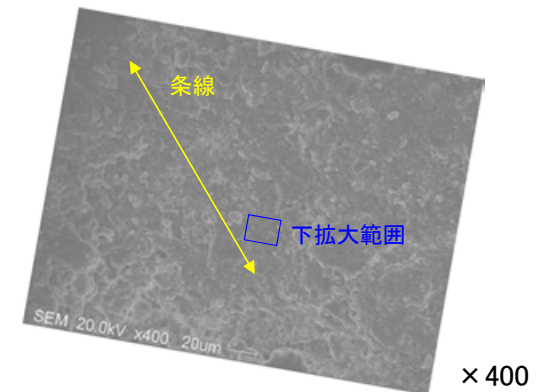
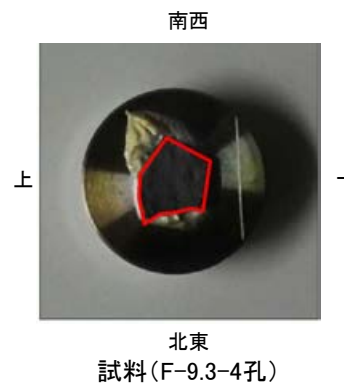
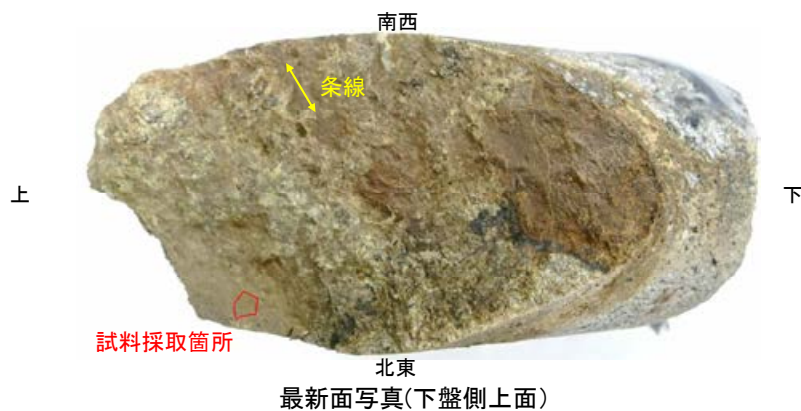
(2) SEM観察



(深度) 66.25 66.30 66.40 66.50 (m)



ボーリングコア写真(F-9.3-4孔)



- ・SEM観察により、条線が認められた最新面上における粘土鉱物(XRD分析、EPMA分析からI/S混合層と認定)の結晶構造及びその破碎状況を確認した。
- ・SEM観察の結果、条線が認められた最新面上に、フレーク状の粘土鉱物の自形結晶を確認した。
- ・この粘土鉱物の自形結晶に破碎は認められない。

余白

補足資料5. 2－6

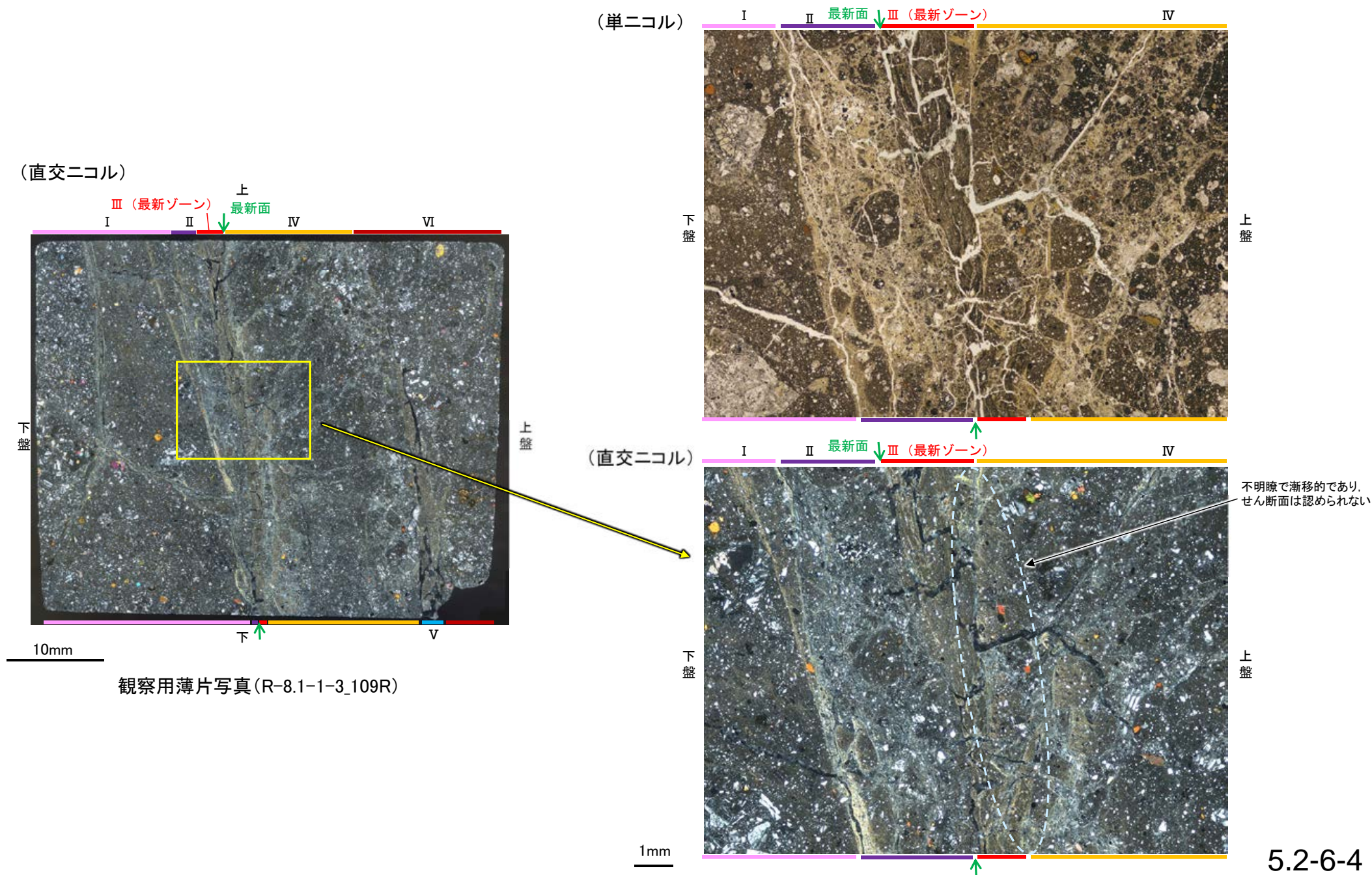
鉍物脈法等に関する調査結果(S-5)

(1) 薄片觀察

(1)-1 R-8.1-1-3孔

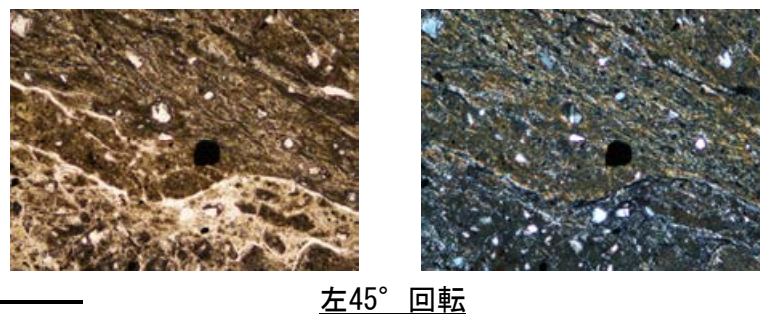
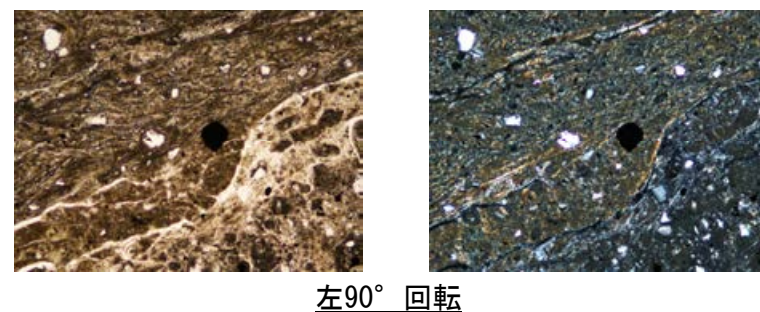
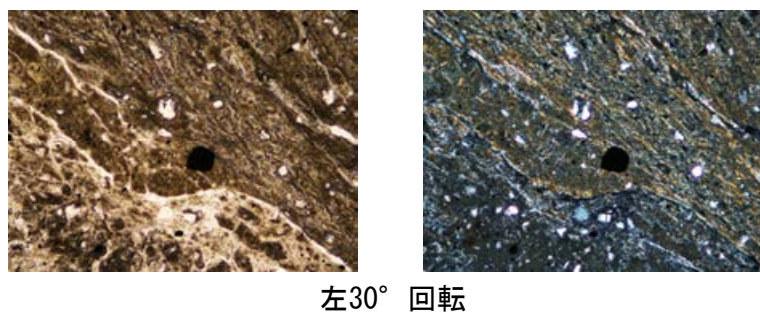
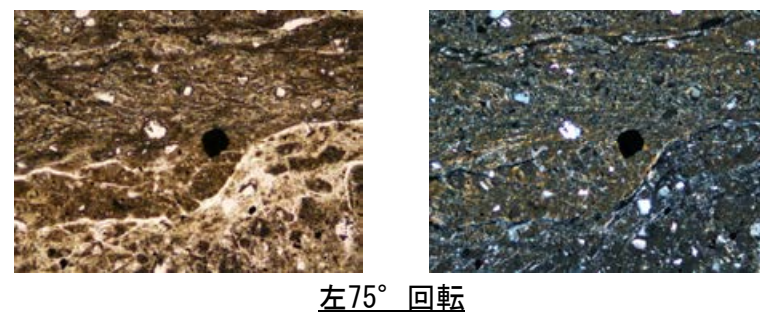
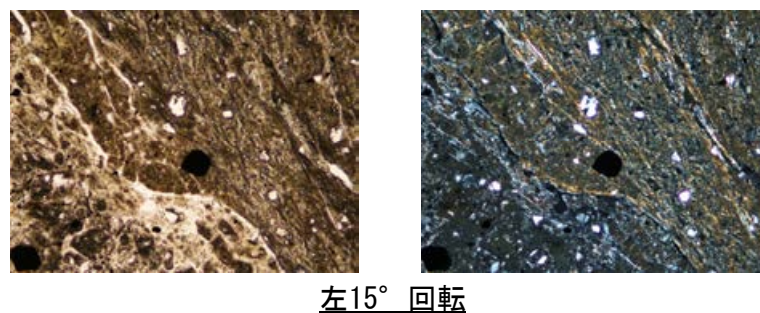
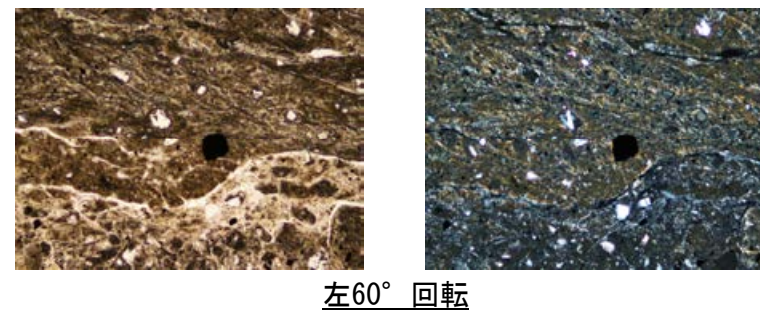
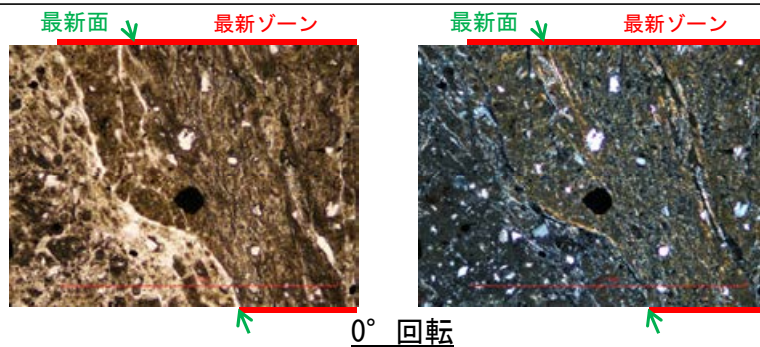
R-8.1-1-3孔 ー最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界(微視的観察)ー

○観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 最新ゾーンと分帯Ⅳとの境界は不明瞭で漸移的であり, せん断面は認められない。



R-8.1-1-3孔 ステージ回転写真一

○本資料P.256の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



1mm

余白

補足資料5. 2－7

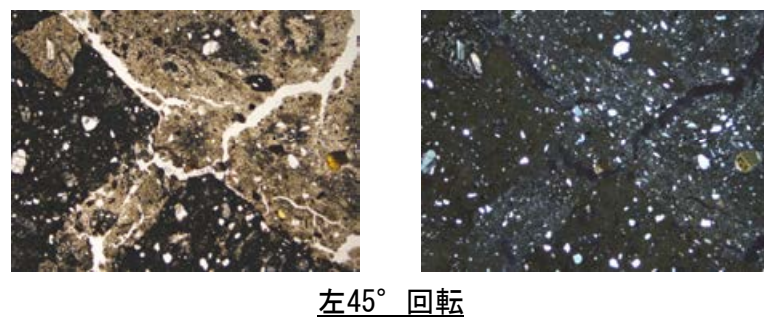
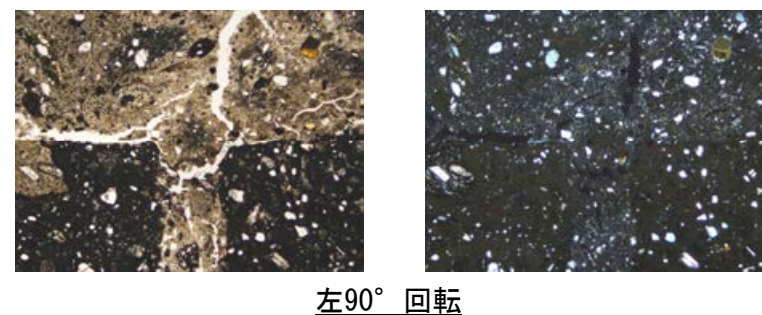
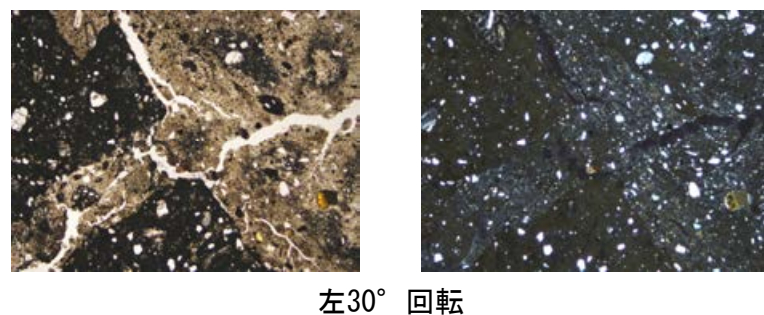
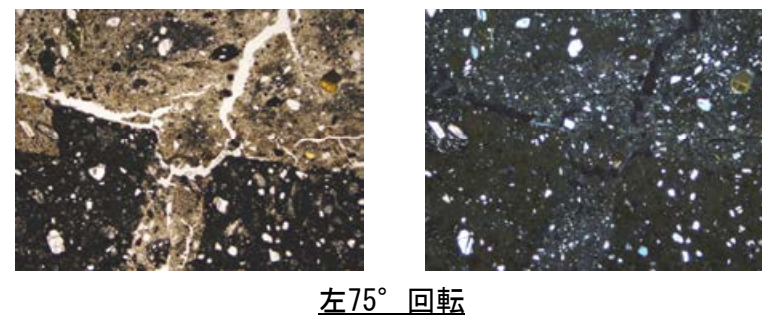
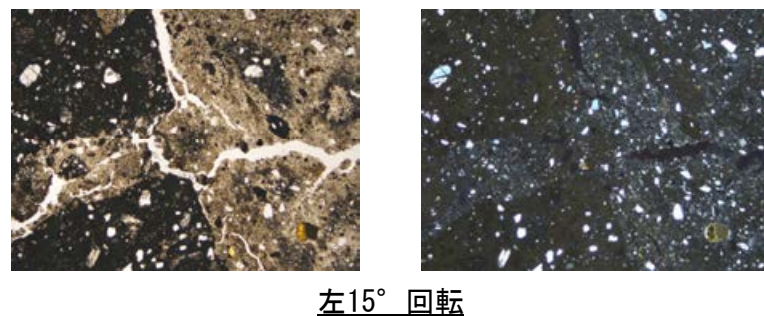
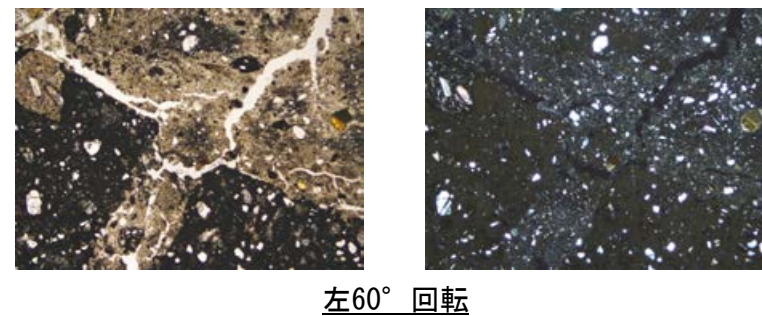
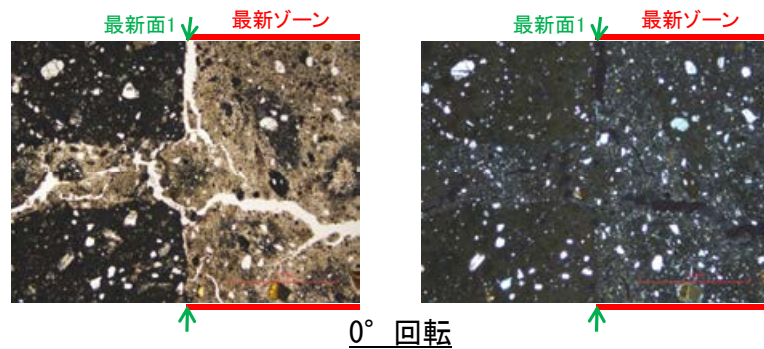
鉍物脈法等に関する調査結果(S-7)

(1) 薄片觀察

(1)-1 H-5.7' 孔

H-5.7' 孔 ステージ回転写真(範囲A) -

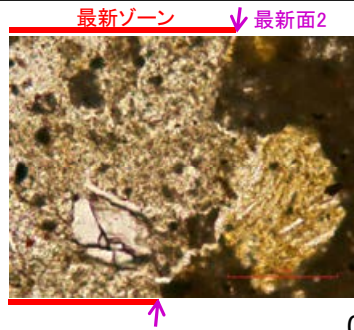
○本資料P.269の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



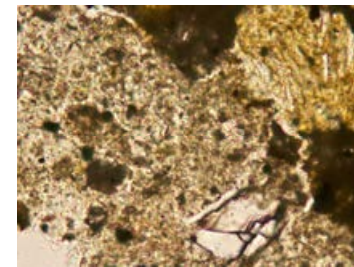
1mm

H-5.7' 孔　－ステージ回転写真(範囲B)－

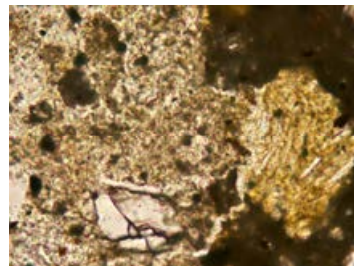
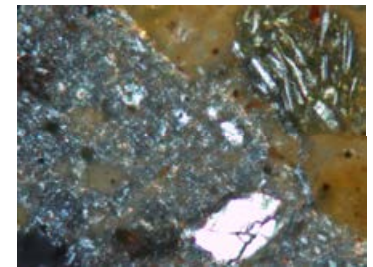
○本資料P.272の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



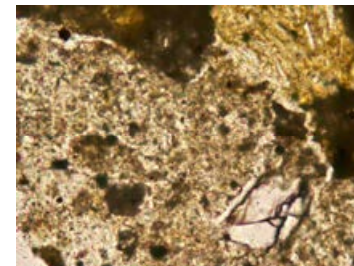
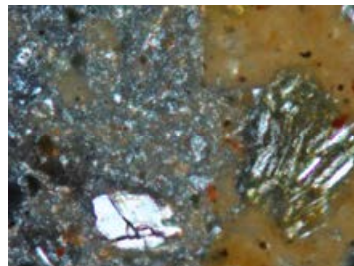
0° 回転



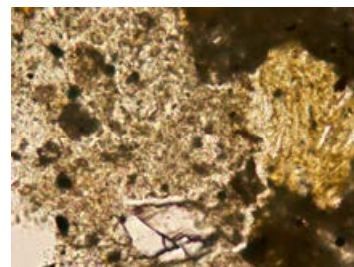
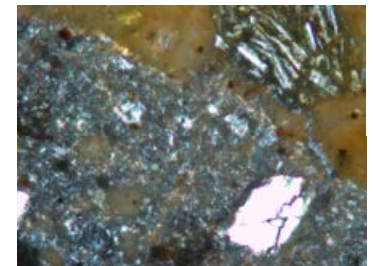
左60° 回転



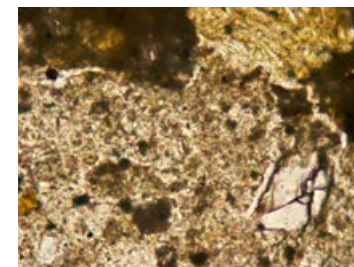
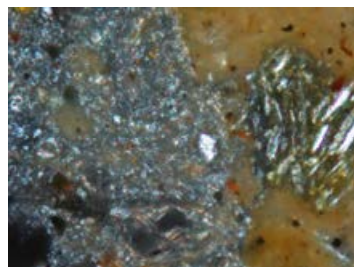
左15° 回転



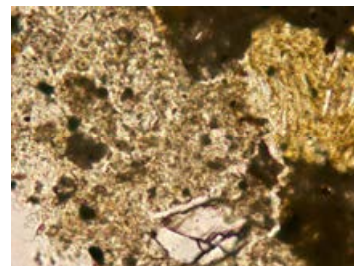
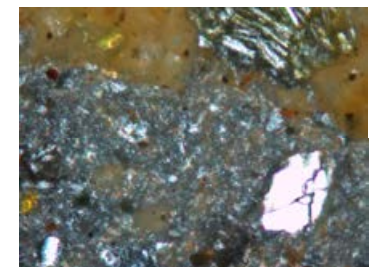
左75° 回転



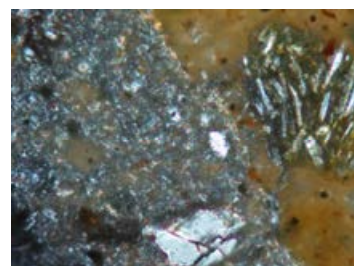
左30° 回転



左90° 回転



左45° 回転



0.1mm

余白

補足資料5. 2－8

鉍物脈法等に関する調査結果(S-8)

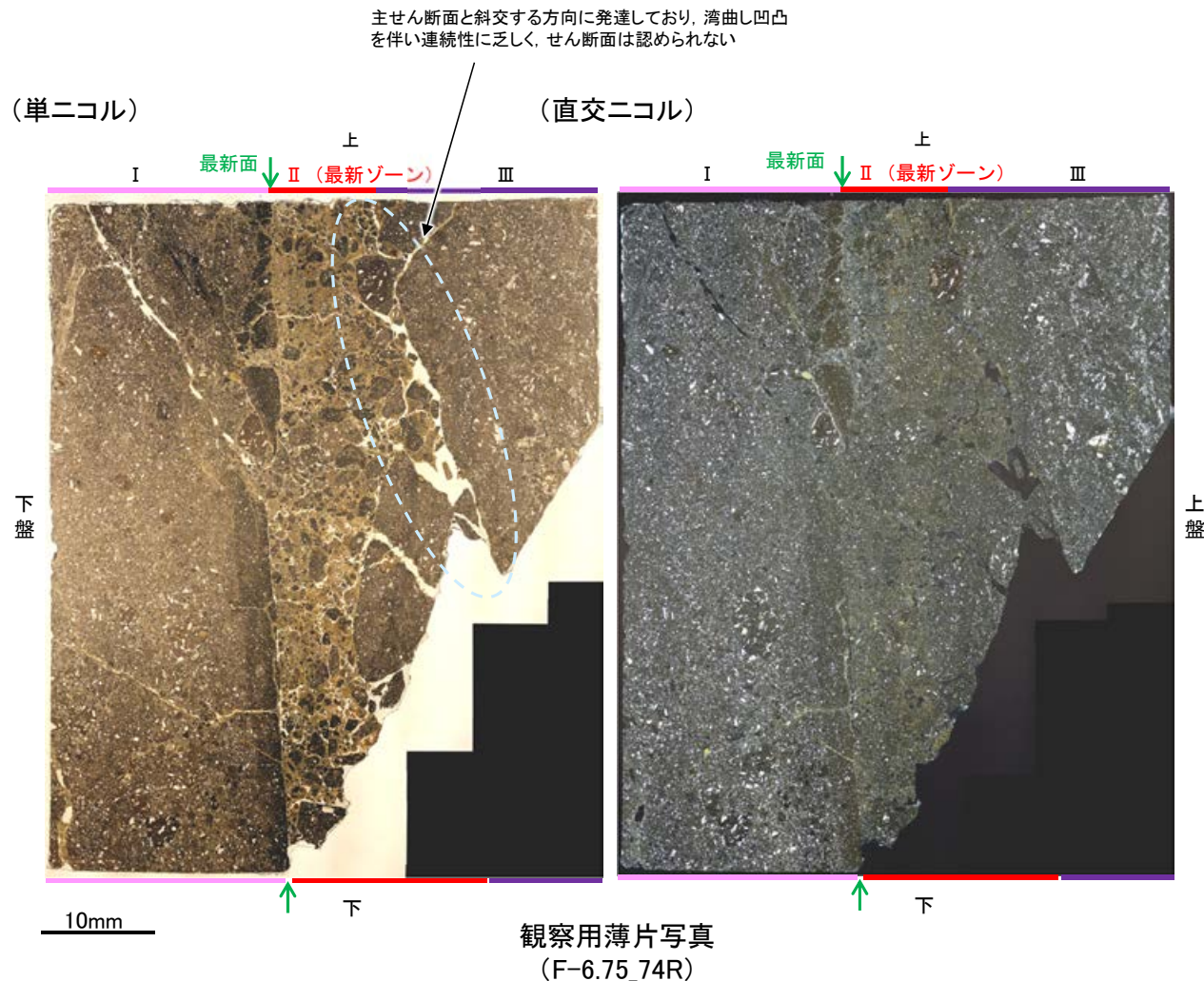
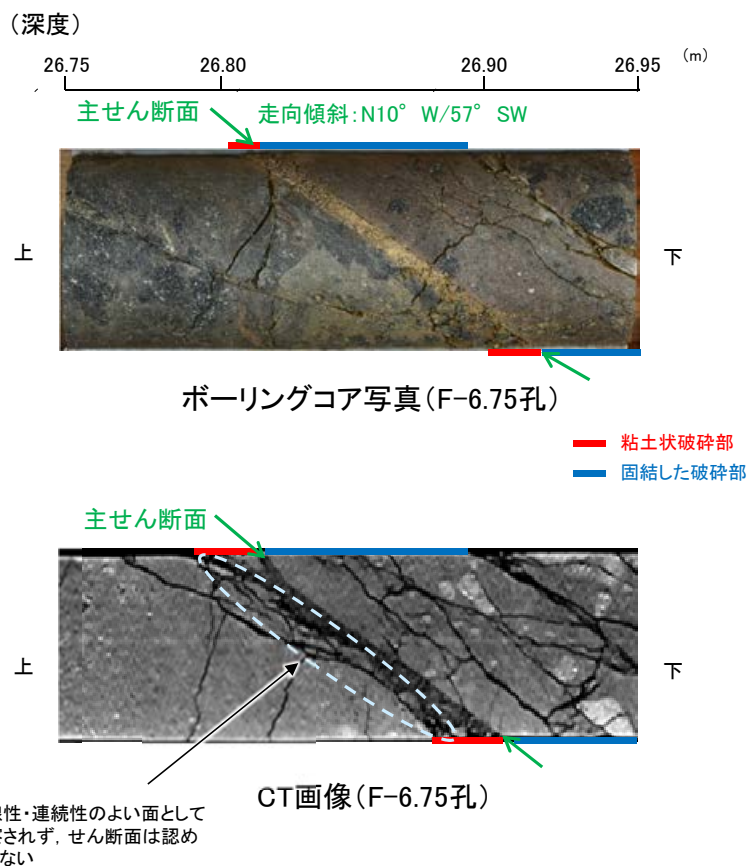
(1) 薄片觀察

(1)-1 F-6.75孔

F-6.75孔 ー最新ゾーンと分帯Ⅲとの境界(微視的観察)ー

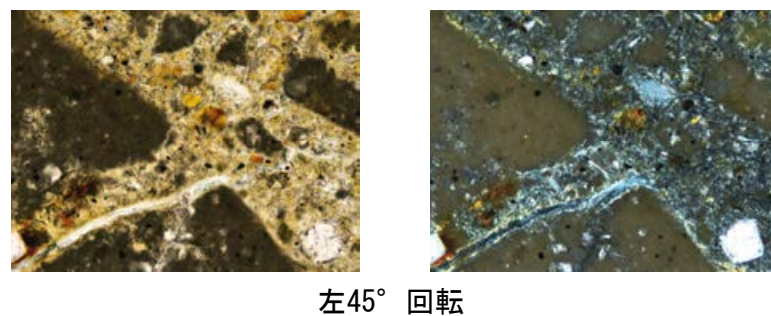
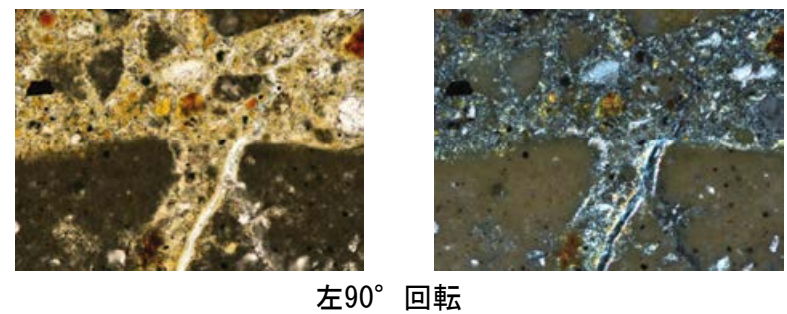
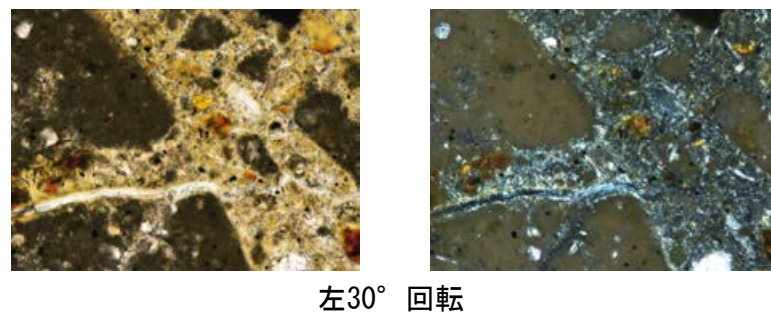
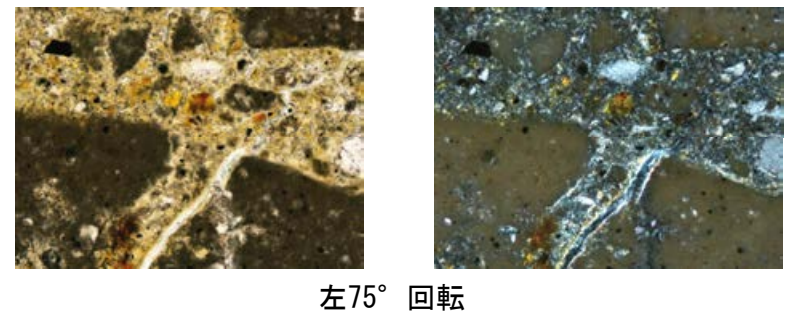
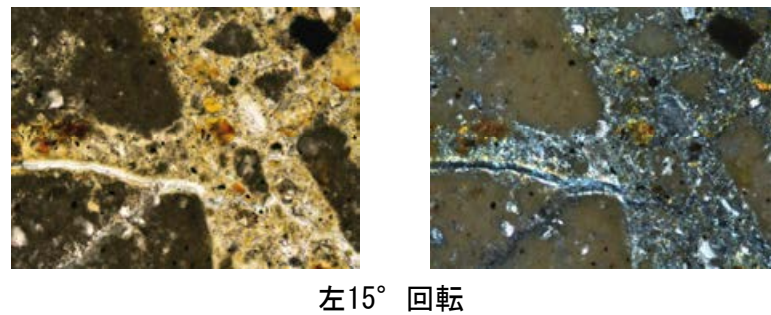
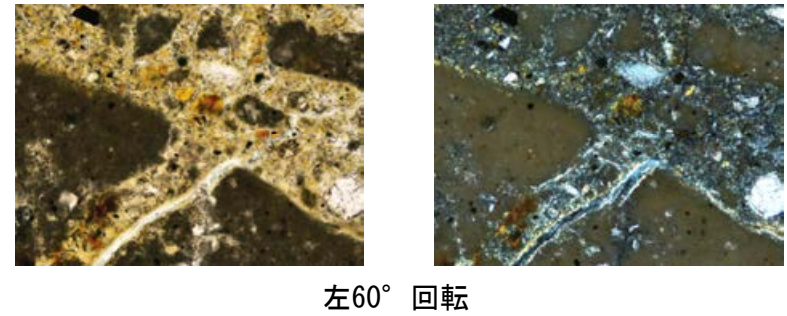
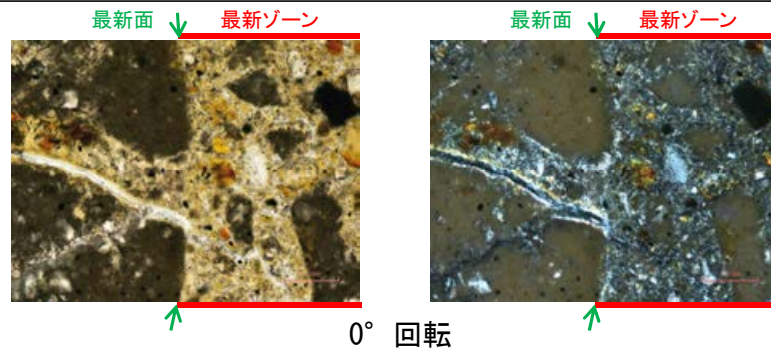
コメントNo.85の回答

- CT画像観察の結果、粘土状破碎部の上盤側境界は直線性・連続性のよい面として観察されず、せん断面は認められない。
- 粘土状破碎部の上盤側境界は、薄片における最新ゾーンと分帯Ⅲとの境界に対応し、この境界は主せん断面と斜交する方向に発達しており、湾曲し凹凸を伴い連続性に乏しく、せん断面は認められない。



F-6.75孔 ステージ回転写真

○本資料P.286の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



余白

補足資料5. 2－9

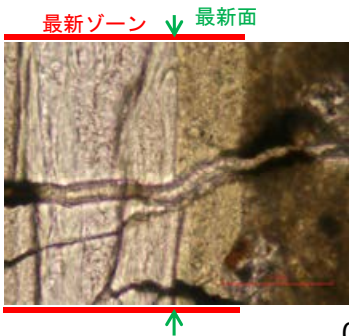
鉍物脈法等に関する調査結果(K-2, K-3)

(1) 薄片觀察(K-2)

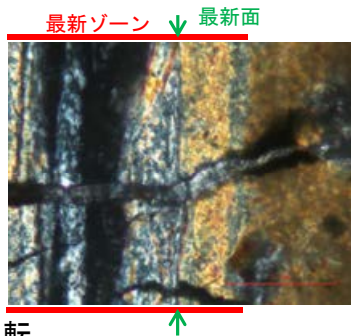
(1)-1 H-1.1孔

H-1.1孔 ステージ回転写真(範囲A)ー

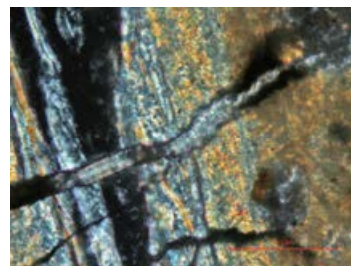
○本資料P.63の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



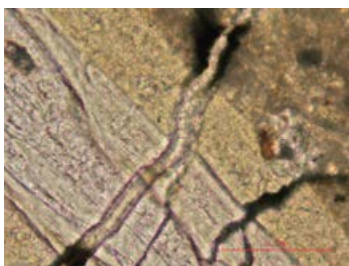
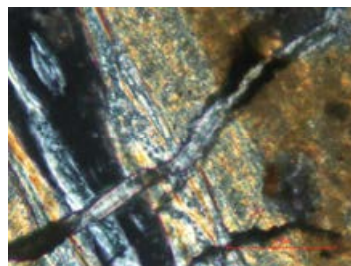
0° 回転



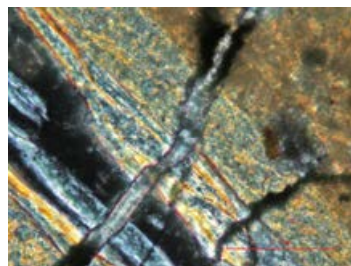
左15° 回転



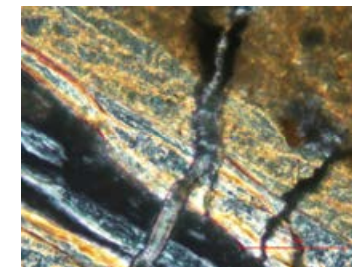
左30° 回転



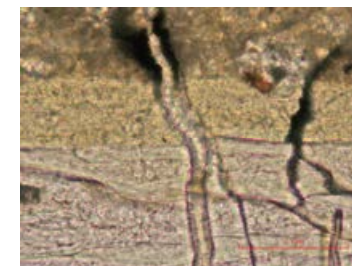
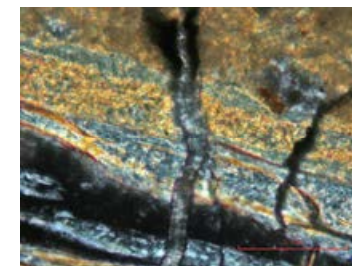
左45° 回転



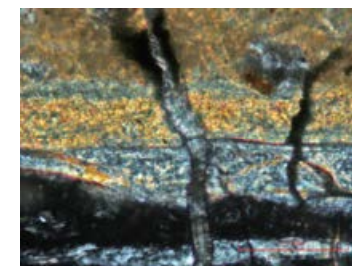
左60° 回転



左75° 回転



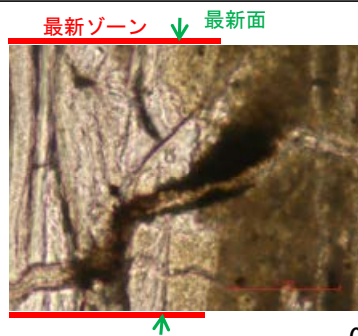
左90° 回転



0.1mm

H-1.1孔 ステージ回転写真(範囲B)ー

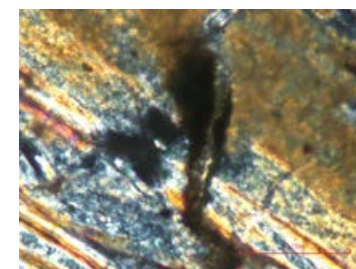
○本資料P.65の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



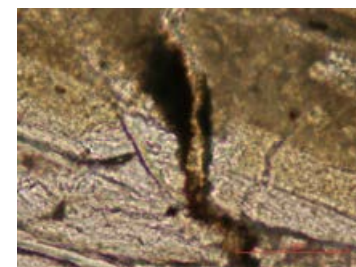
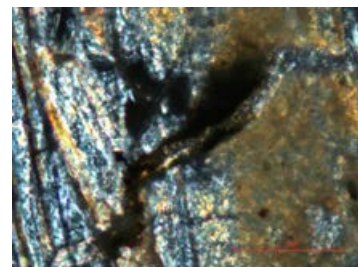
0° 回転



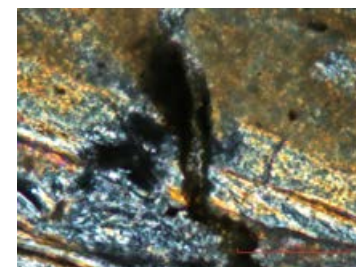
左60° 回転



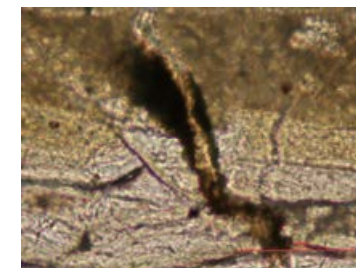
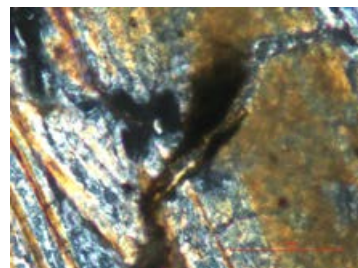
左15° 回転



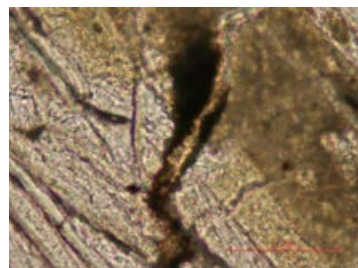
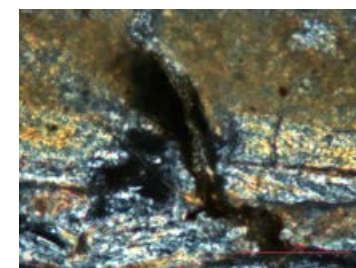
左75° 回転



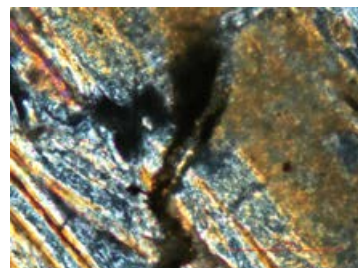
左30° 回転



左90° 回転



左45° 回転



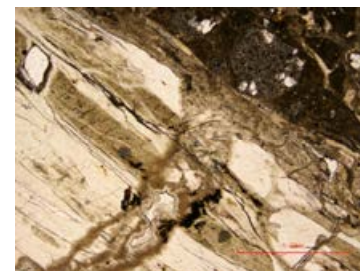
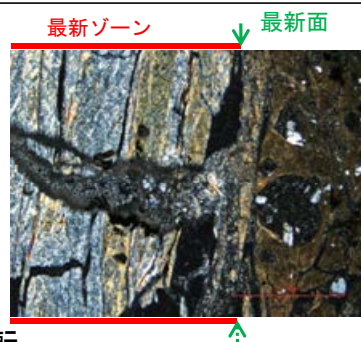
0.1mm

H-1.1孔　一ステージ回転写真(範囲C)－

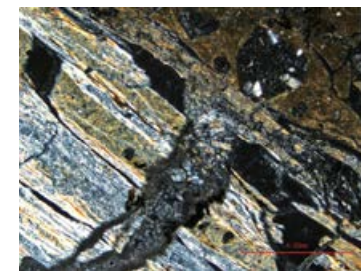
○本資料P.67の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



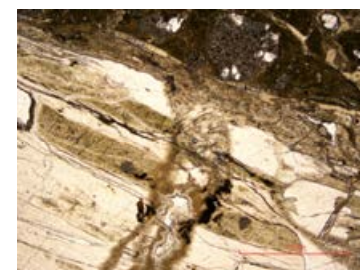
0° 回転



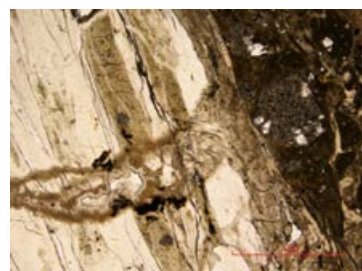
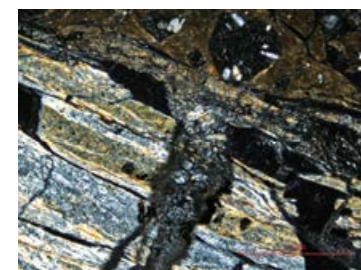
左60° 回転



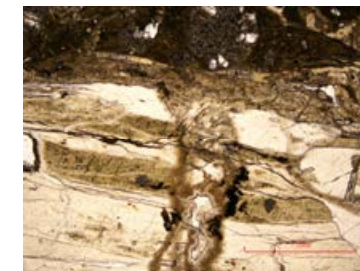
左15° 回転



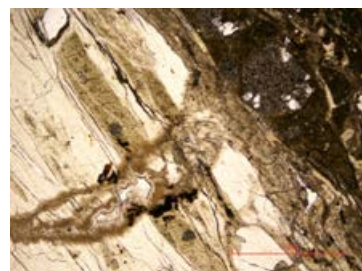
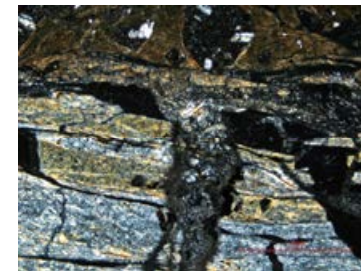
左75° 回転



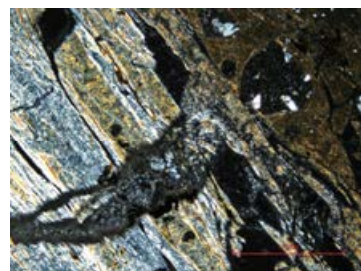
左30° 回転



左90° 回転



左45° 回転

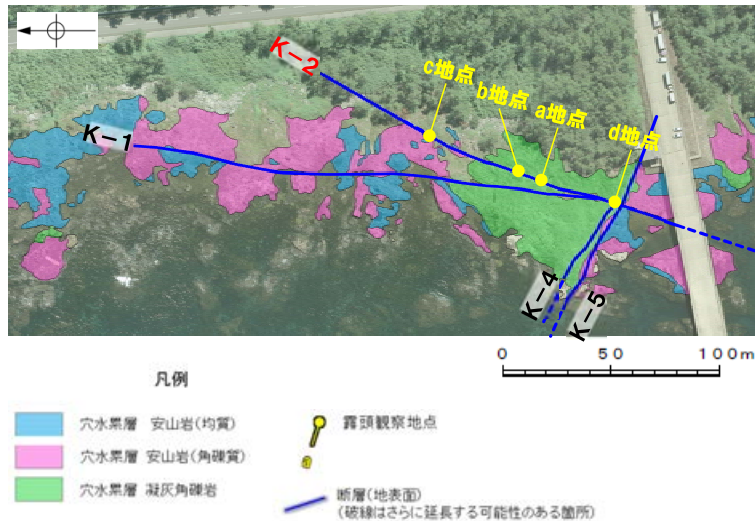


1mm

←… : 延長位置

(2) K-2露頭

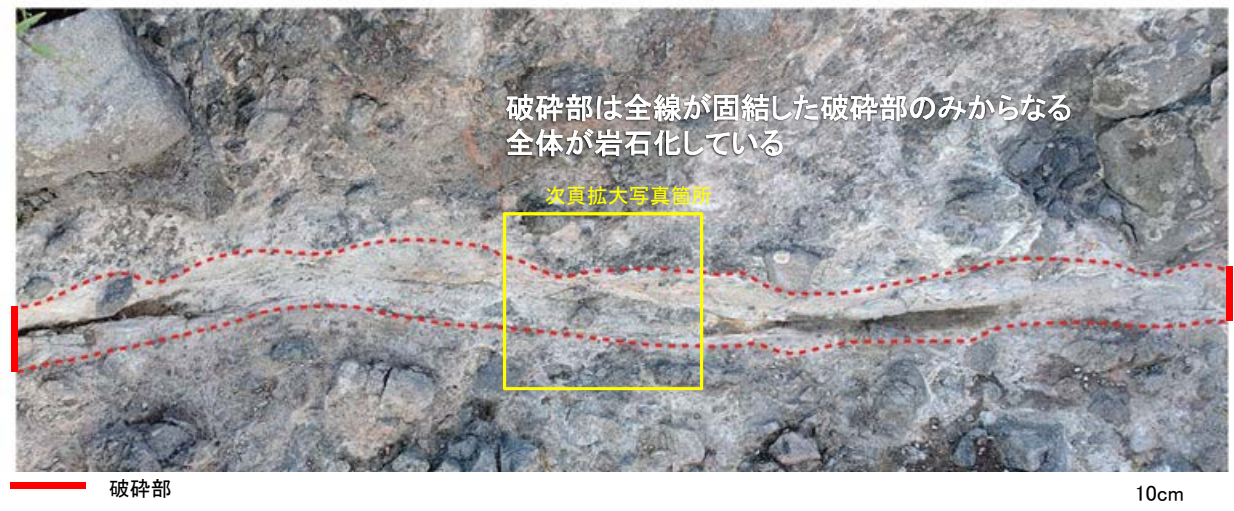
○露頭観察の結果, K-2の破碎部は, 全線が固結した破碎部のみからなる。固結した破碎部には, 延性的に変形する構造(次頁, 次々頁)が認められ, 破碎部全体が岩石化している(右下写真)。



調査位置図

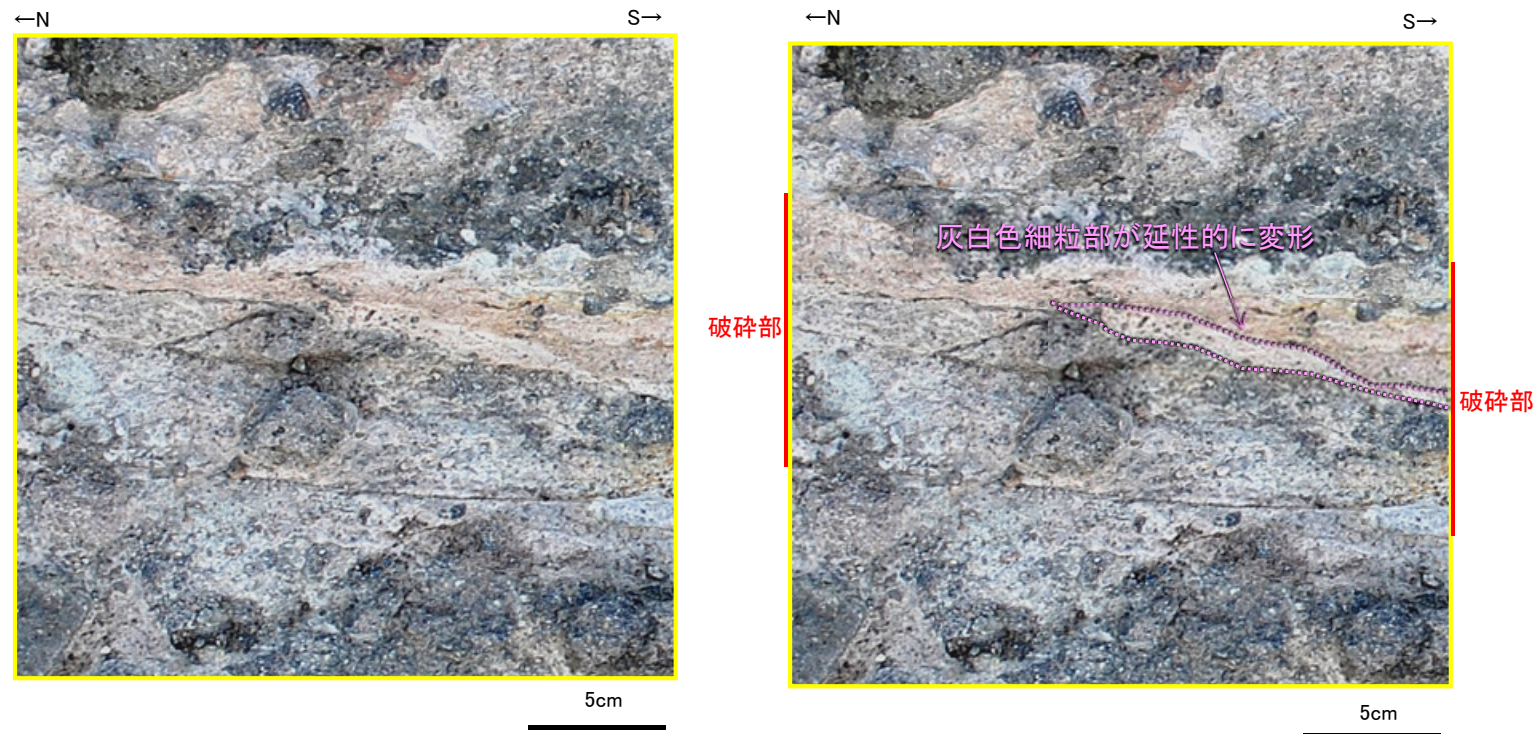


a地点 遠景写真



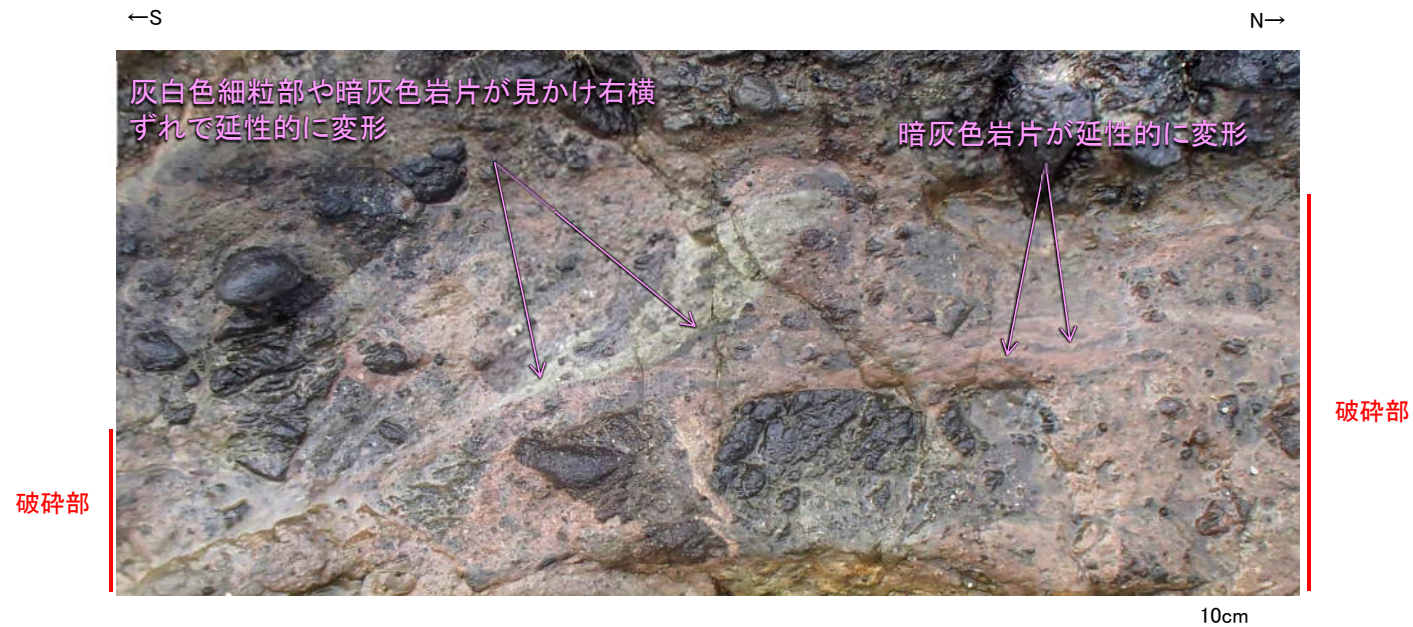
a地点 破碎部の状況写真(下は破砕部を加筆)

【a地点 破碎部中に認められる変形構造の例】



前頁a地点 拡大写真
(右は変形構造を加筆)

【d地点 破碎部中に認められる変形構造の例②】

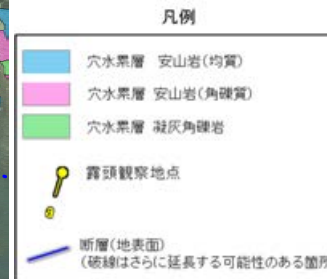
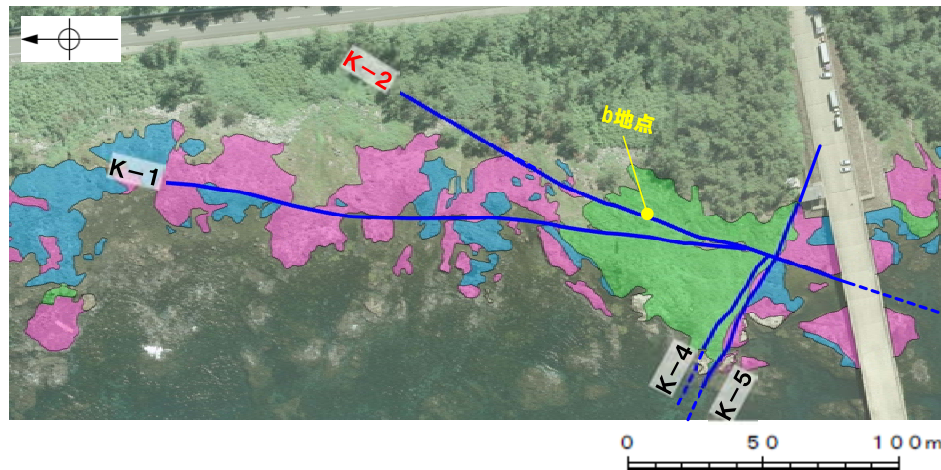


d地点南側 写真



d地点北側 写真

【b地点 破砕部の状況】



b地点 遠景写真



破砕部

b地点 破砕部の状況写真

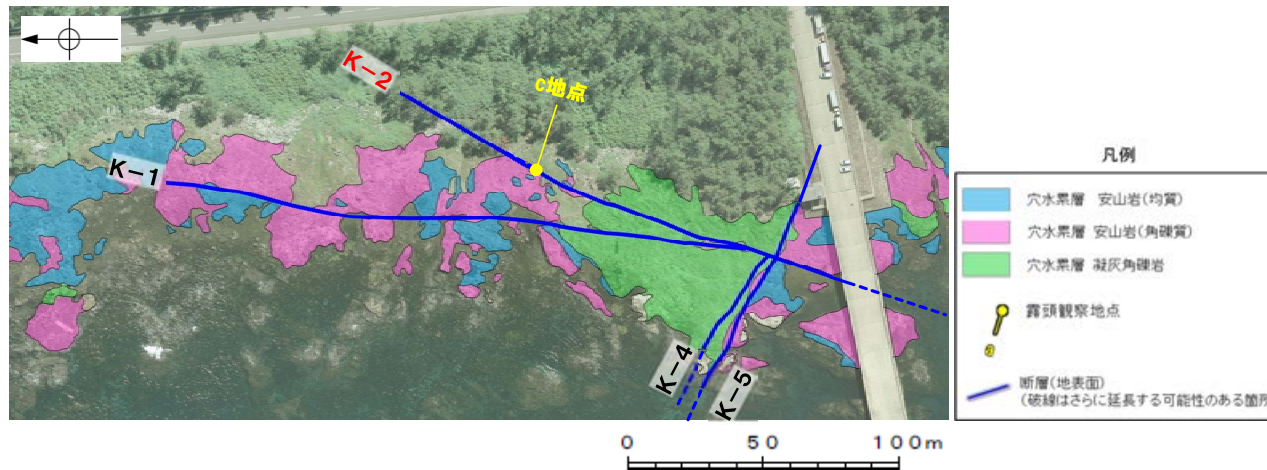


破砕部は全線が
固結した破砕部の
みからなる。
全体が岩石化して
いる。

拡大写真

- ・破砕部は、全線が固結した破砕部のみからなる。
- ・固結した破砕部には、延性的に変形する構造が認められ、破砕部全体が岩石化している。

【c地点 破砕部の状況】



調査位置図



c地点 遠景写真



c地点 破砕部の状況写真

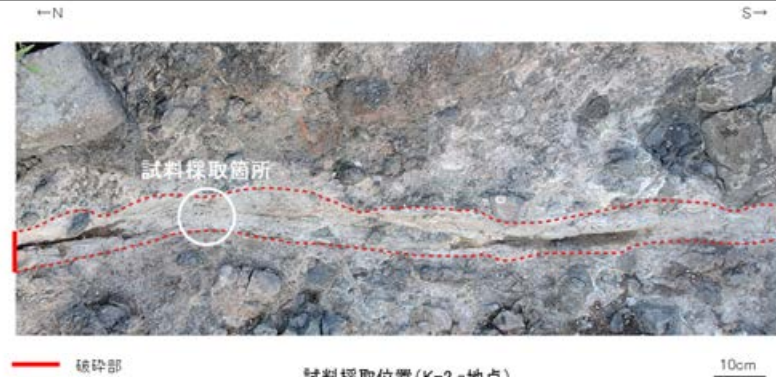


拡大写真

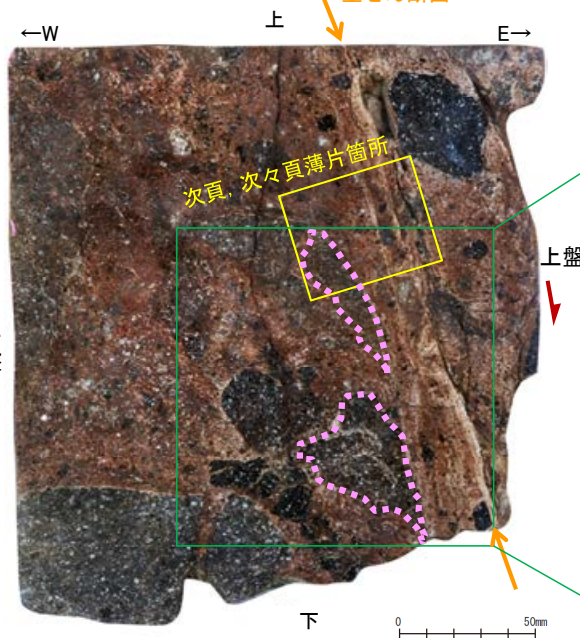
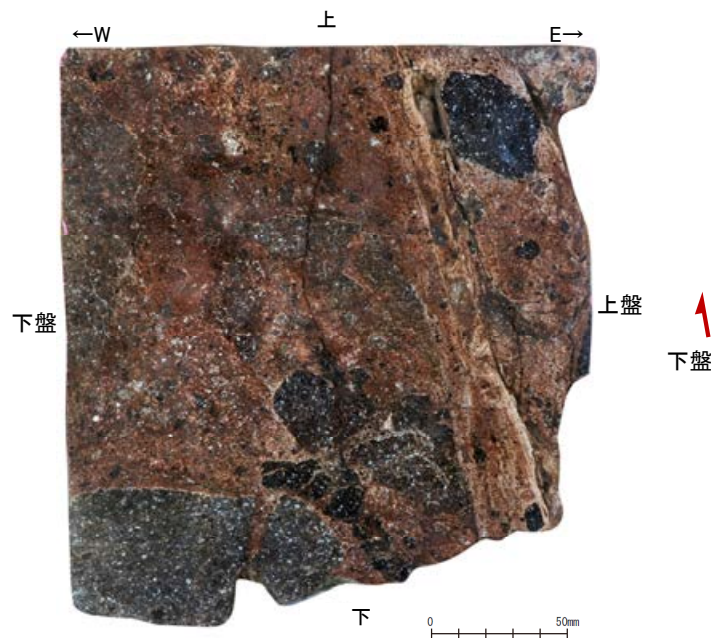
- ・破砕部は、全線が固結した破砕部のみからなる。
- ・固結した破砕部には、延性的に変形する構造が認められ、破砕部全体が岩石化している。

【研磨片観察】

- 研磨片観察の結果、主せん断面付近には、岩片が延性的に変形する構造が認められる(右拡大写真)。
- その延性的に変形する構造を引きずりとした場合、その引きずり方向から正断層センスの動きが認められる。



試料採取位置(K-2 a地点)

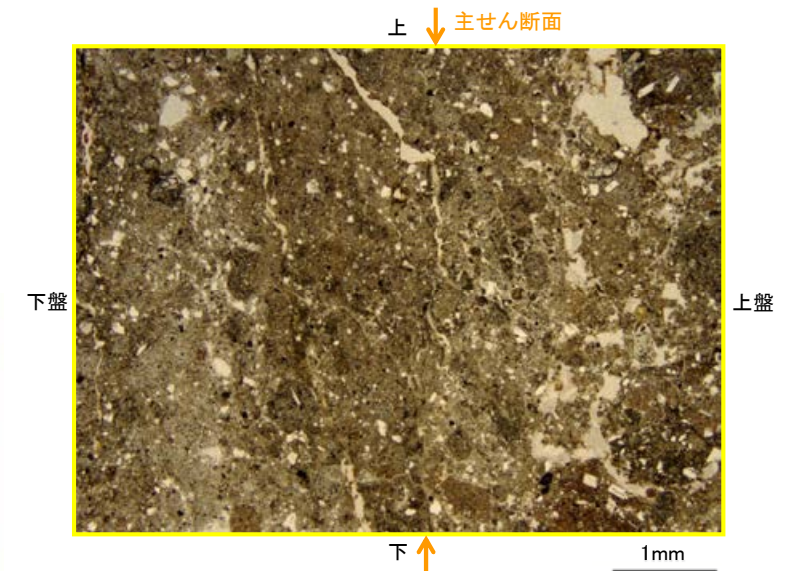
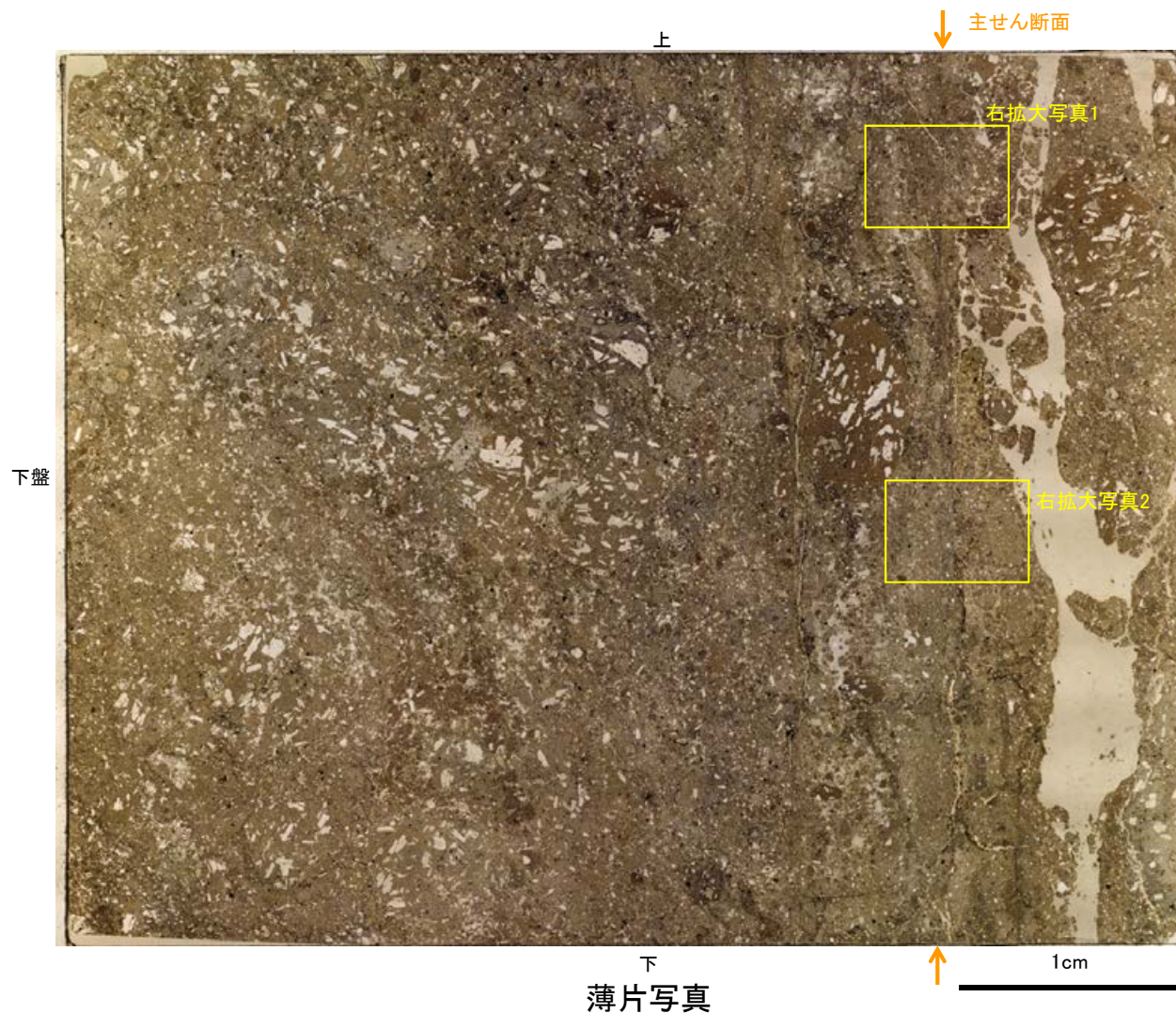


研磨片写真(右は変形構造を加筆)
(薄片は研磨片の反対面で作成)

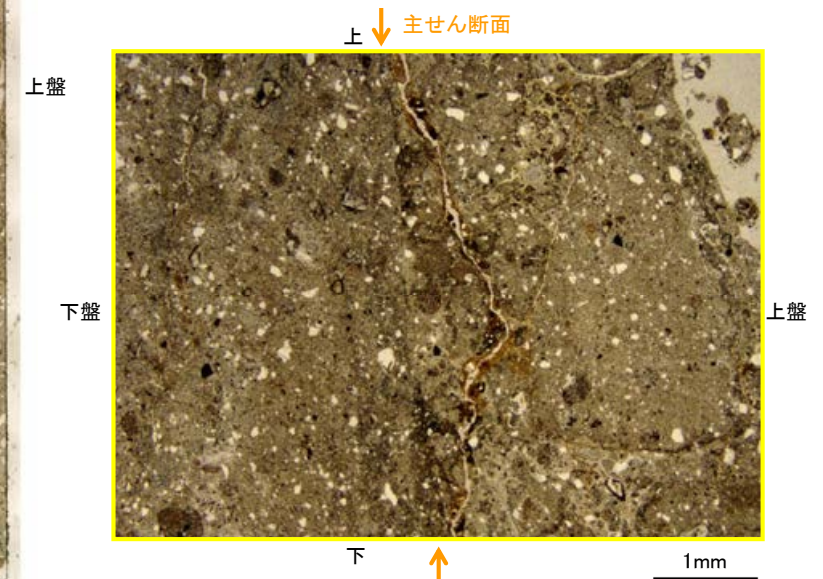
拡大写真(下は変形構造を加筆)

【薄片観察(単ニコル)】

- 薄片観察の結果, 研磨片で確認された主せん断面付近は, 周辺に比べて細粒なゾーンとして認められる(薄片写真)。
- 主せん断面には, 直線性・連続性のよい不連続面は認められない(拡大写真1)。また, 不明瞭な不連続面が認められる箇所においては, その不連続面は密着している(拡大写真2)。

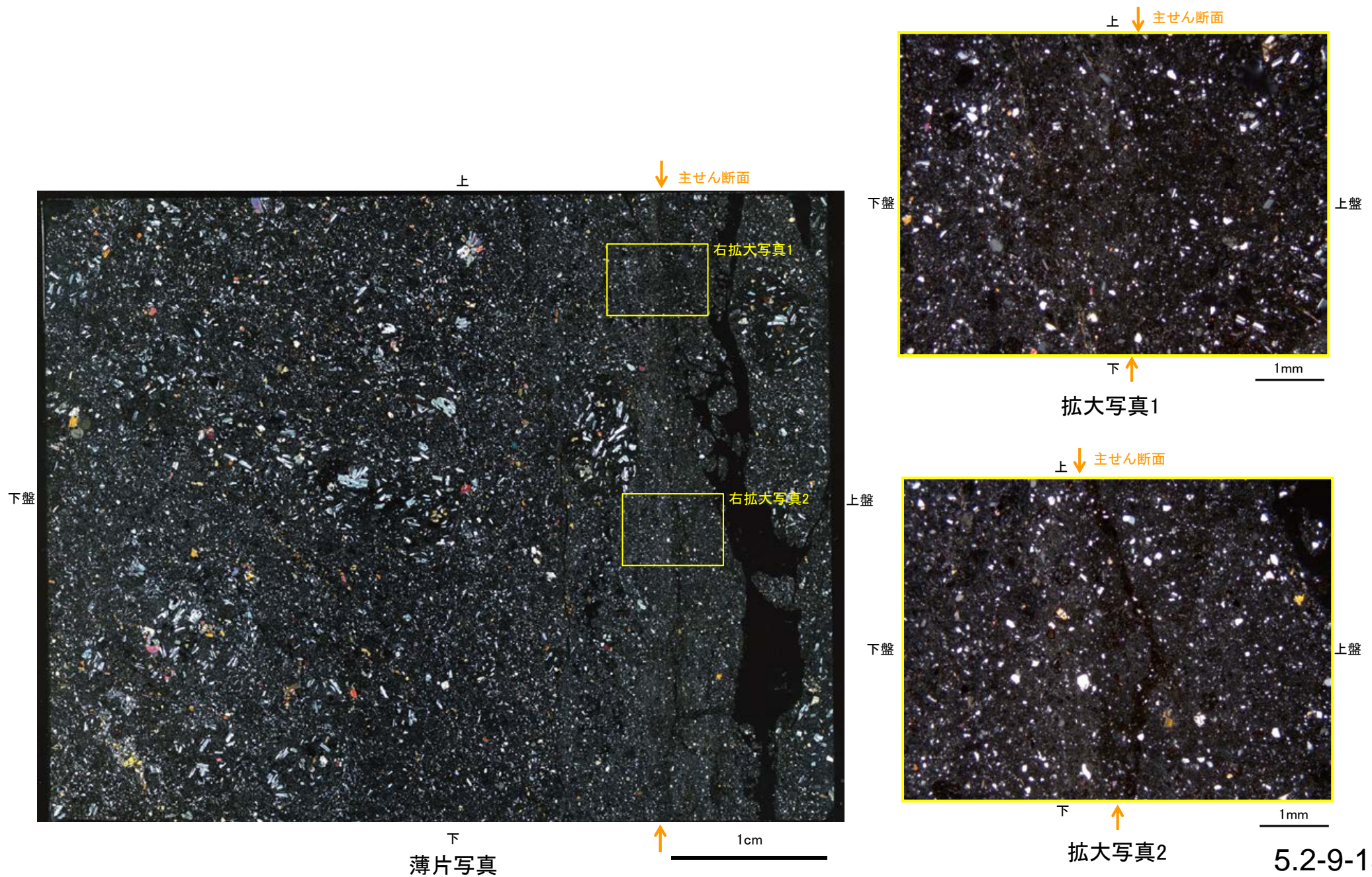


拡大写真1

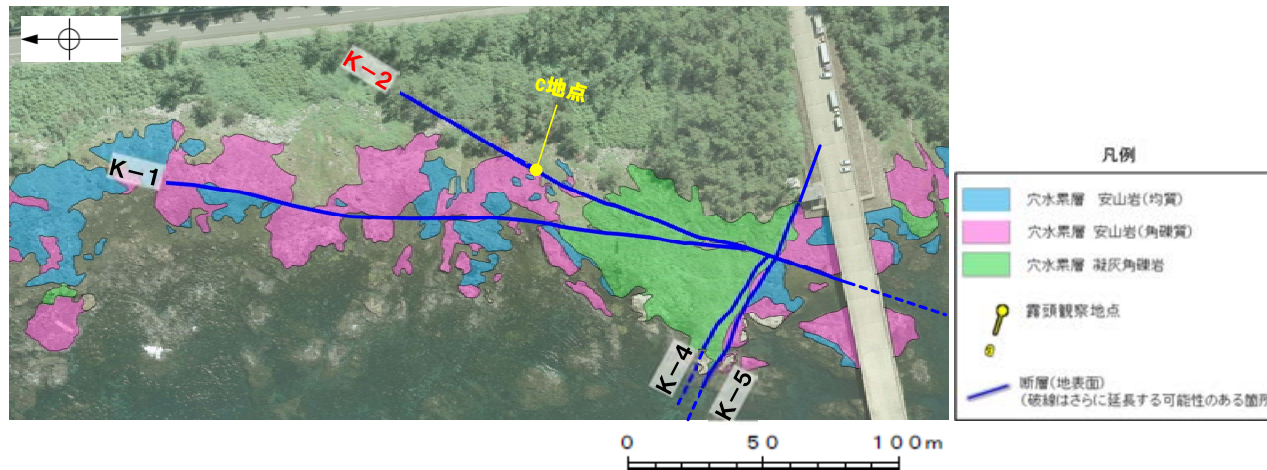


拡大写真2

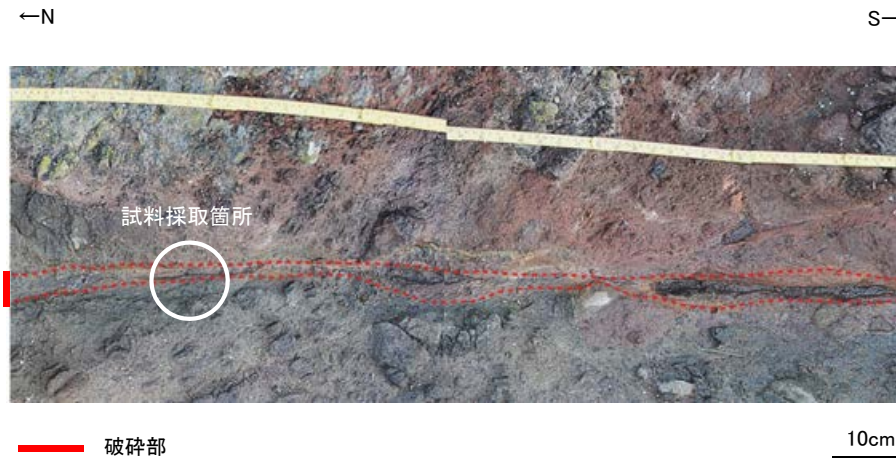
【薄片観察(直交ニコル)】



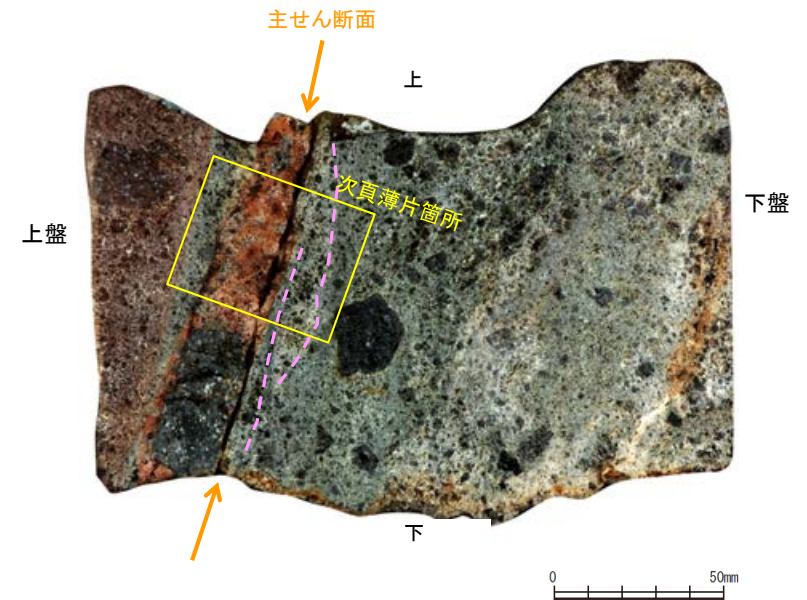
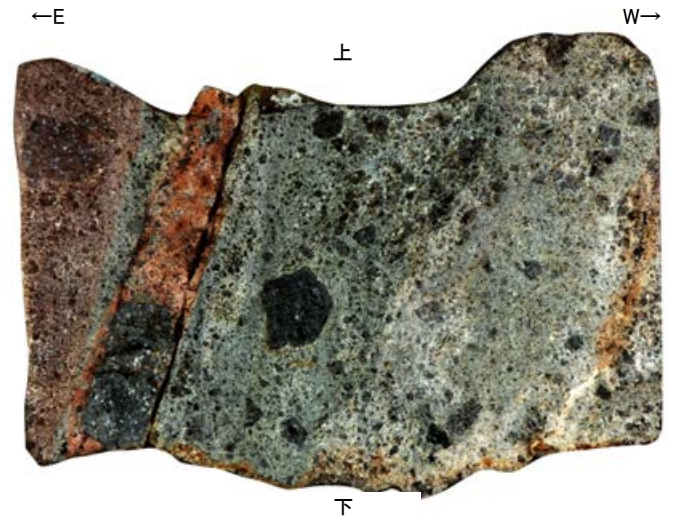
【研磨片観察】



調査位置図



試料採取位置(K-2 c地点)



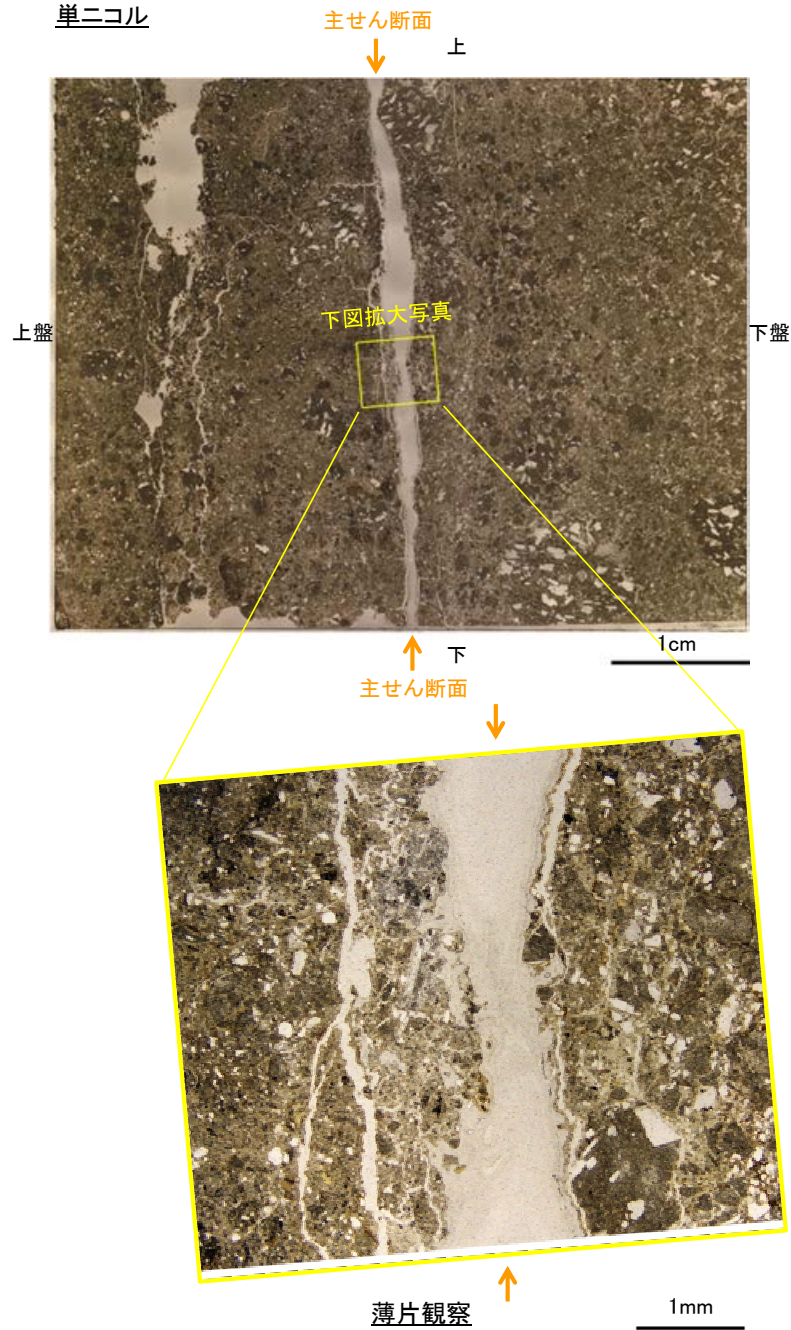
研磨片(下は変形構造を加筆)
(薄片は研磨片の反対面で作成)

変形構造(細粒岩片が延性的に変形)

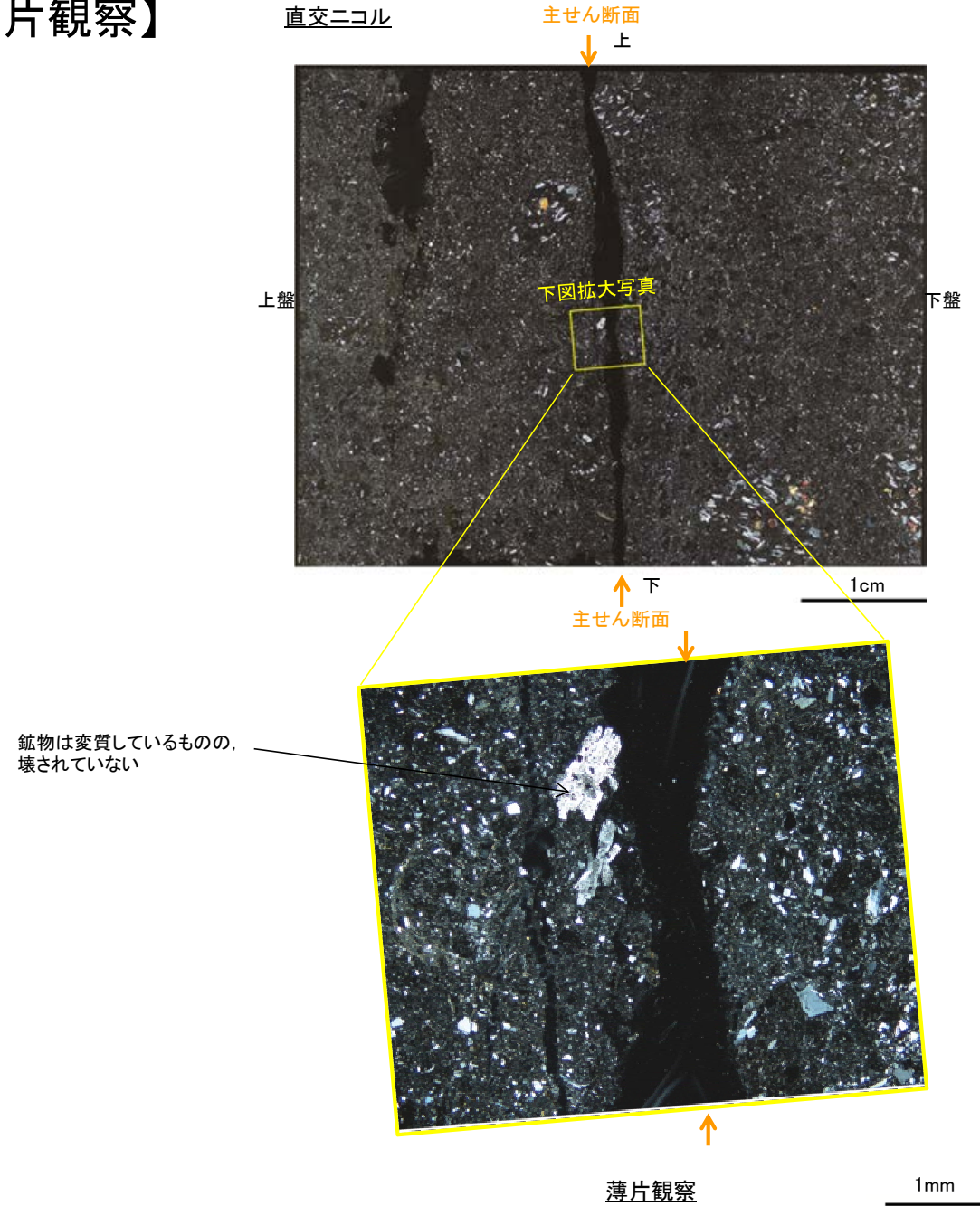
・研磨片観察の結果, 主せん断面付近には, 細粒な岩片が延性的に変形する構造が認められる。この構造は, 主せん断面にほぼ平行であり, 変位センスは不明。

【薄片観察】

単ニコル



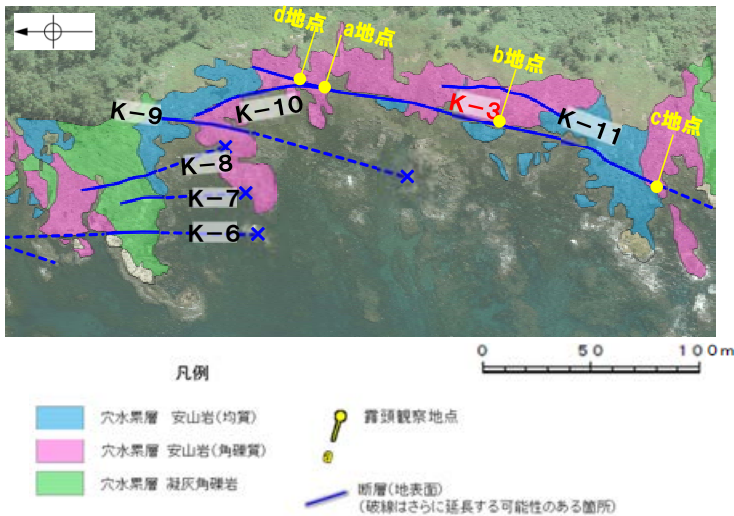
直交ニコル



・薄片観察の結果、主せん断面は、採取時の二次的な割れ目の影響により、充填剤が入り込んでいるものの、その付近の鉱物は壊されずに残っている箇所もある。

(3) K-3露頭

○露頭観察の結果、K-3の破碎部は、全線が固結した破碎部のみからなる。固結した破碎部には、延性的に変形する構造(次頁、次々頁)が認められ、破碎部全体が岩石化している(右下写真)。



調査位置図



K-3
a地点 遠景写真

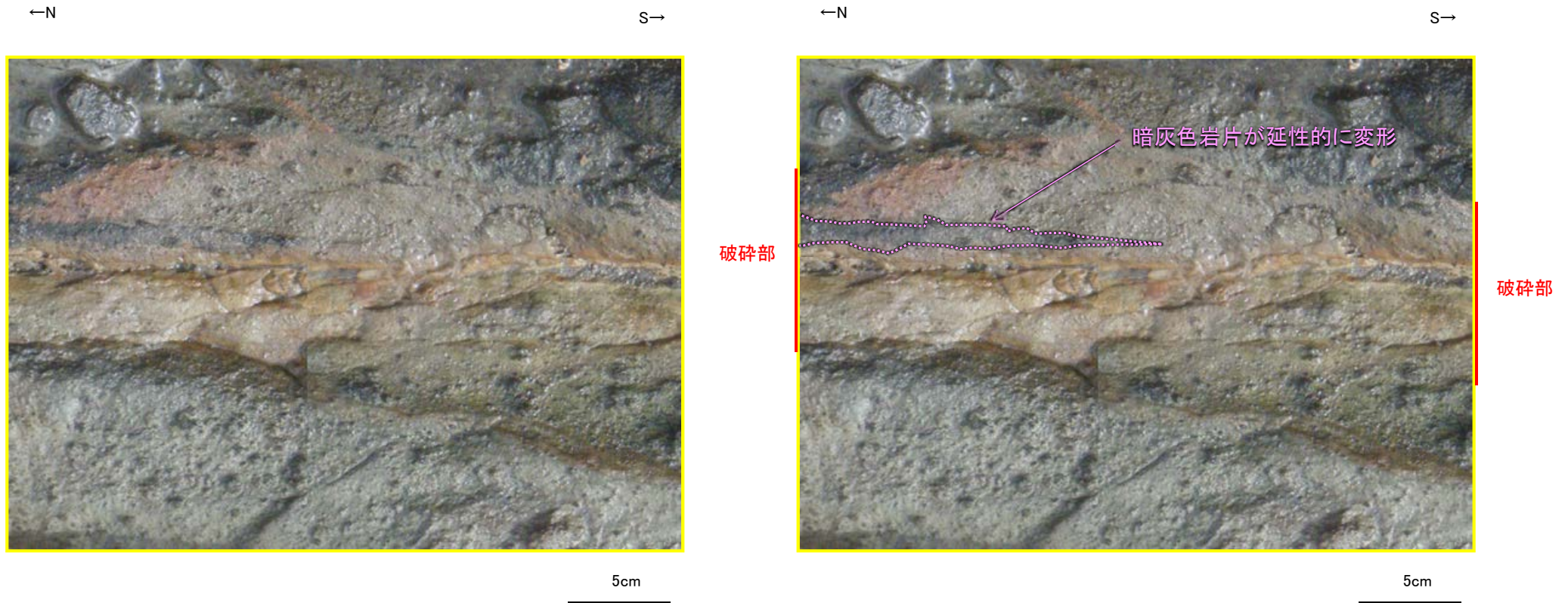


破碎部

a地点 破碎部の状況写真(下は破碎部を加筆)

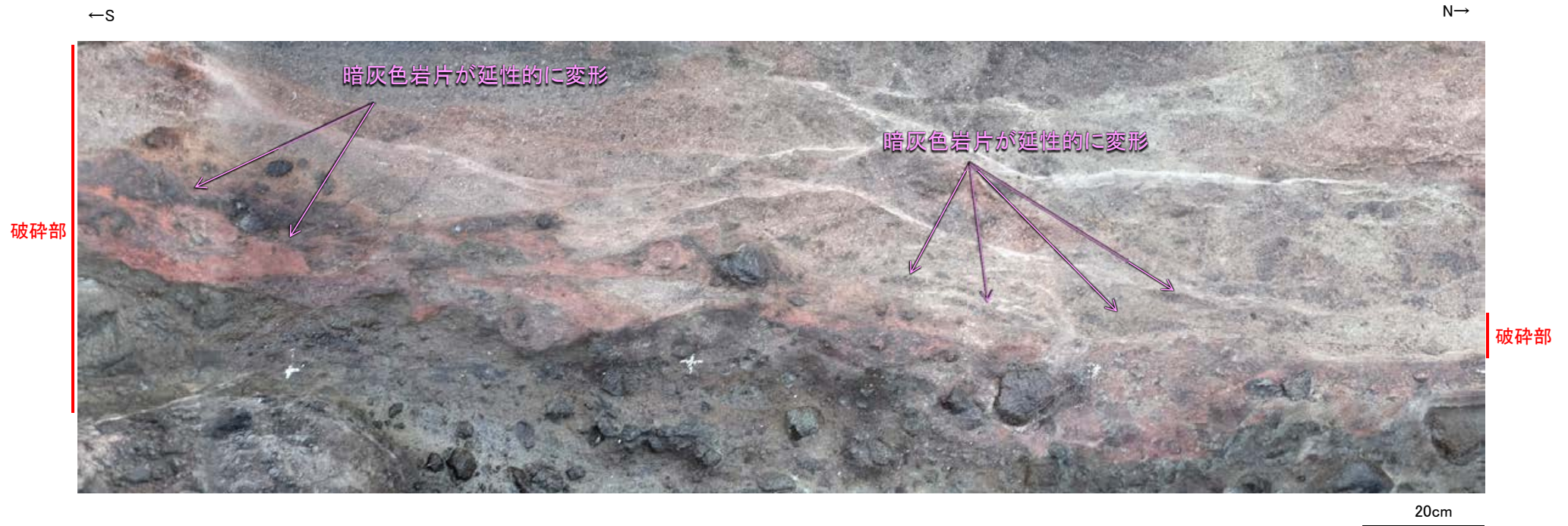
10cm

【a地点 破碎部中に認められる変形構造の例①】



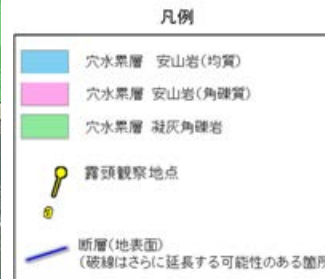
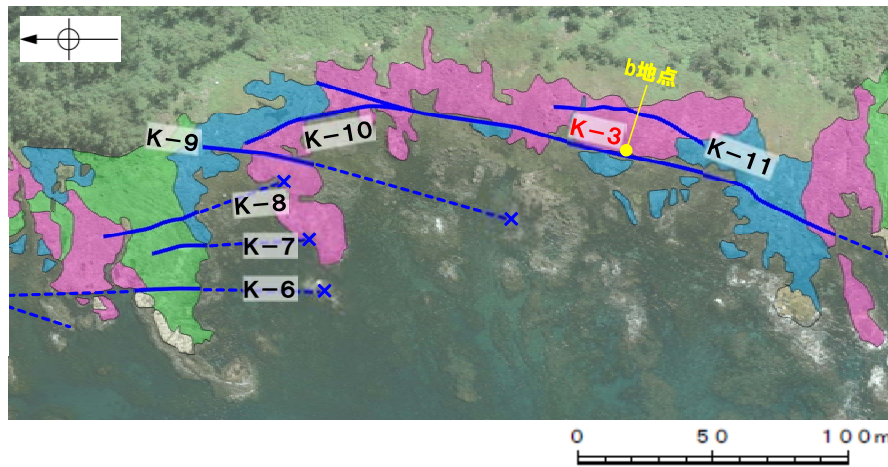
前頁a地点 拡大写真
(右は変形構造を加筆)

【d地点 破碎部中に認められる変形構造の例②】



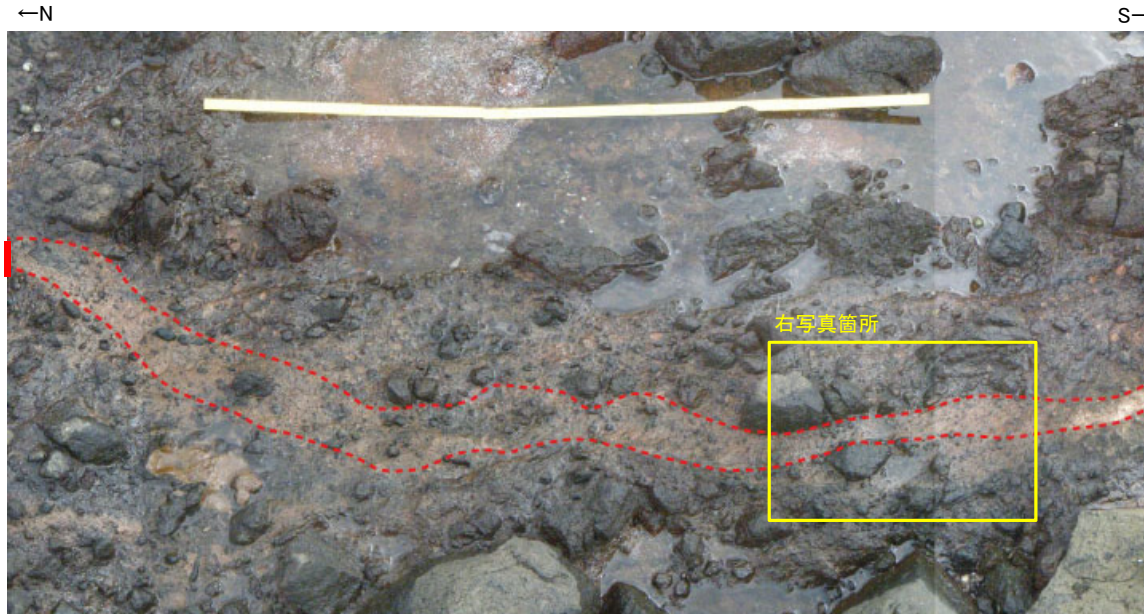
d地点 写真

【b地点 破砕部の状況】



K-3

b地点 遠景写真



破砕部

b地点 破砕部の状況写真

10cm

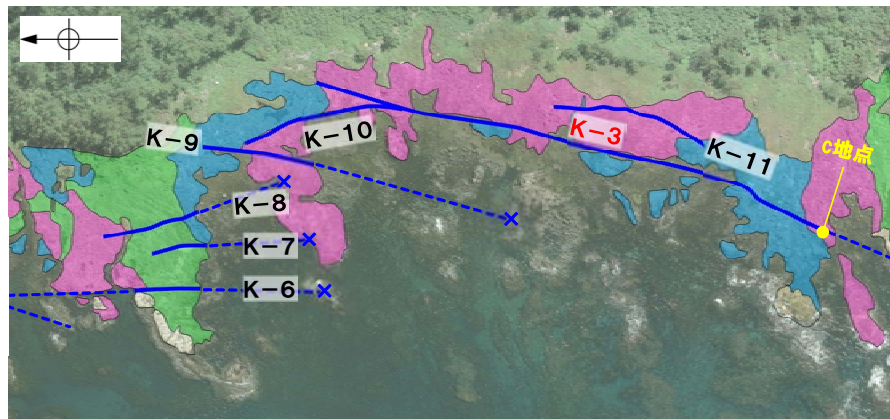


拡大写真

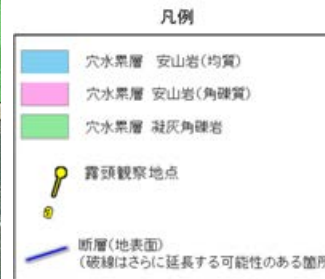
破砕部は全線が
固結した破砕部の
みからなる。
全体が岩石化して
いる。

- ・破砕部は、全線が固結した破砕部のみからなる。
- ・固結した破砕部は、破砕部全体が岩石化している。

【c地点 破砕部の状況】



調査位置図



c地点 遠景写真



破砕部

c地点 破砕部の状況写真

10cm



拡大写真

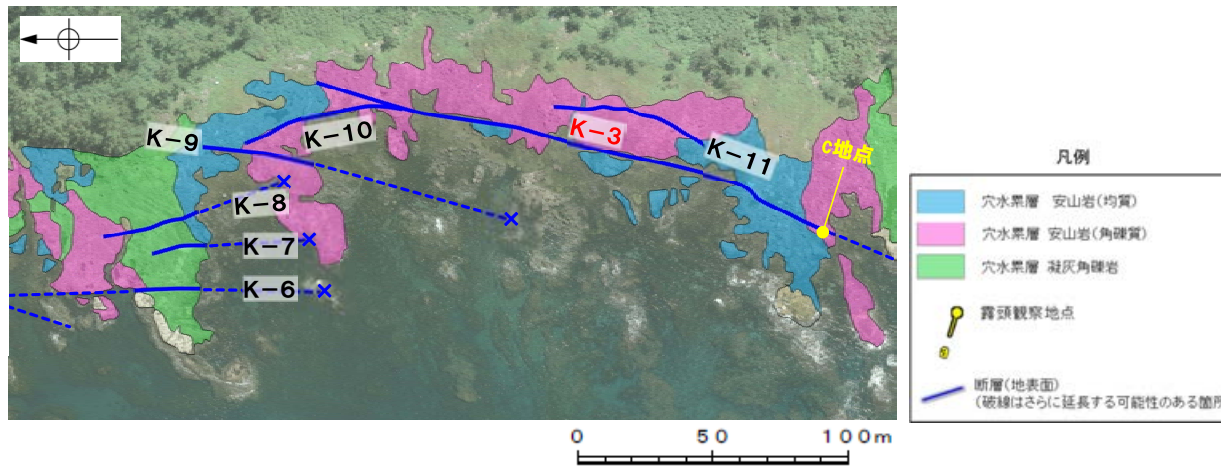
5cm

破砕部は全線が
固結した破砕部の
みからなる。
全体が岩石化して
いる。

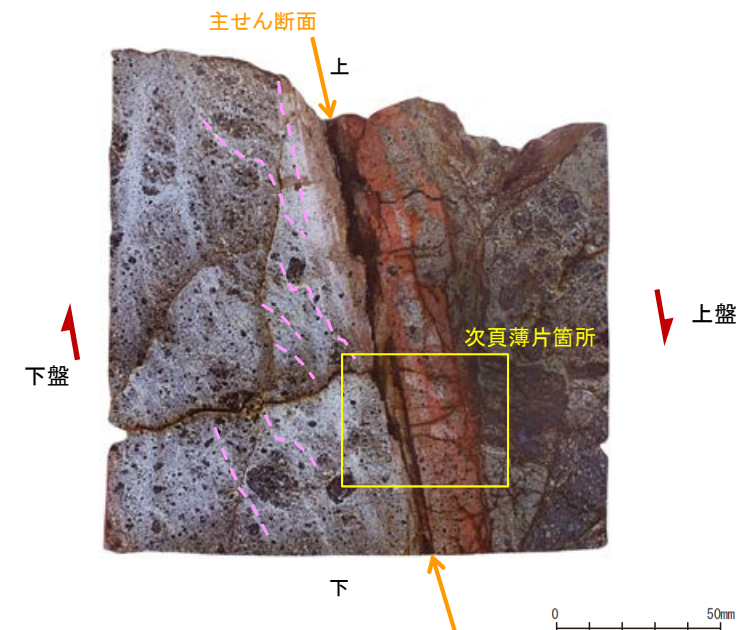
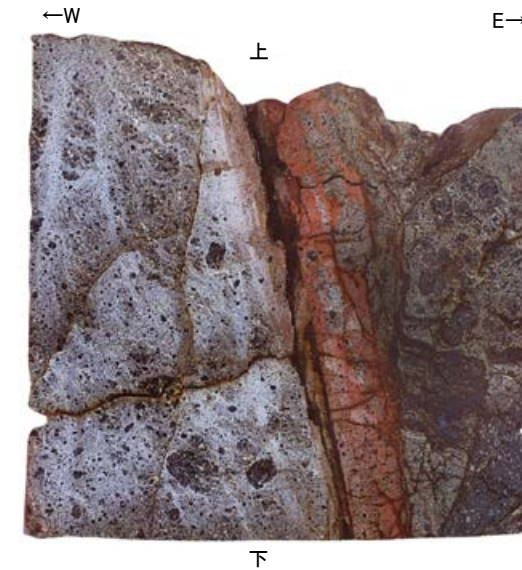
細粒部が延性的に変形

- ・破砕部は、全線が固結した破砕部のみからなる。
- ・固結した破砕部には、延性的に変形する構造が認められ、破砕部全体が岩石化している。

【研磨片観察】



試料採取位置(K-3 c地点)



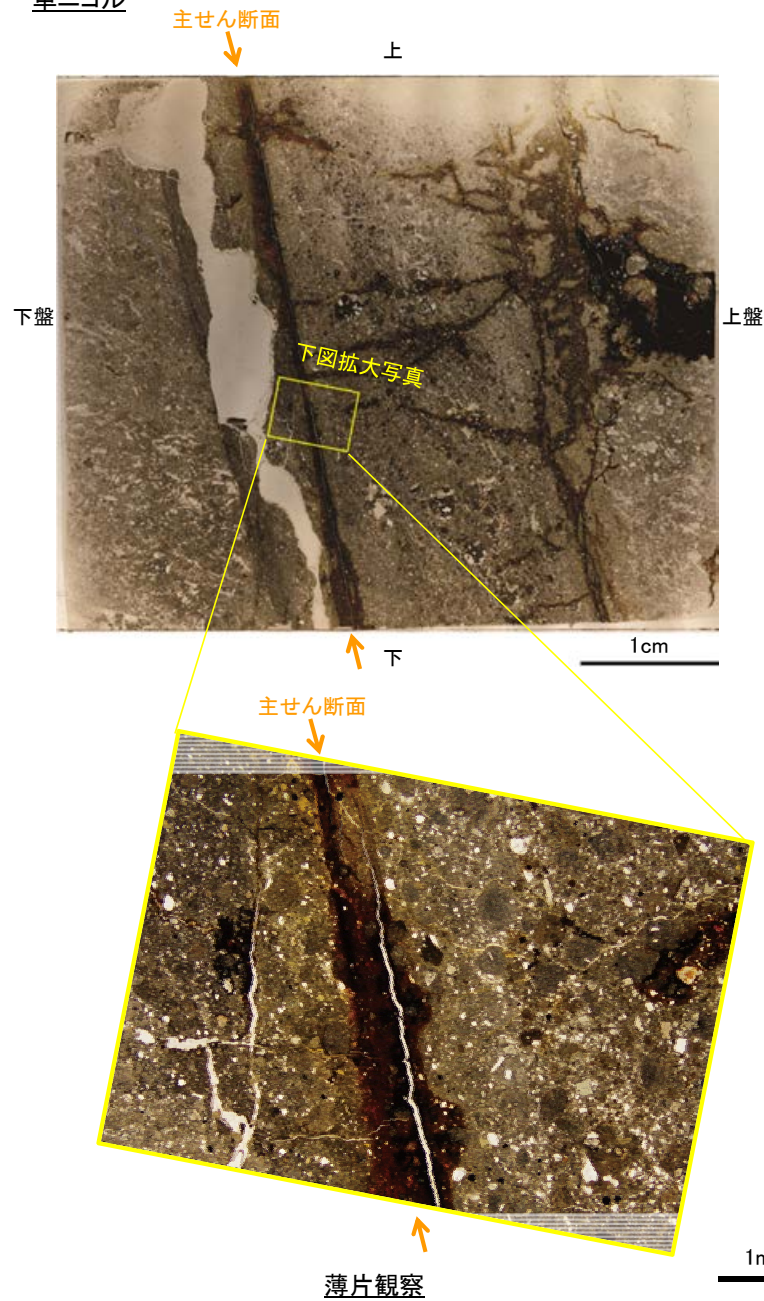
研磨片(下は変形構造を加筆)
(薄片は研磨片の反対面で作成)

変形構造(細粒な岩片や灰白色細粒部が延性的に変形)

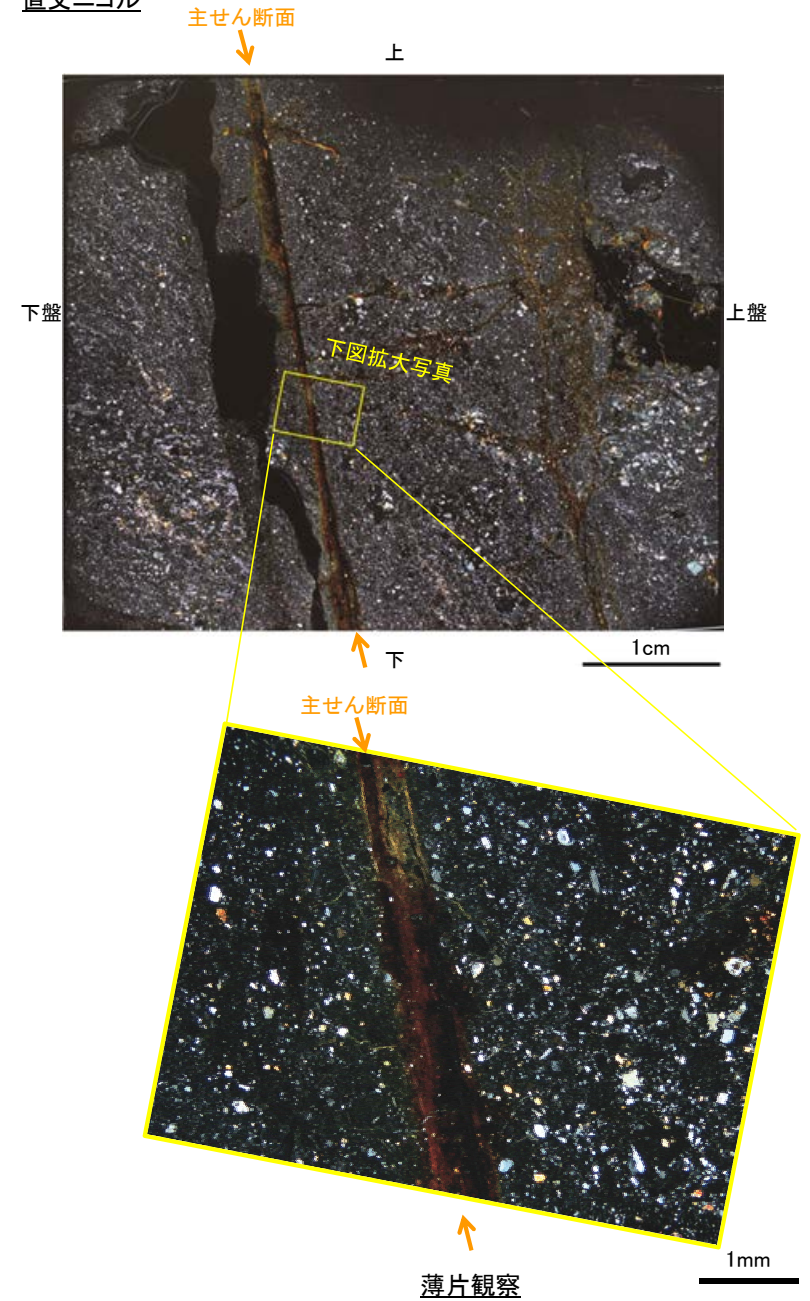
- ・研磨片観察の結果、主せん断面付近には、細粒な岩片や灰白色細粒部が延性的に変形する構造が認められる。
- ・延性的に変形する構造を引きずりとした場合、その引きずり方向から正断層センスの動きが認められる。

【薄片観察】

単ニコル



直交ニコル



- ・薄片観察の結果、研磨片で確認された主せん断面付近は、周辺に比べて細粒なゾーンとして認められる。
- ・主せん断面は、褐色化の影響により面全体が不明瞭になっているものの、全体が密着している。

余白

補足資料5. 2－10

鉍物脈法等に関する調査結果(K-14)

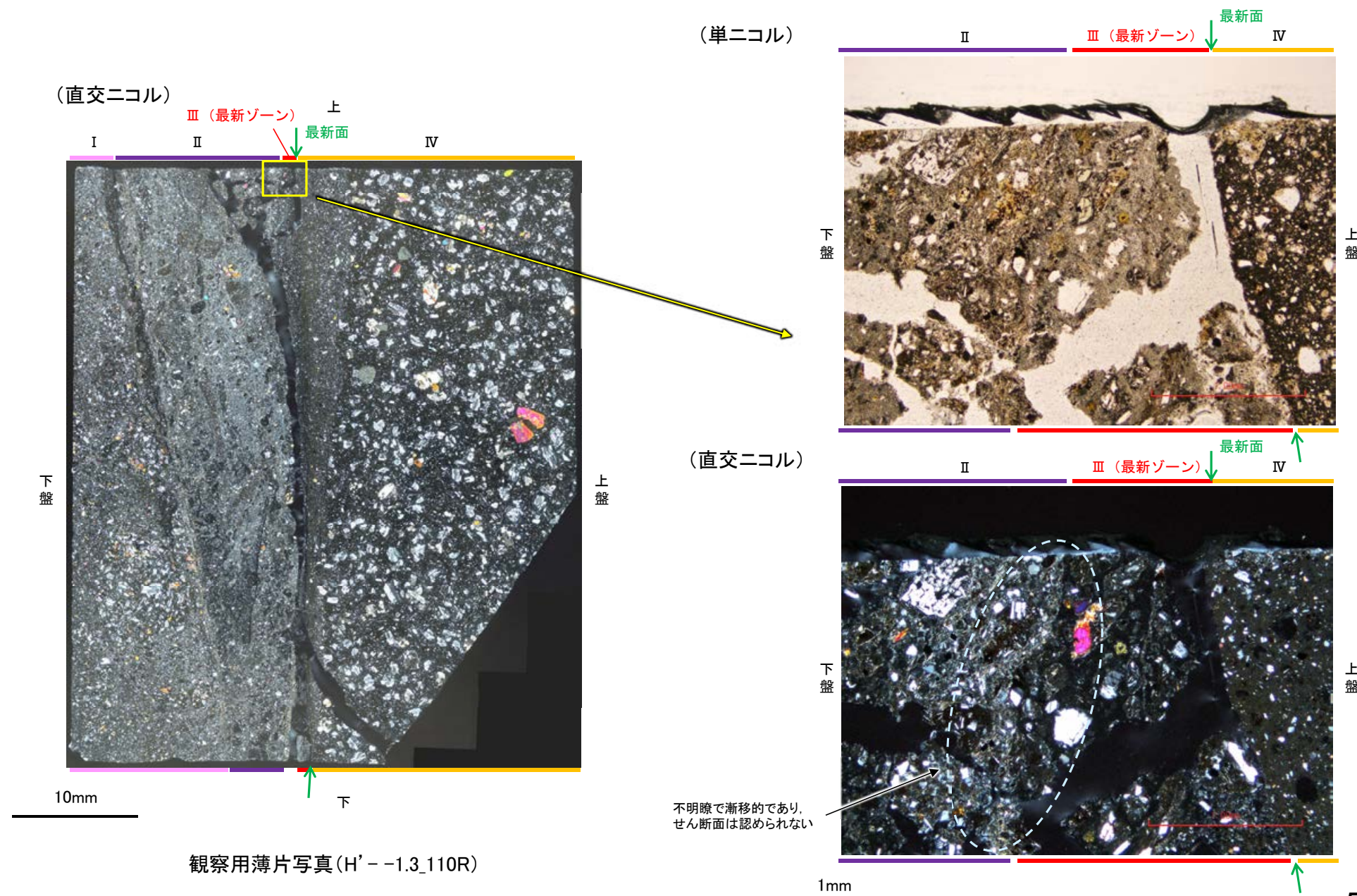
(1) 薄片觀察

(1)-1 H' - -1.3孔

H' - -1.3孔 ー最新ゾーンと分帯Ⅱとの境界(微視的観察)ー

コメントNo.85の回答

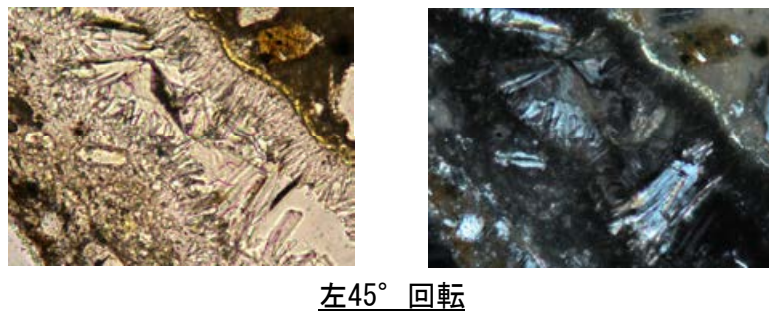
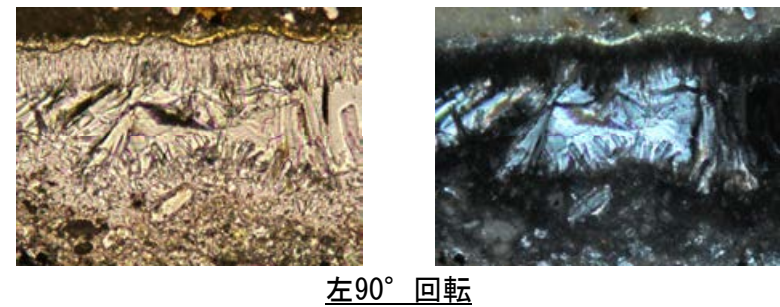
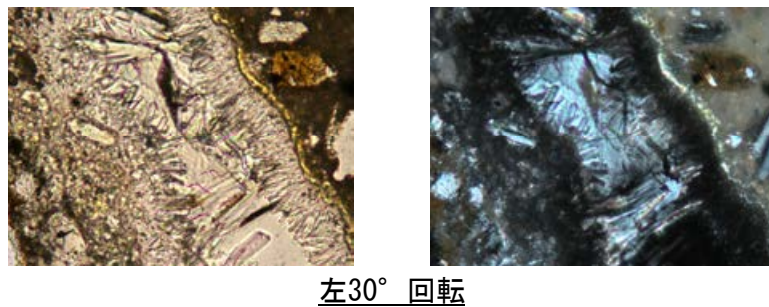
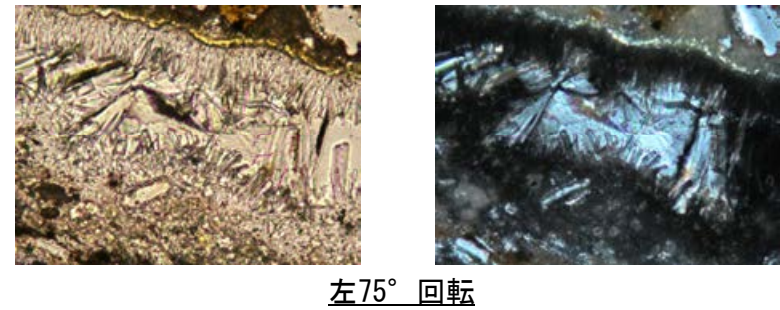
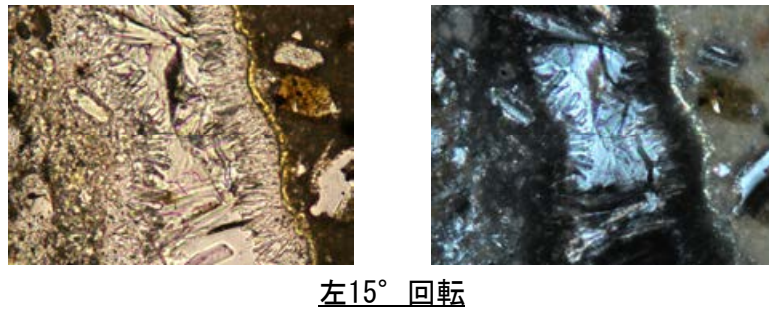
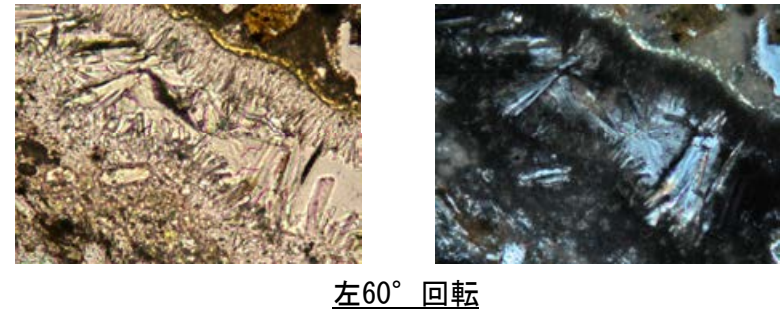
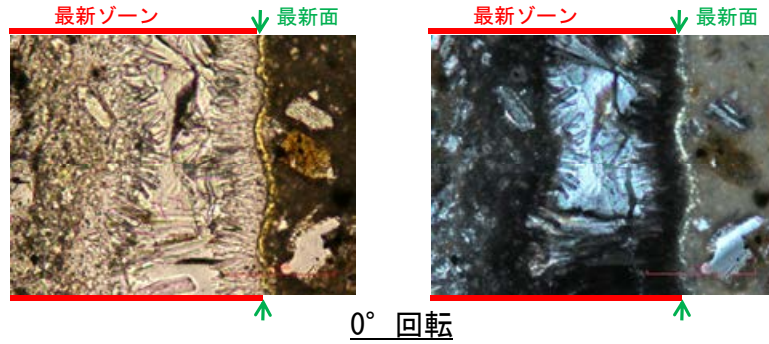
○観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 最新ゾーンと分帯Ⅱとの境界は不明瞭で漸移的であり, せん断面は認められない。



5.2-10-4

H' - -1.3孔 ステージ回転写真(範囲A) -

○本資料P.85の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



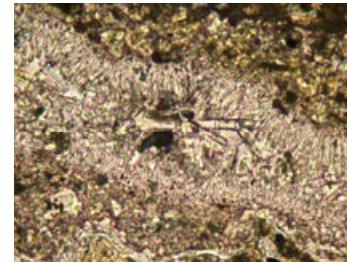
0.1mm

H' - -1.3孔　ーステージ回転写真(範囲B) -

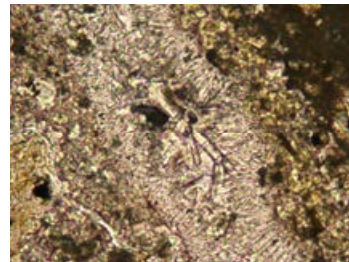
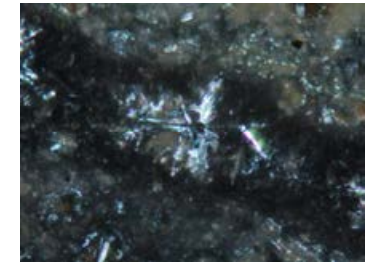
○本資料P.87の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



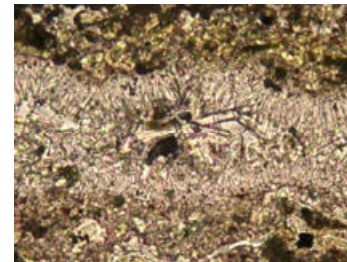
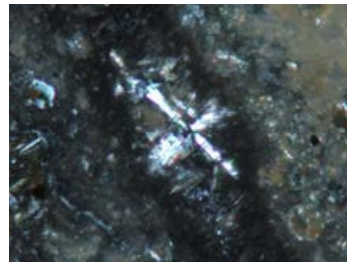
0° 回転



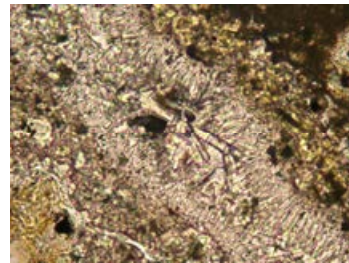
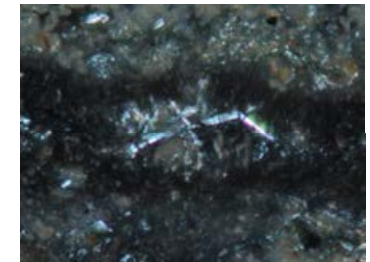
左60° 回転



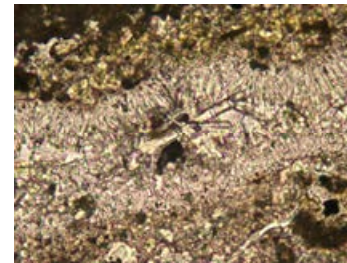
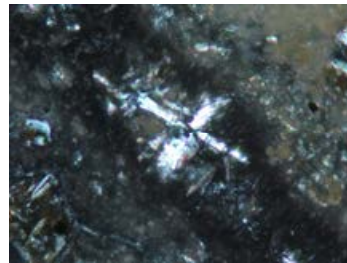
左15° 回転



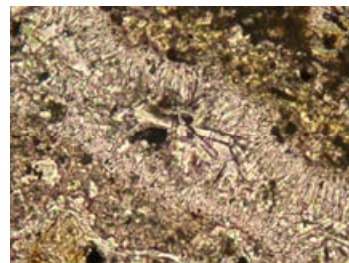
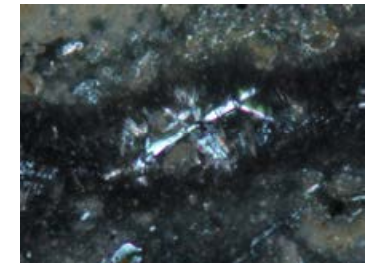
左75° 回転



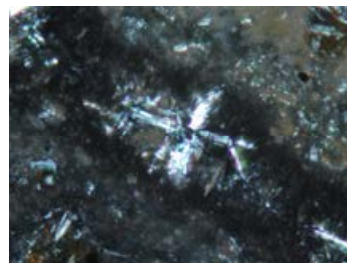
左30° 回転



左90° 回転



左45° 回転



0.1mm

◀… : 延長位置

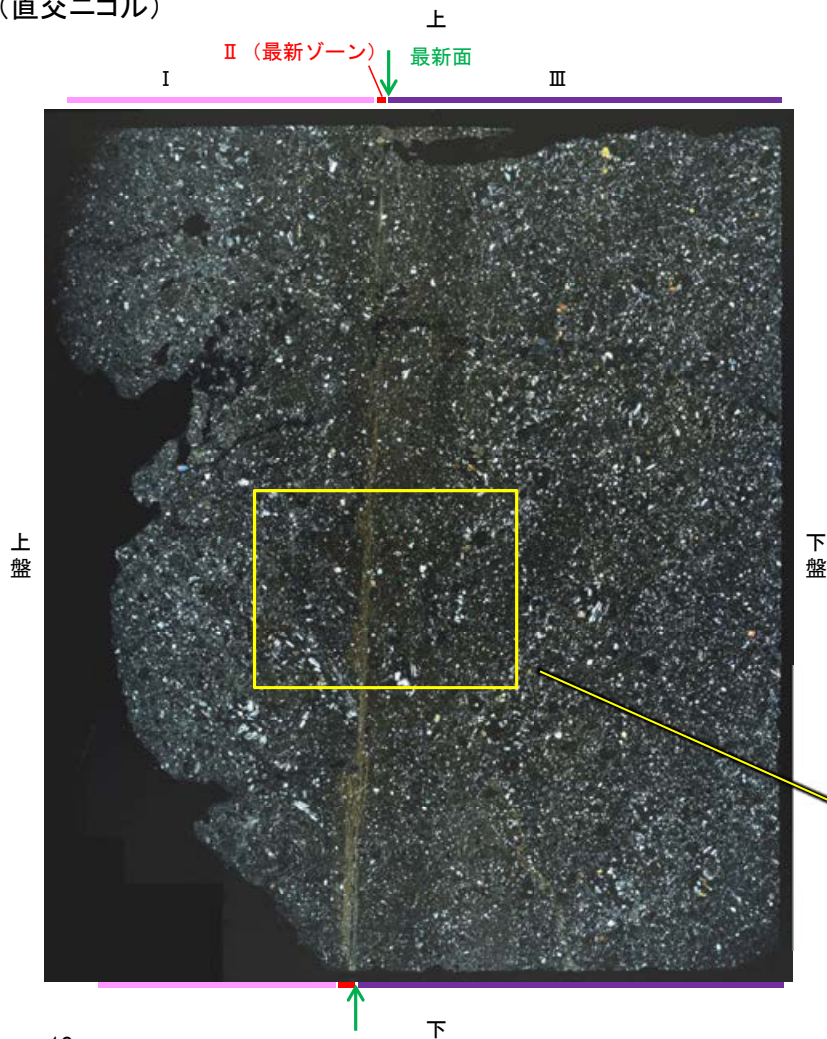
(1)-2 H- -0.3-80孔

H- -0.3-80孔 ー最新ゾーンと分帯 I との境界(微視的観察)ー

コメントNo.85の回答

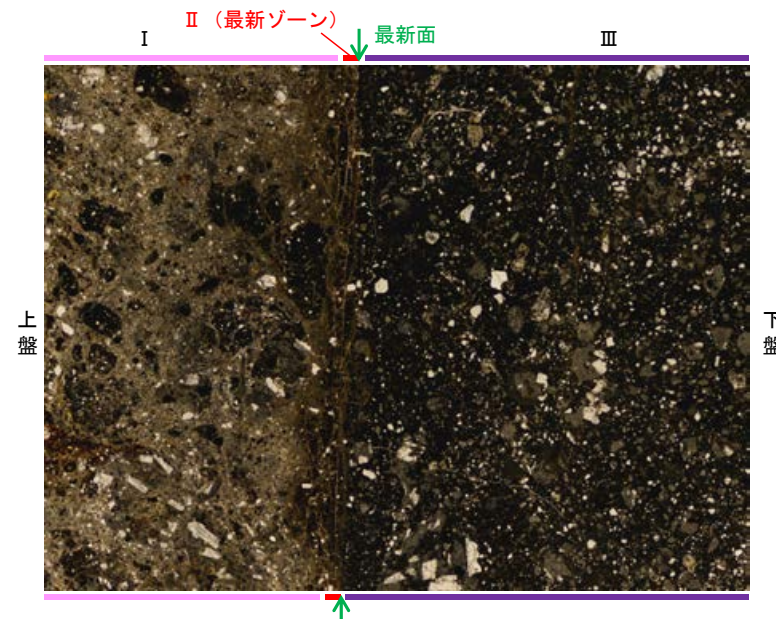
○観察用薄片で実施した微視的観察(薄片観察)の結果, 最新ゾーンと分帯 I との境界は不明瞭で漸移的であり, せん断面は認められない。

(直交ニコル)

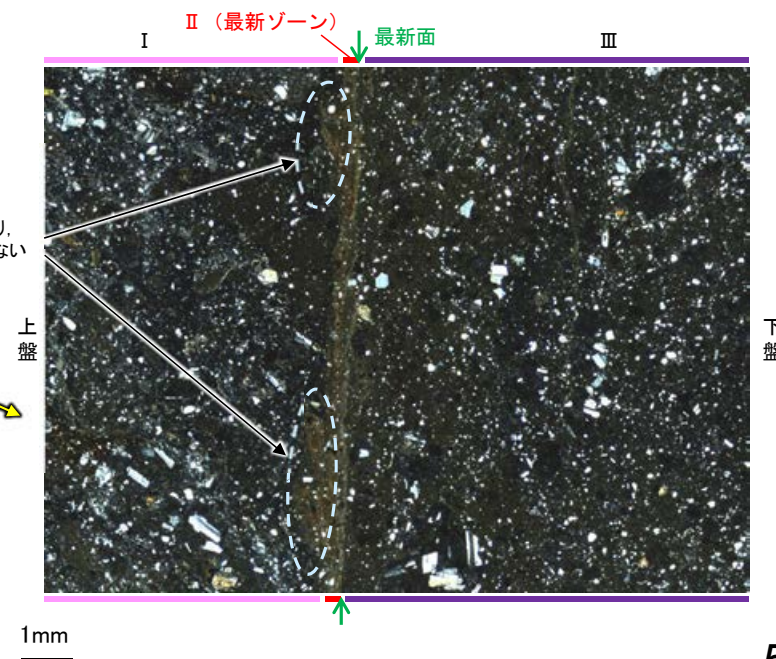


観察用薄片写真(H- -0.3-80_107R)

(単ニコル)



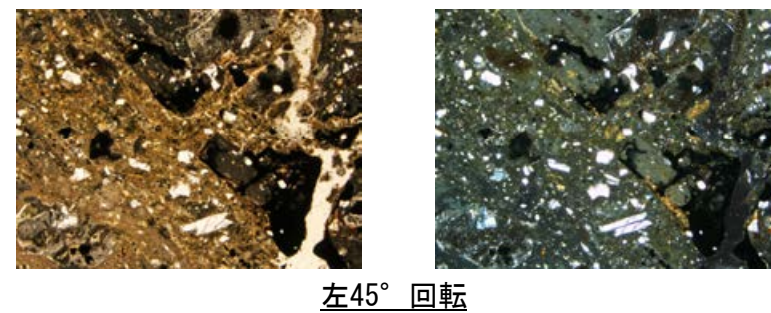
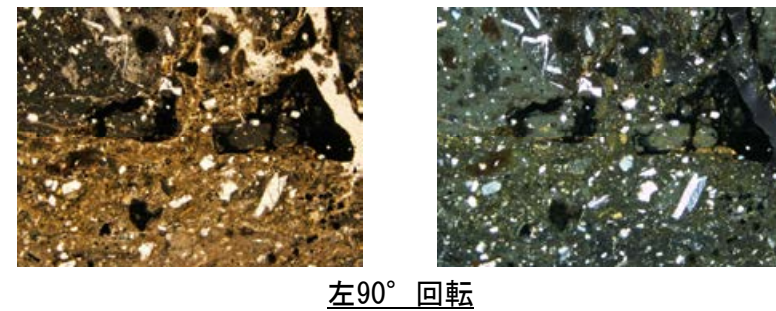
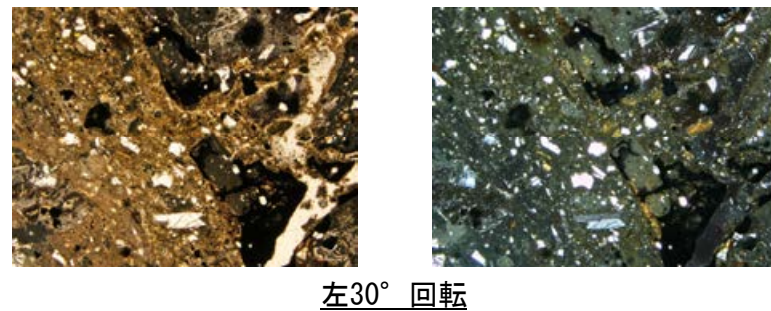
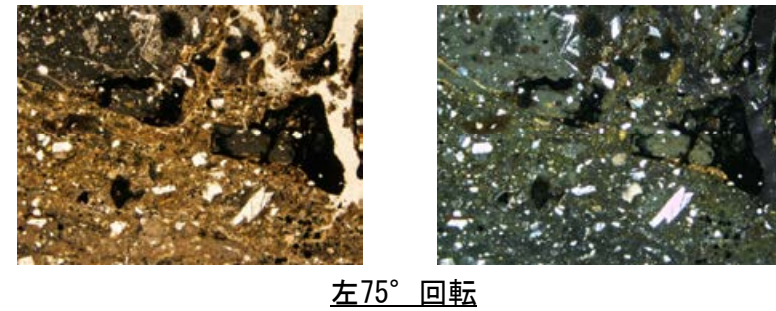
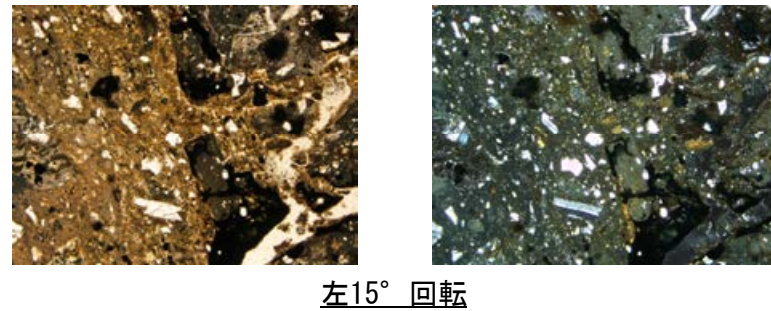
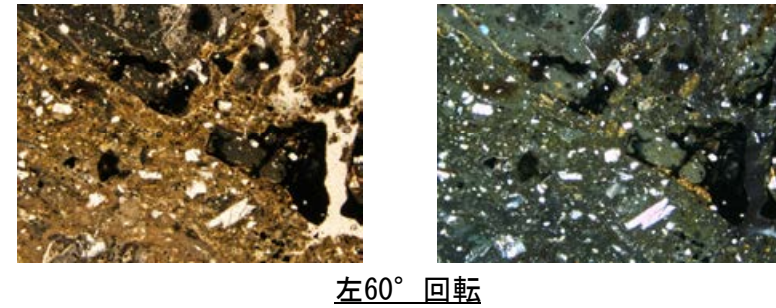
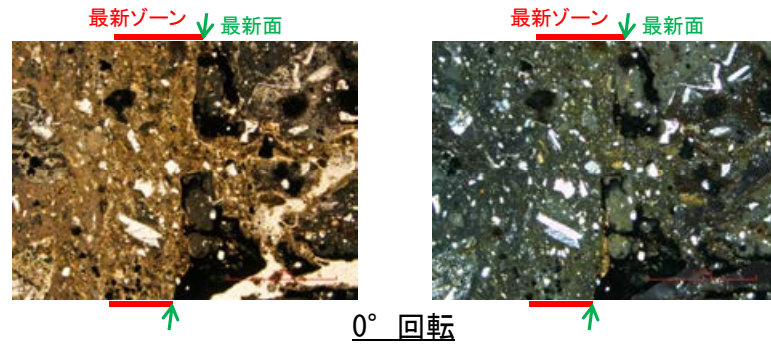
(直交ニコル)



不明瞭で漸移的であり,
せん断面は認められない

H- -0.3-80孔 ステージ回転写真(範囲A) -

○本資料P.97の薄片写真を15° 刻みでステージ回転させたものを以下に示す。



1mm

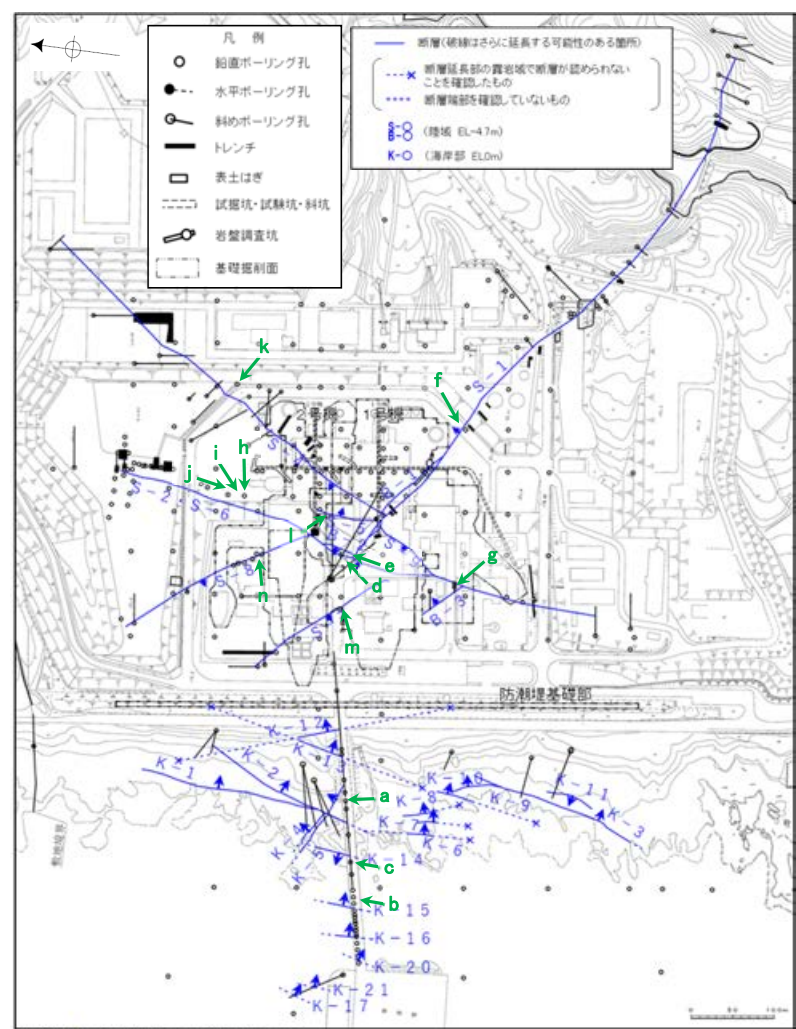
余白

補足資料5. 2－11

鉍物脈法等に関する調査結果（鉍物組成，運動方向）

(1) X線回折分析結果

試料採取位置



矢印(➡)の向きは断層の傾斜方向を示す

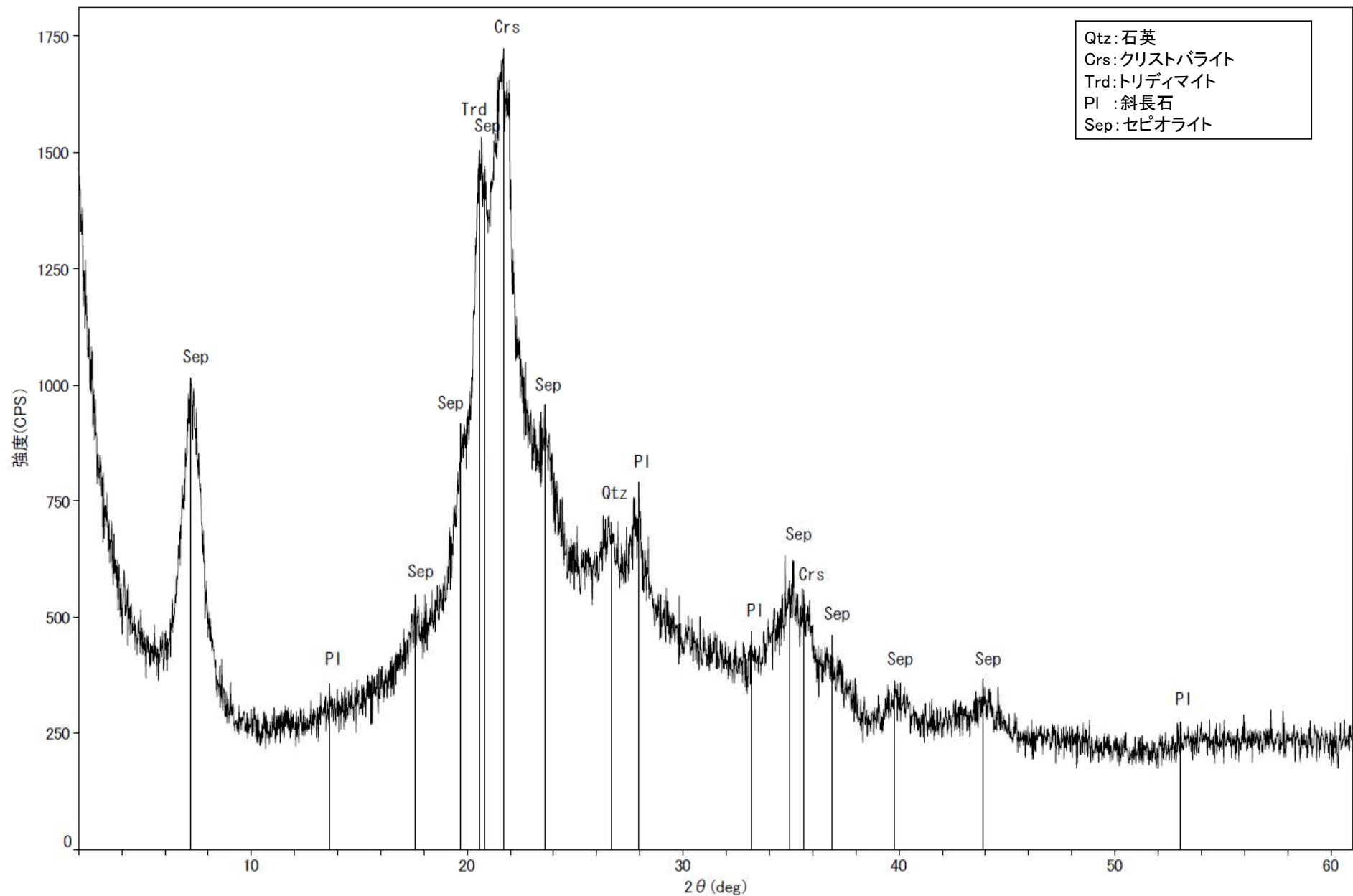
➡ 試料採取位置

試料採取位置図

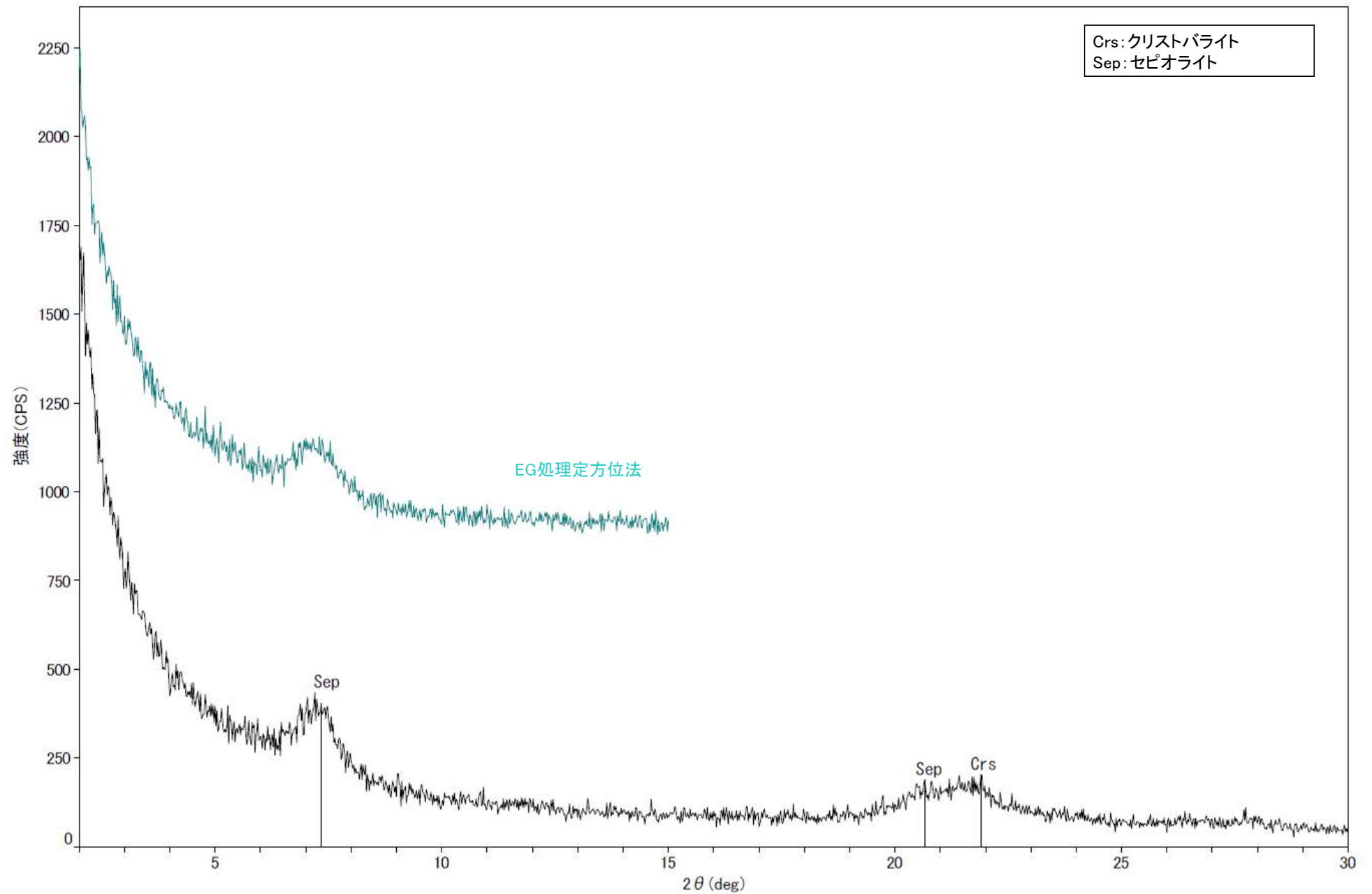
試料採取位置			
採取位置（左位置図）		深度	標高
a	H-1.1孔	103.62m	EL -96.84m
b	H'- -1.3孔	125.58m	EL -121.91m
c	H- -0.3-80孔	31.65m	EL -27.48m
d	H-6.6-1孔	57.25m	EL -37.95m
e	H-6.5-2孔	70.70m	EL -49.50m
f	K-10.3SW孔	27.81m	EL -6.17m
g	K-6.2-2孔	30.94m	EL -19.45m
h	F-8.5' 孔	8.50m	EL 12.63m
i	E-8.5-2孔	8.55m	EL 12.66m
j	E-8.60孔	104.68m	EL -35.91m
k	E-11.1SE-2孔	1.65m	EL 19.72m
l	R-8.1-1-3孔	22.24m	EL -11.12m
m	H-5.7' 孔	14.35m	EL -3.26m
n	F-6.75孔	26.85m	EL -15.76m

XRD分析 測定諸元
装置: Rigaku RINT2500V
Target: Cu (K α)
Voltage: 40kV
Detector: SC
Divergence Slit: 0.5°
Receiving Slit: 0.15mm
Step size: 0.02°

粘土状破碎部 K-2 H-1.1孔 ―X線回折チャート 不定方位―

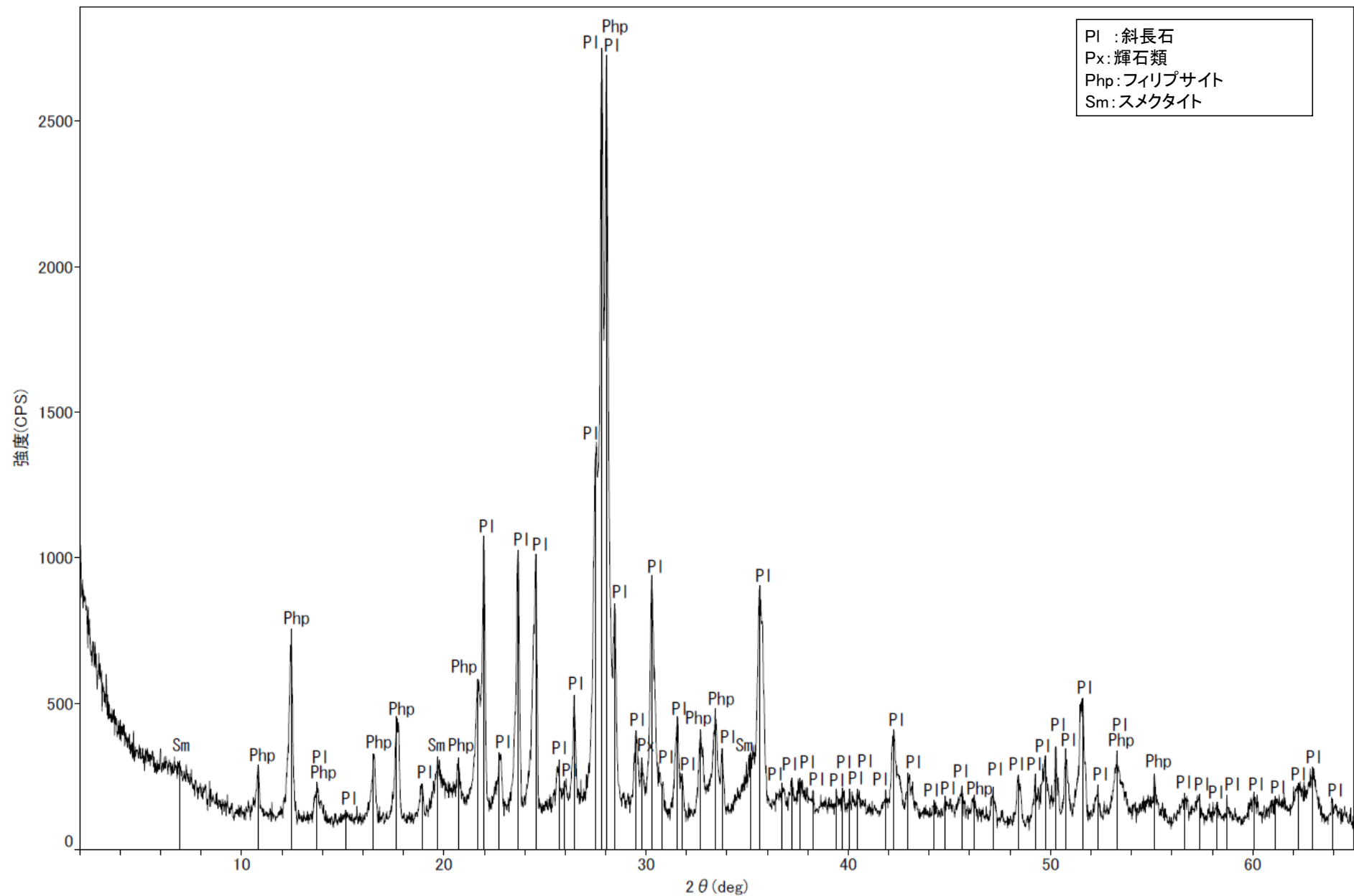


回折チャート



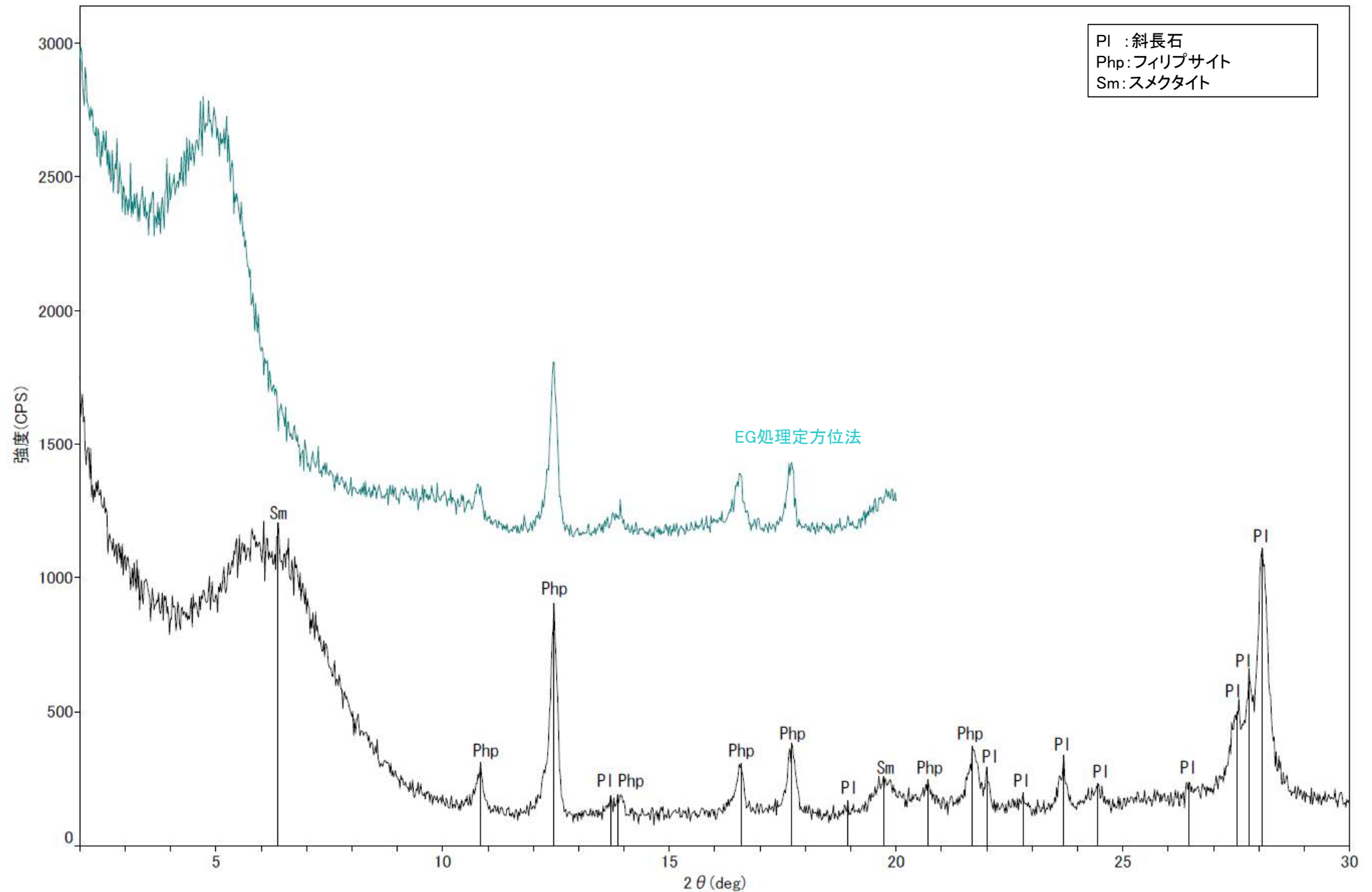
回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

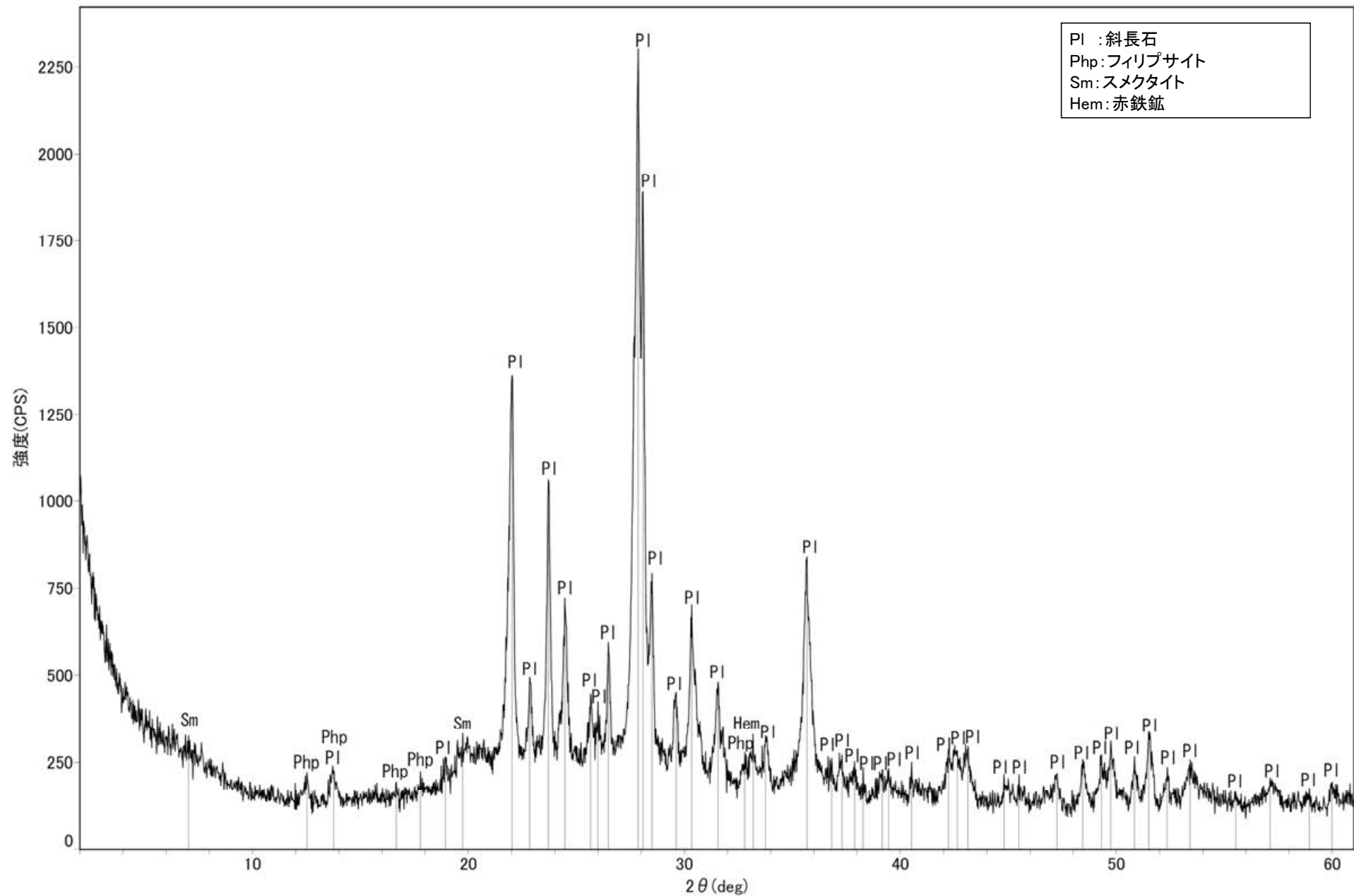
粘土状破砕部 K-14 H' - -1.3孔 -X線回折チャート 不定方位-



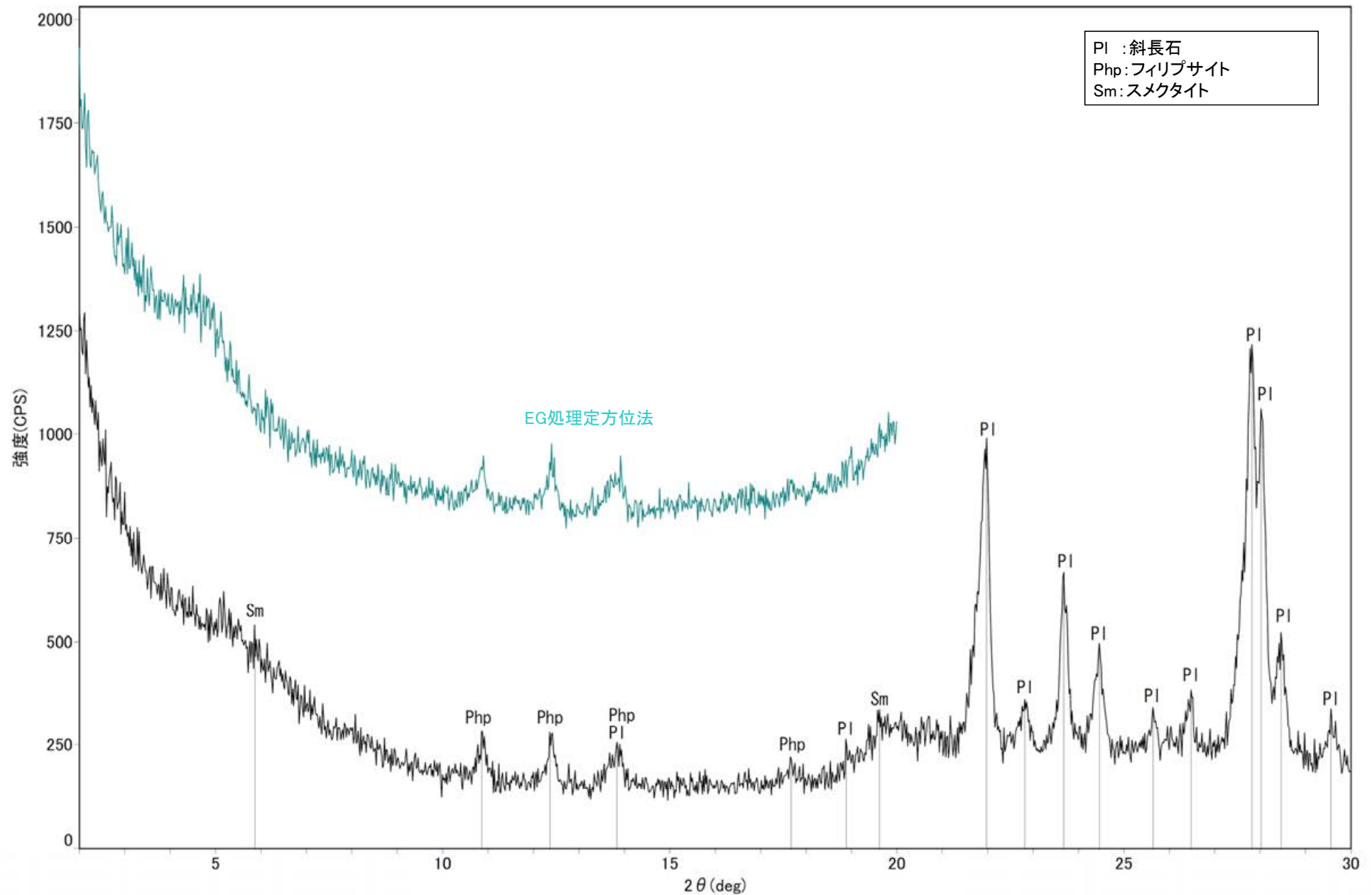
回折チャート

粘土状破砕部 K-14 H' - -1.3孔 -X線回折チャート 定方位 EG処理-



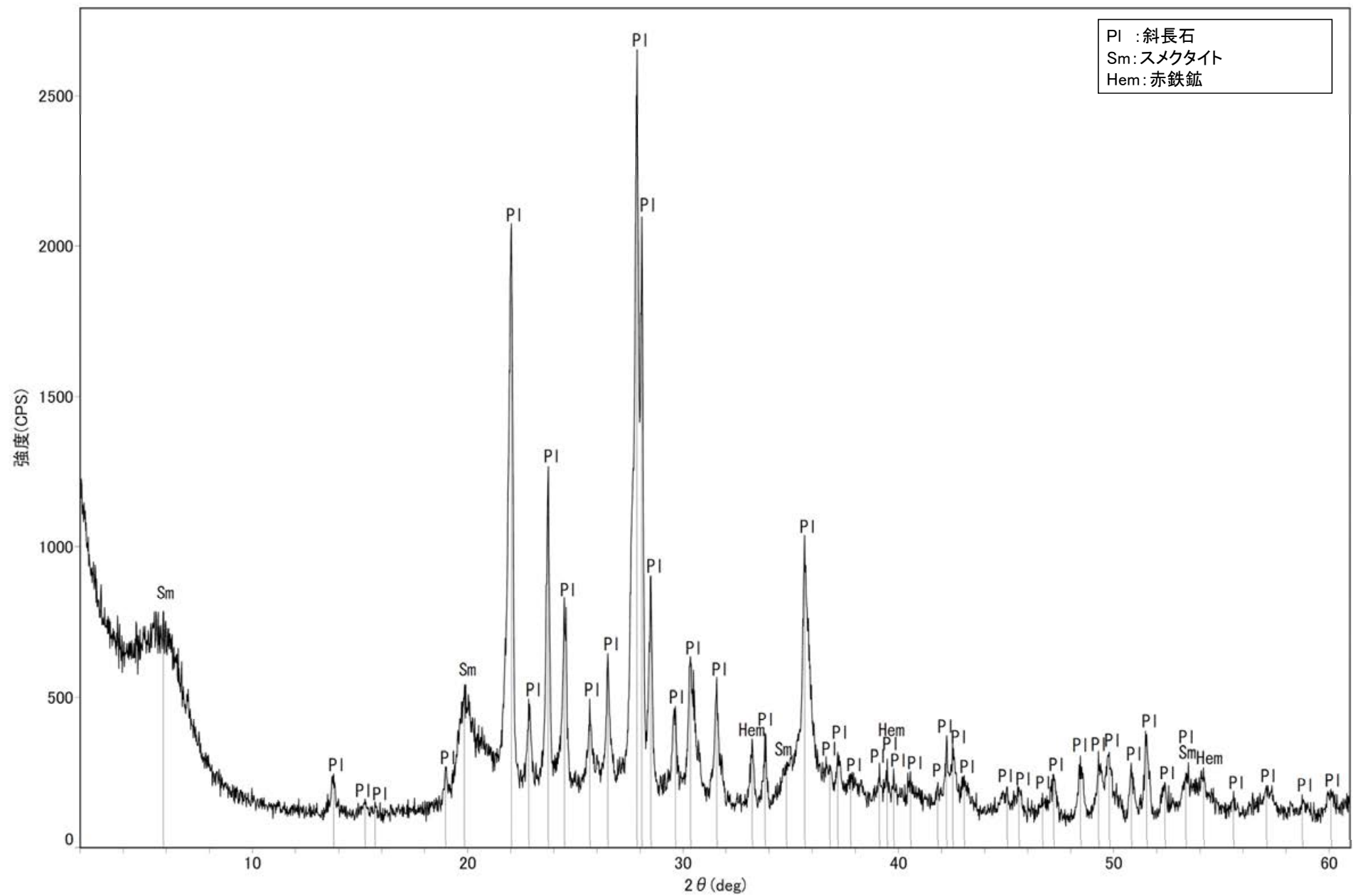


回折チャート

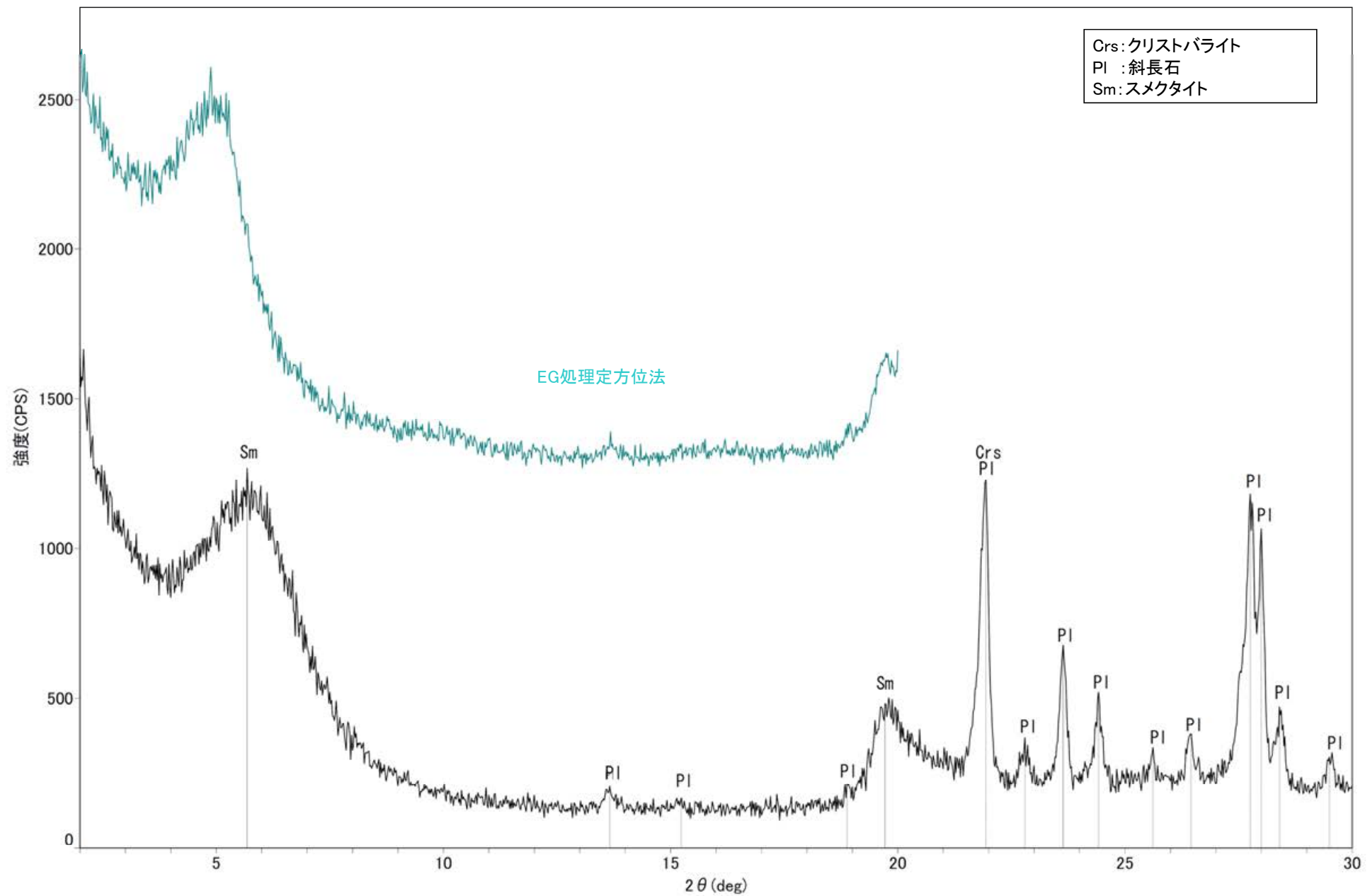


回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

粘土状破碎部 S-1 H-6.6-1孔 ―X線回折チャート 不定方位―

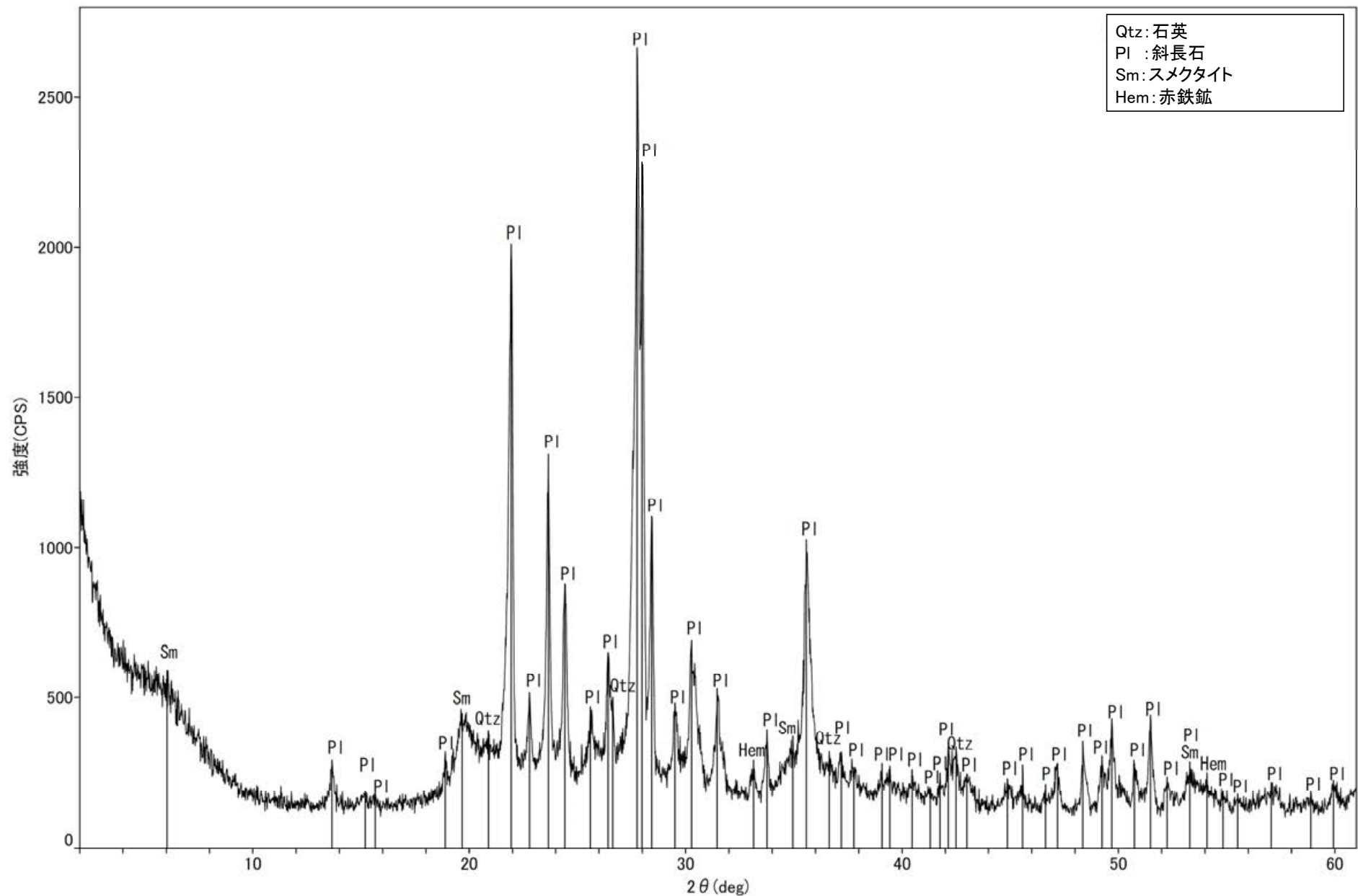


回折チャート

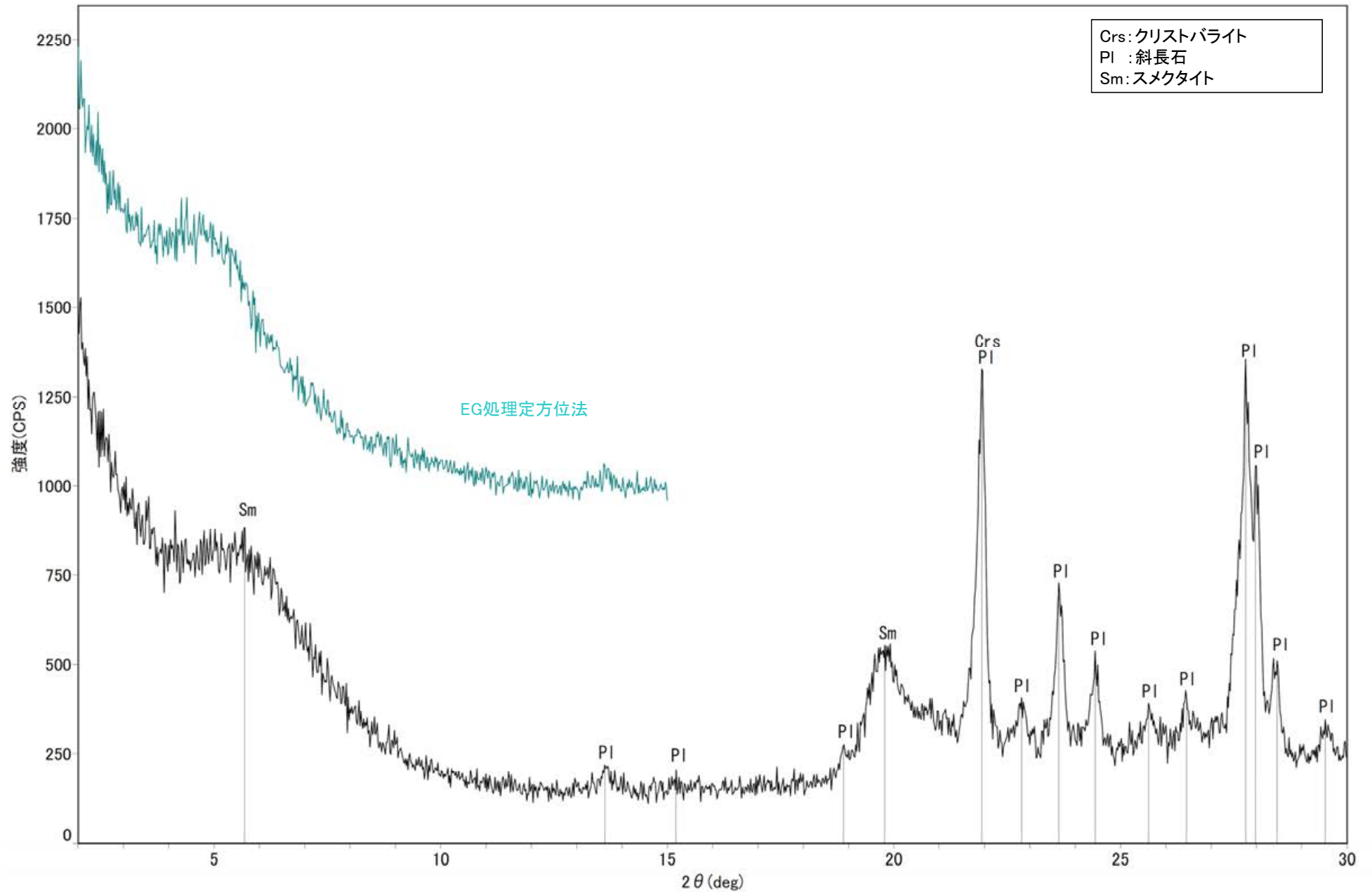


回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

粘土状破碎部 S-1 H-6.5-2孔 ―X線回折チャート 不定方位―

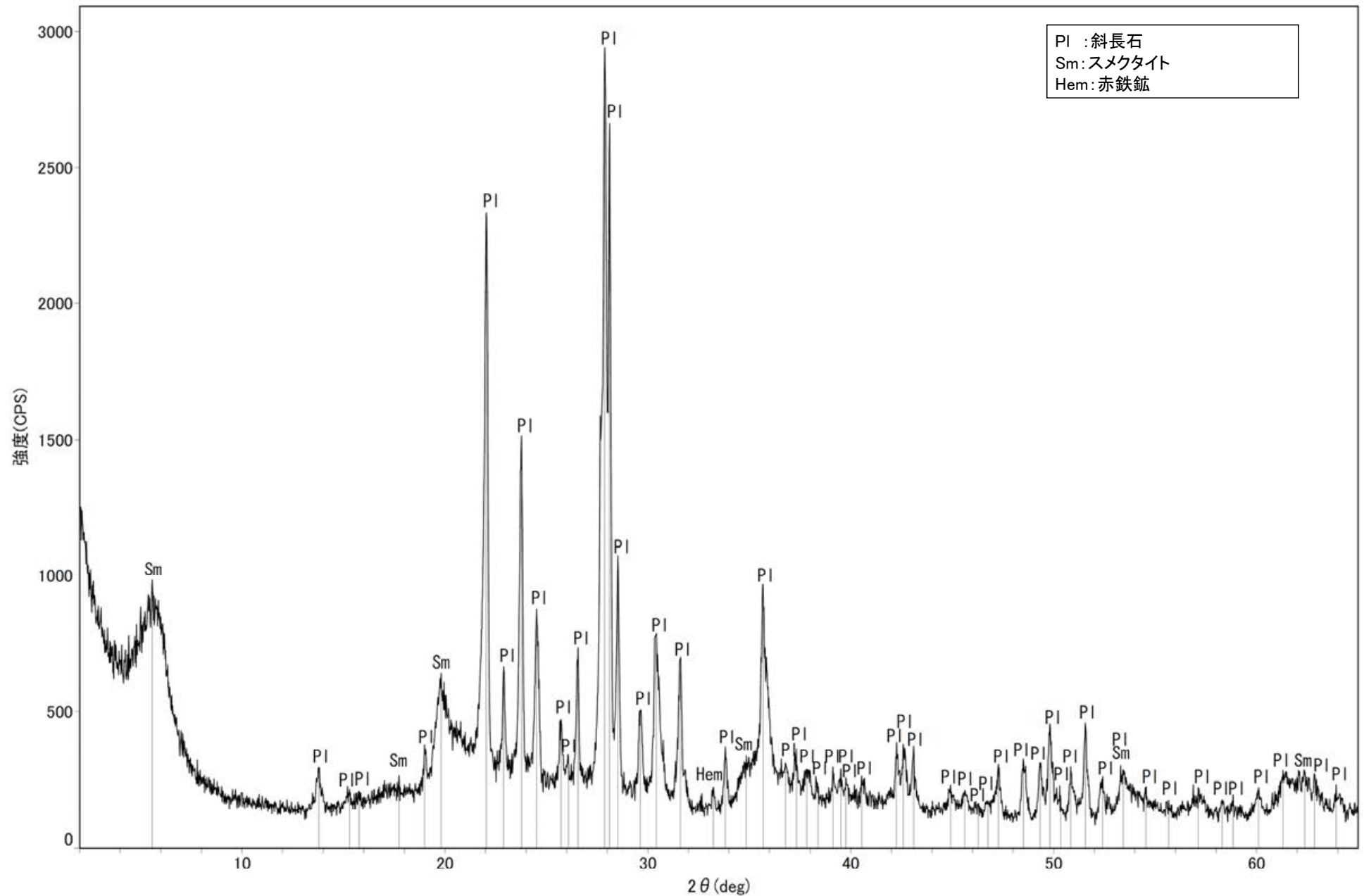


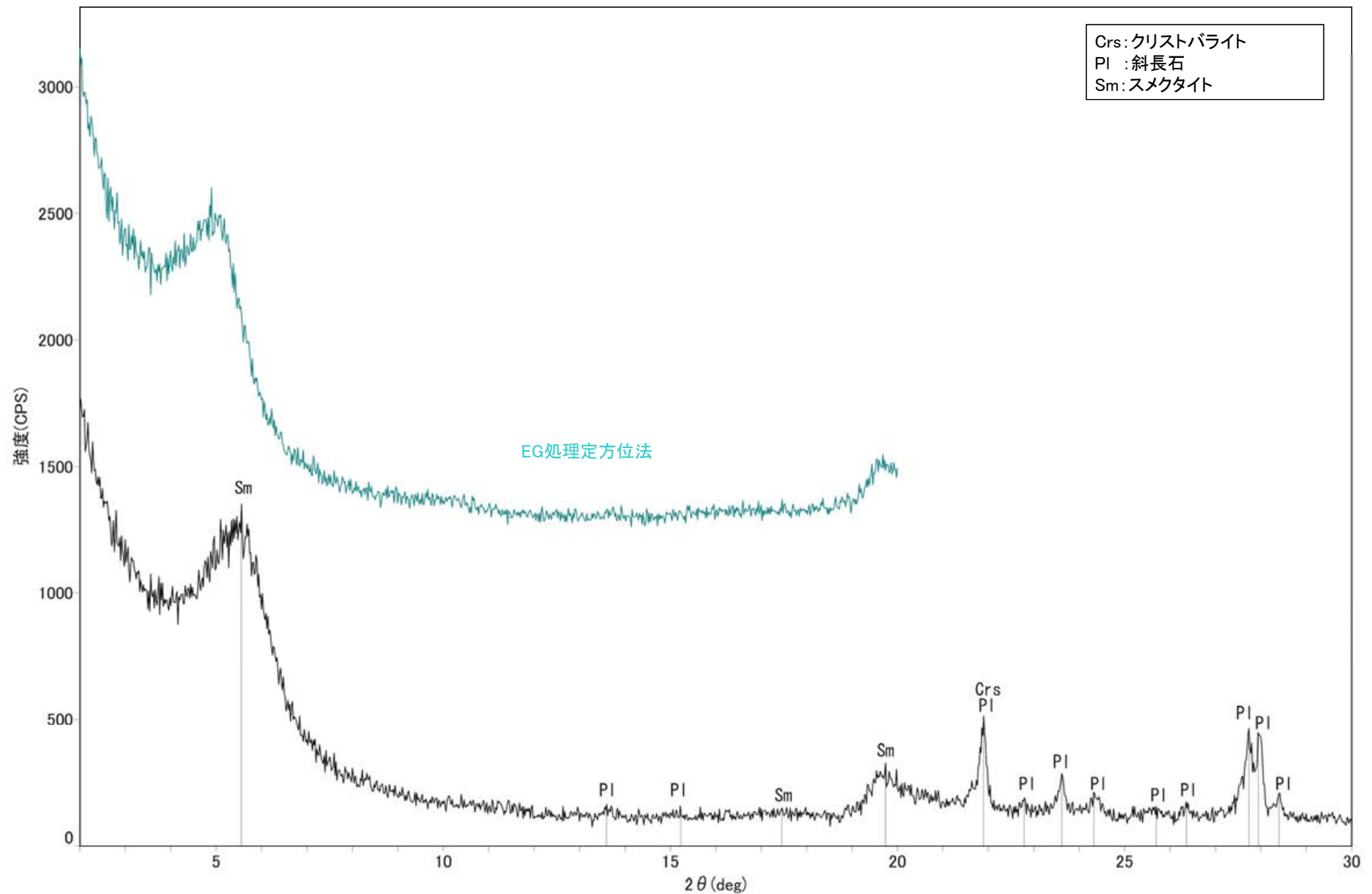
回折チャート



回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

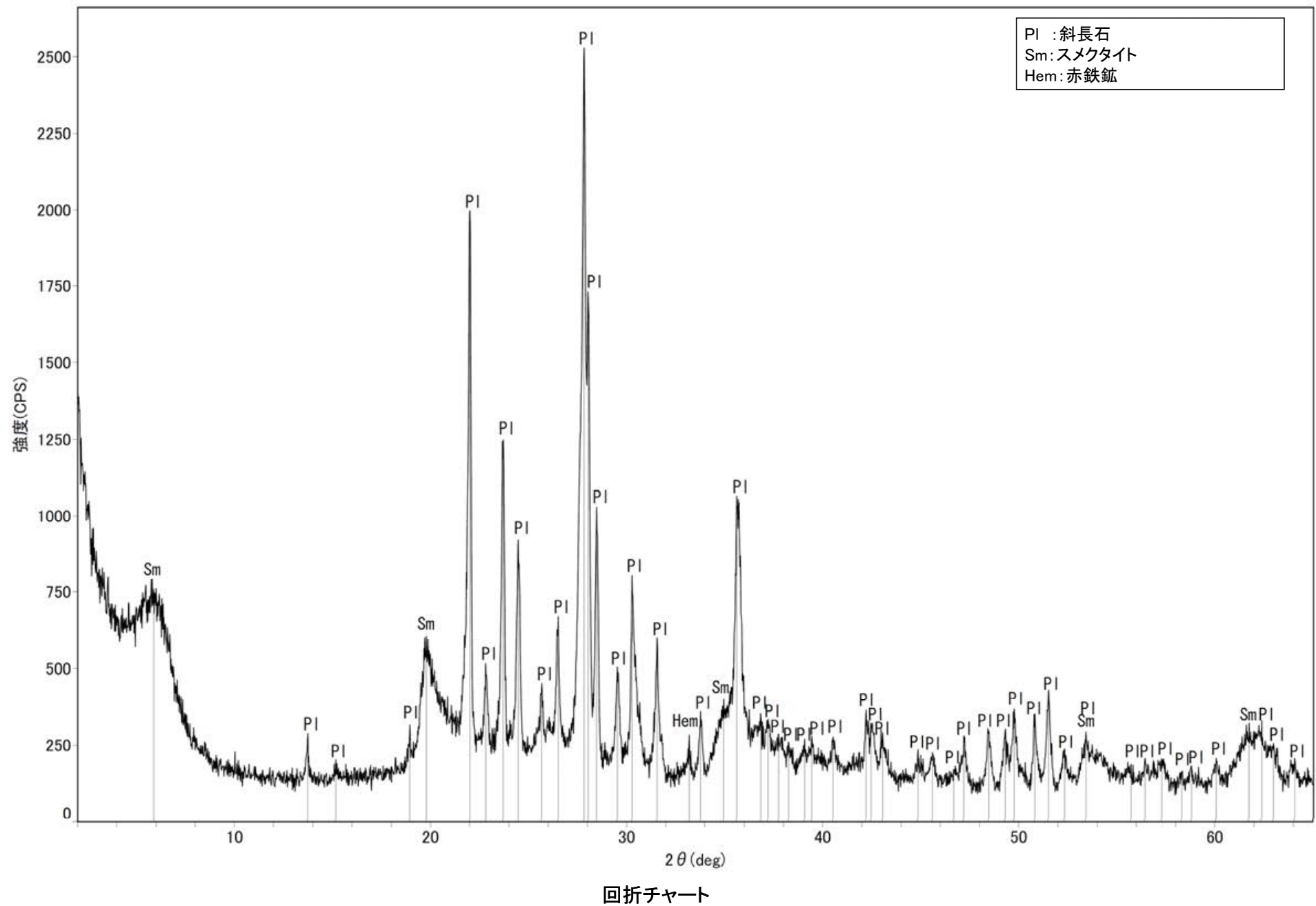
粘土状破碎部 S-1 K-10.3SW孔 ―X線回折チャート 不定方位―

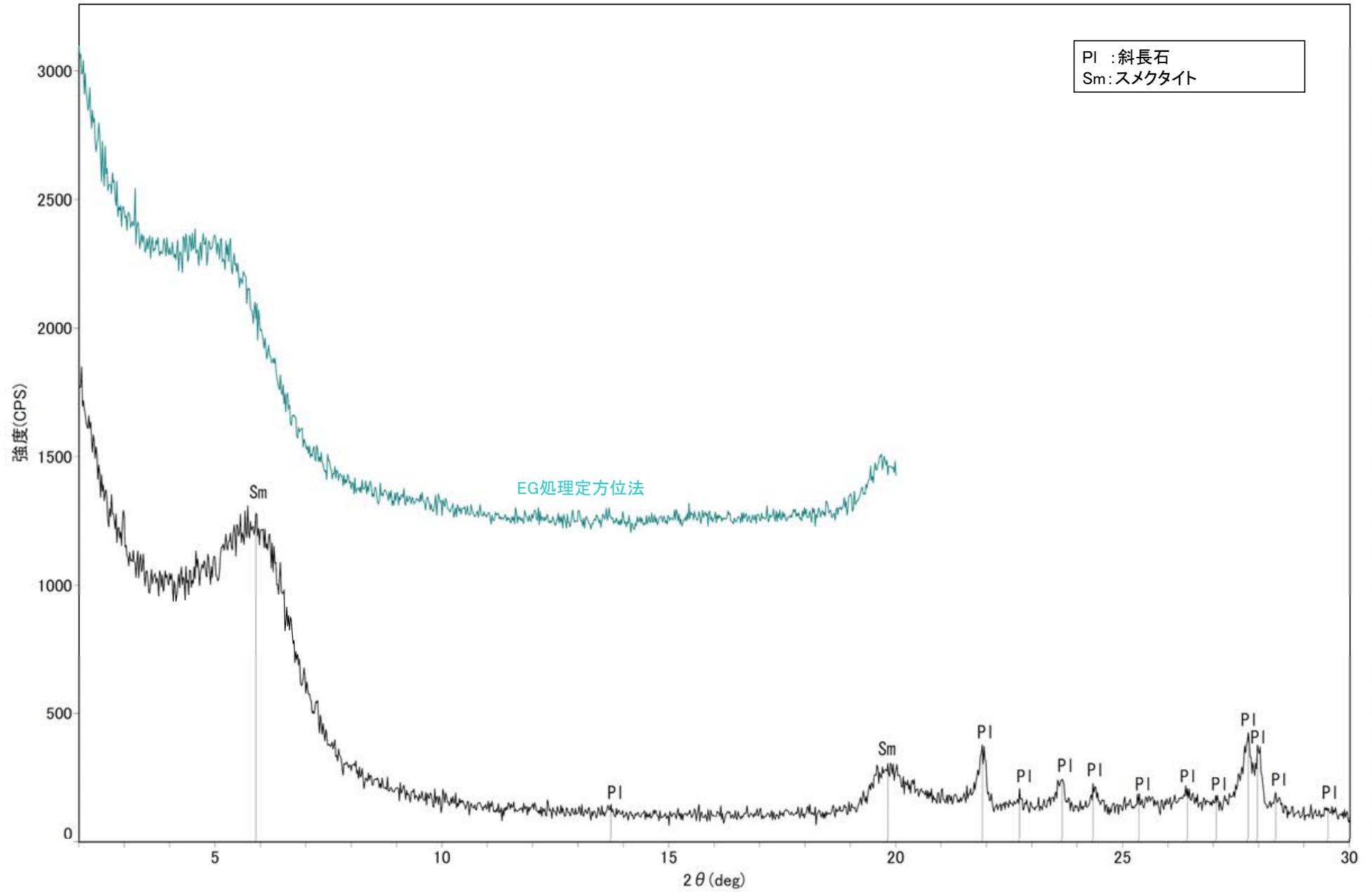




回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

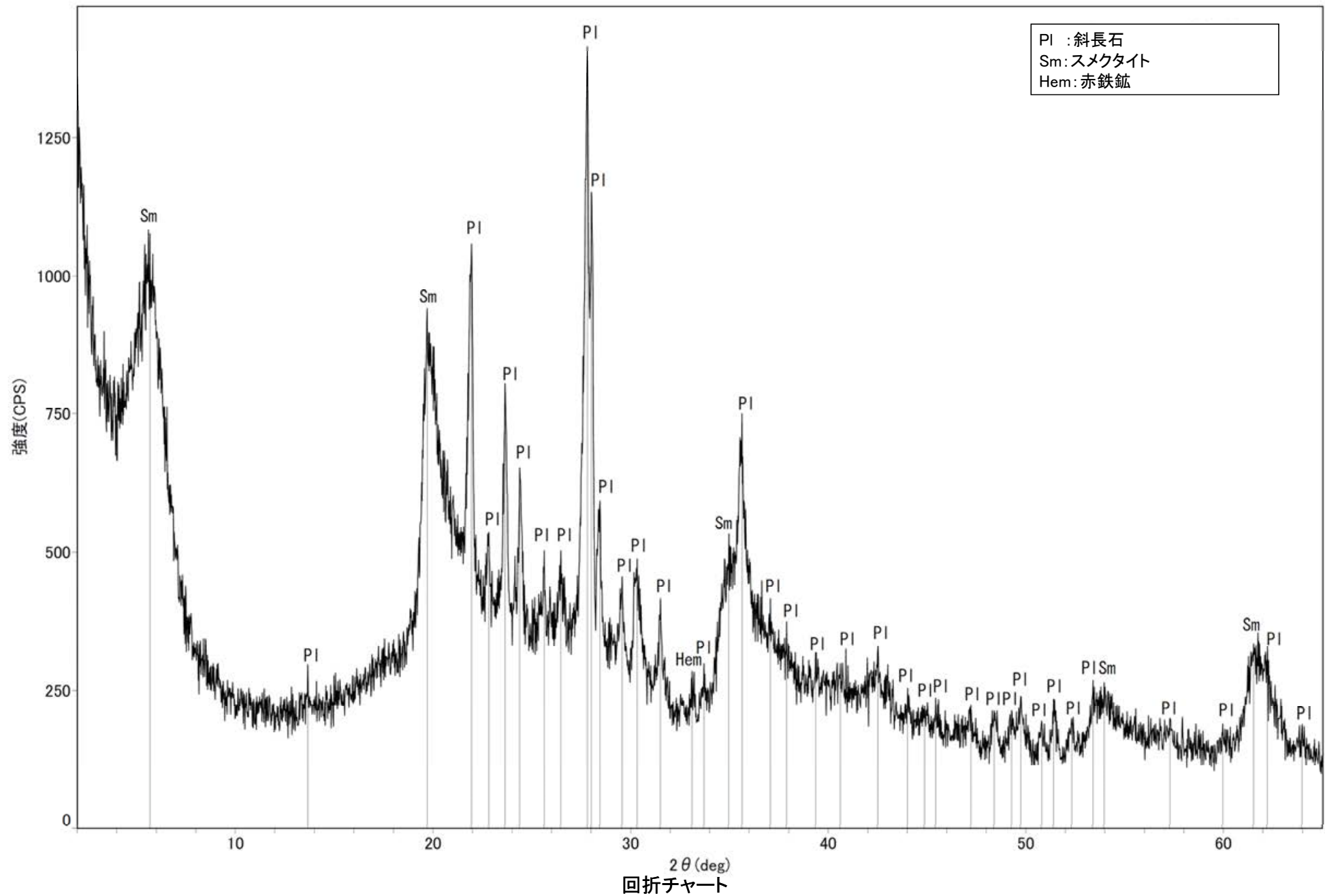
粘土状破碎部 S-2・S-6 K-6.2-2孔 ―X線回折チャート 不定方位―

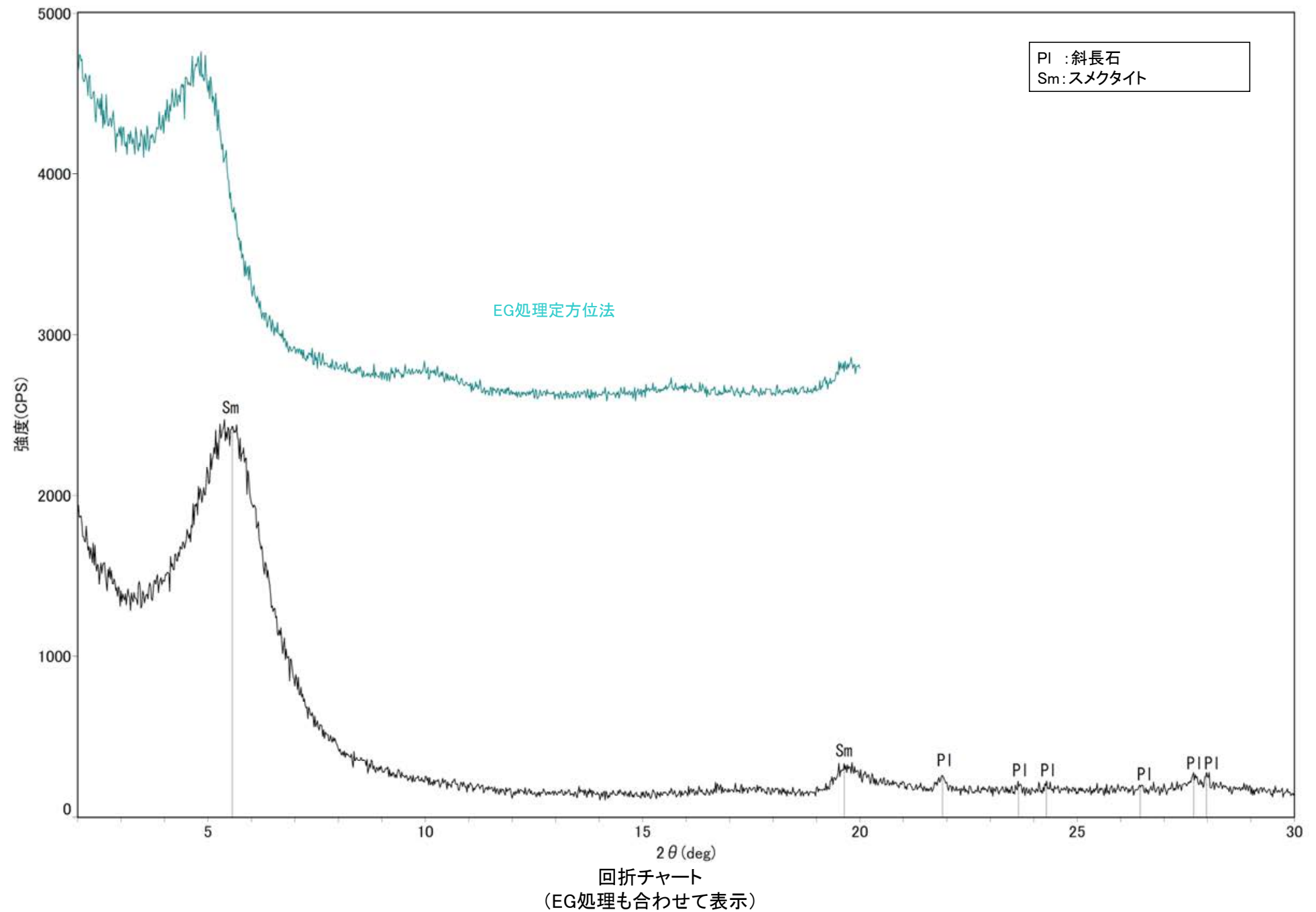




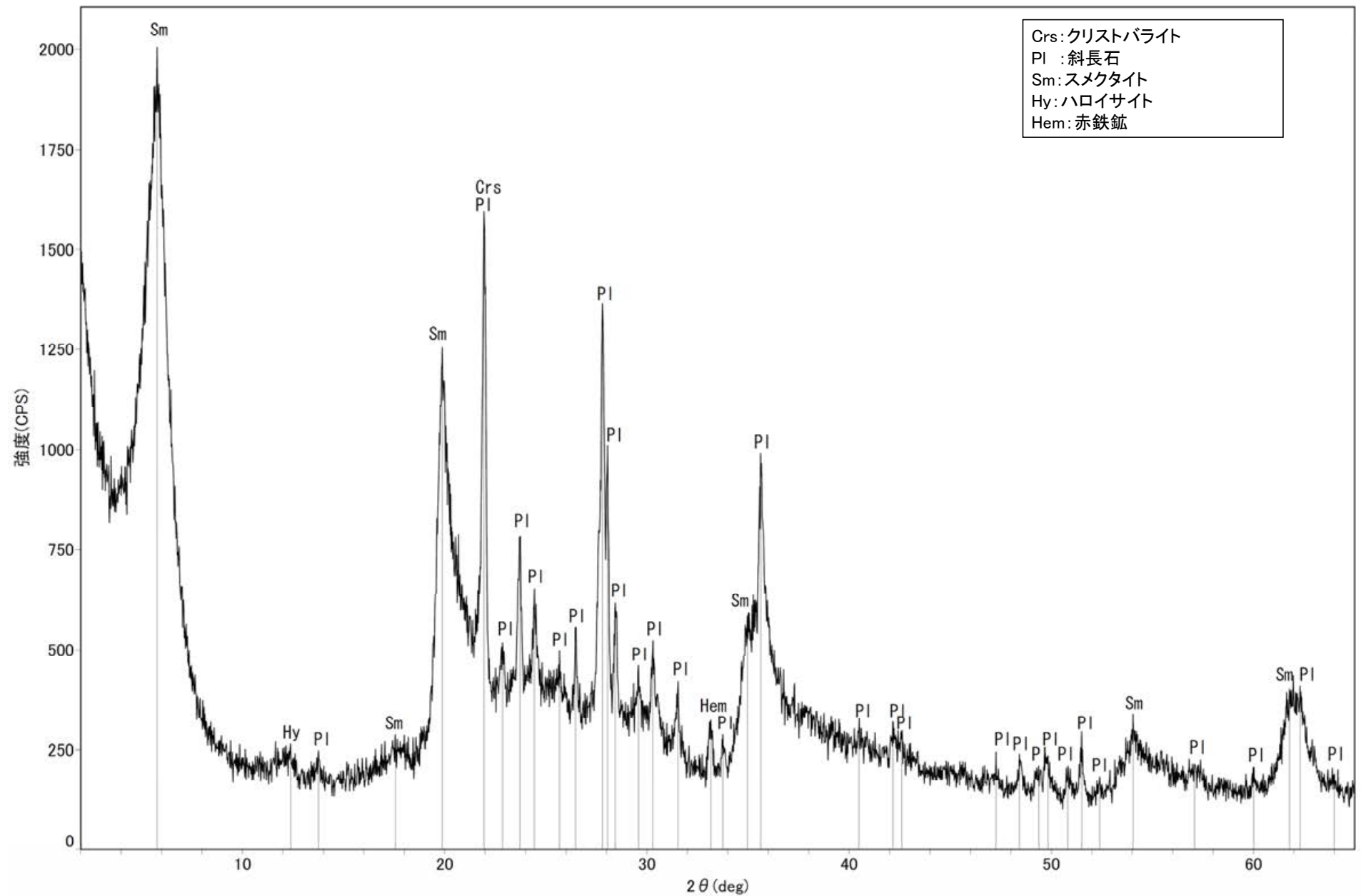
回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

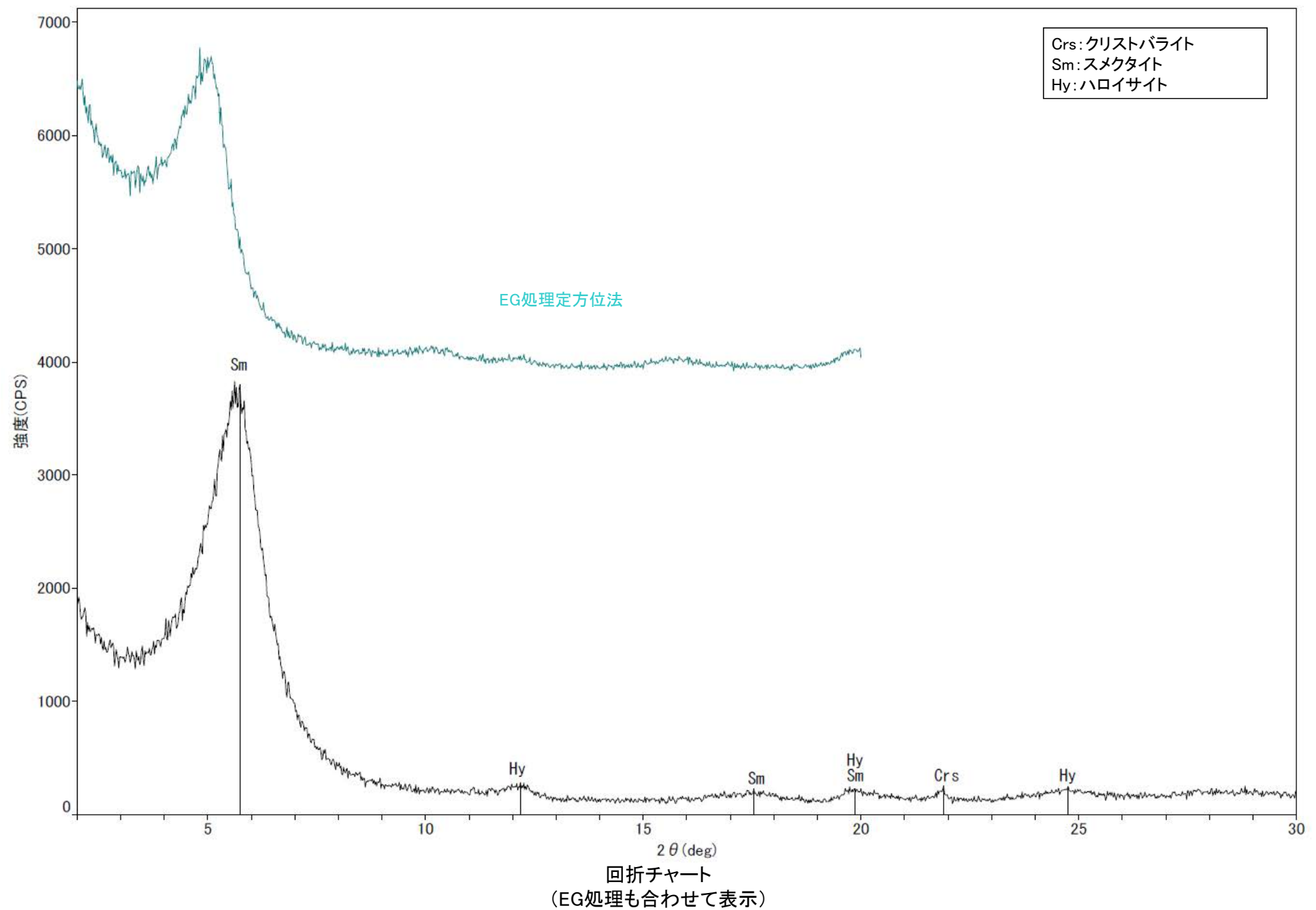
粘土状破碎部 S-2・S-6 F-8.5' 孔 ―X線回折チャート 不定方位―

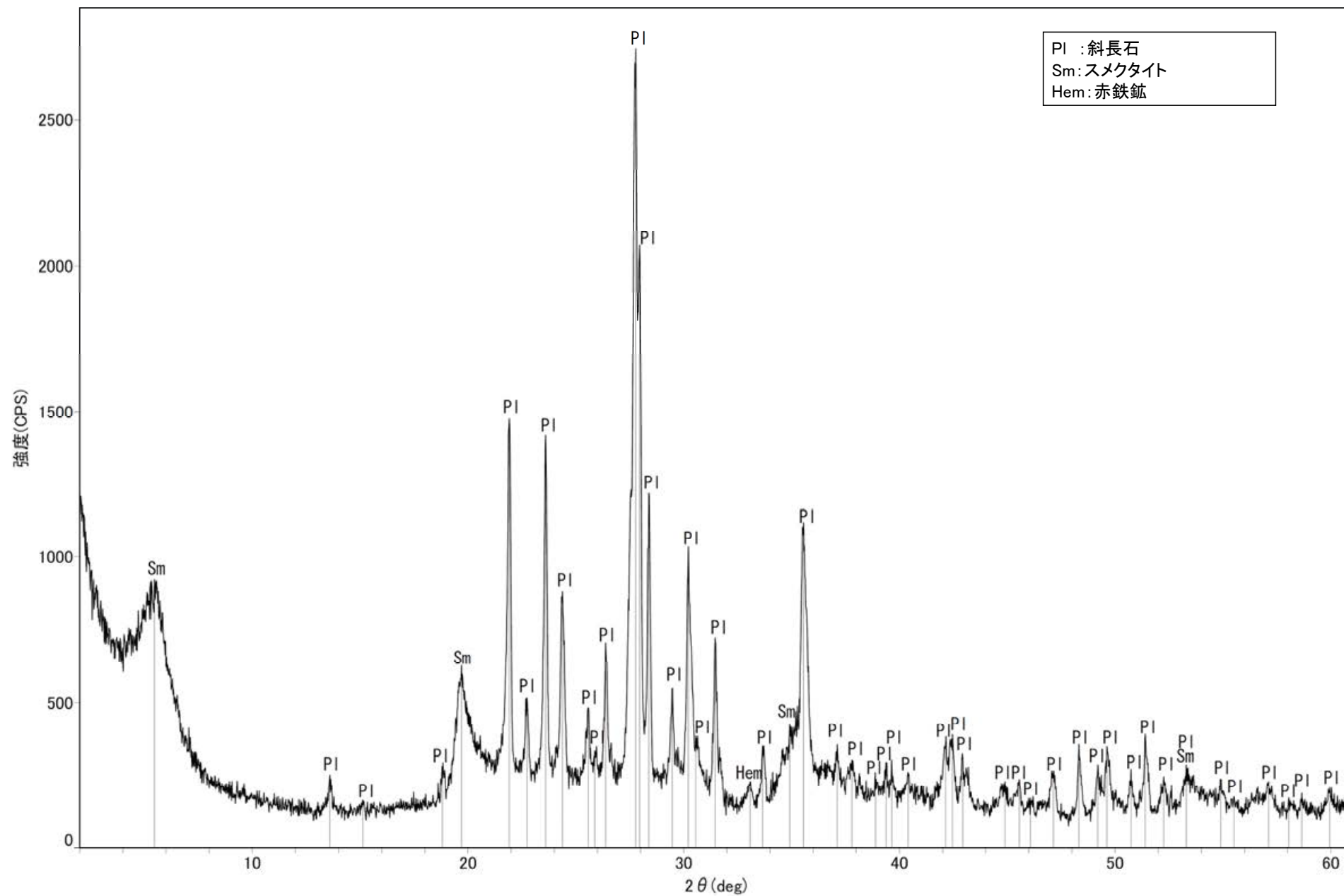




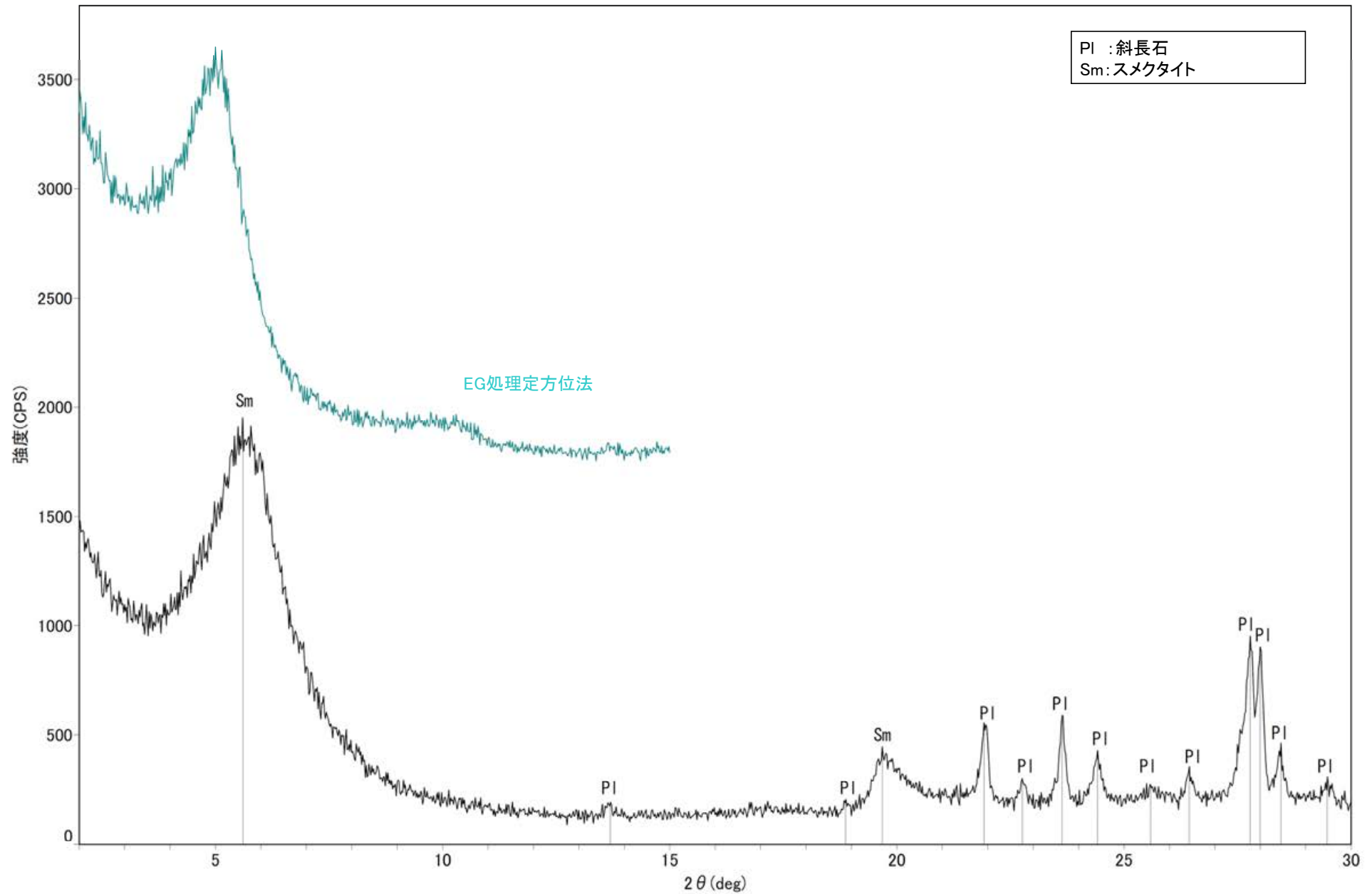
粘土状破碎部 S-2・S-6 E-8.5-2孔 ―X線回折チャート 不定方位―





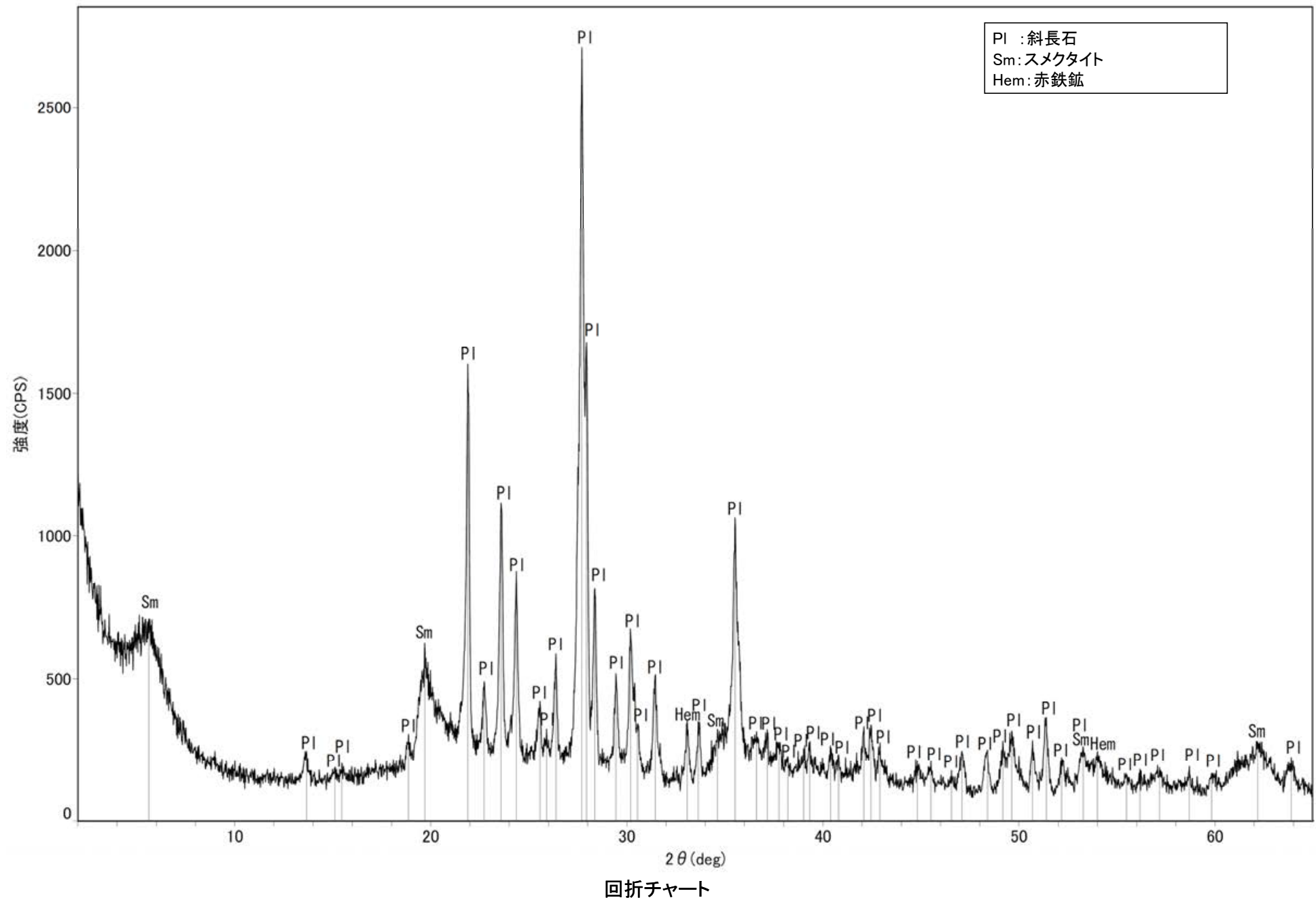


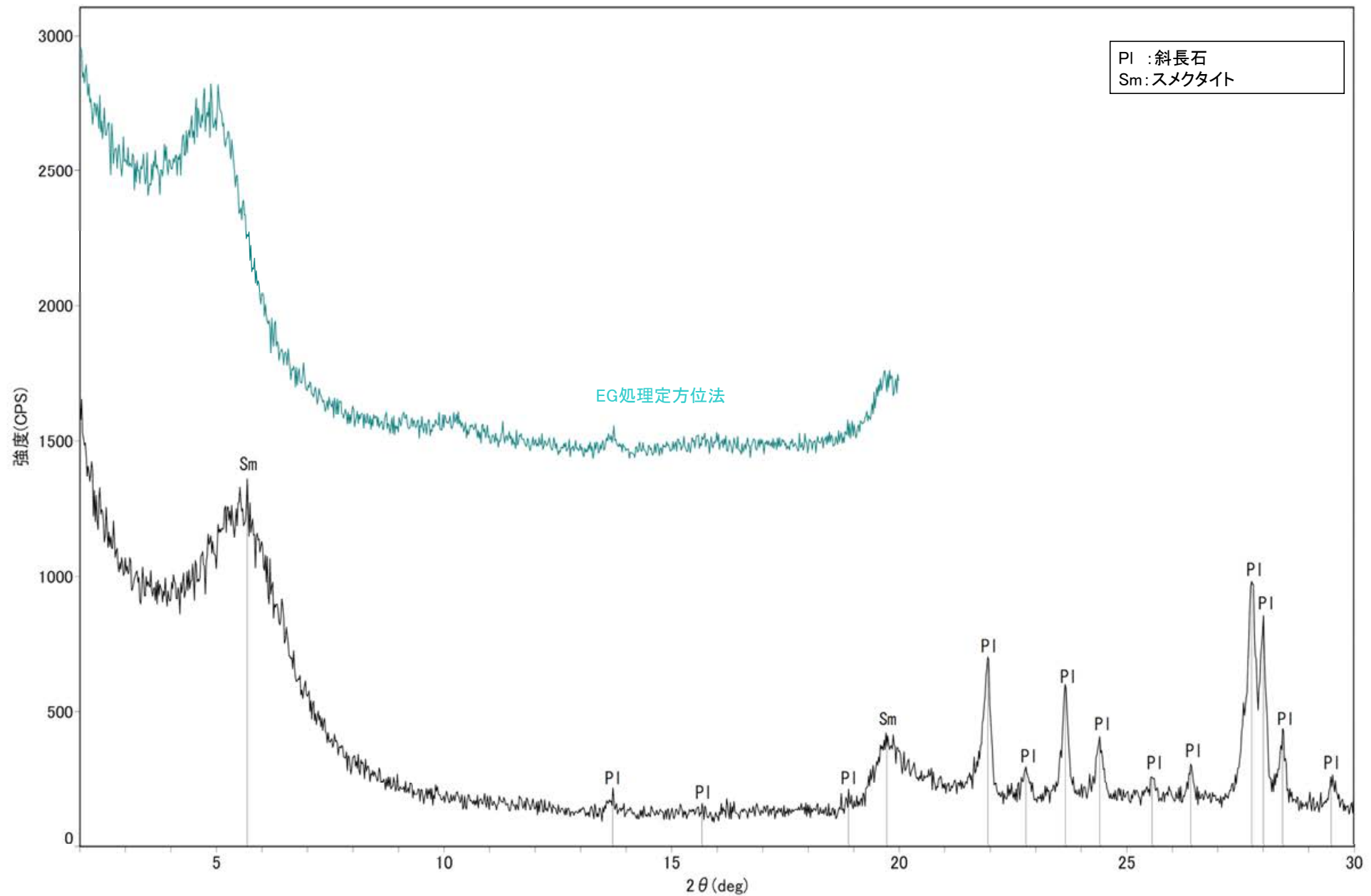
回折チャート



回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

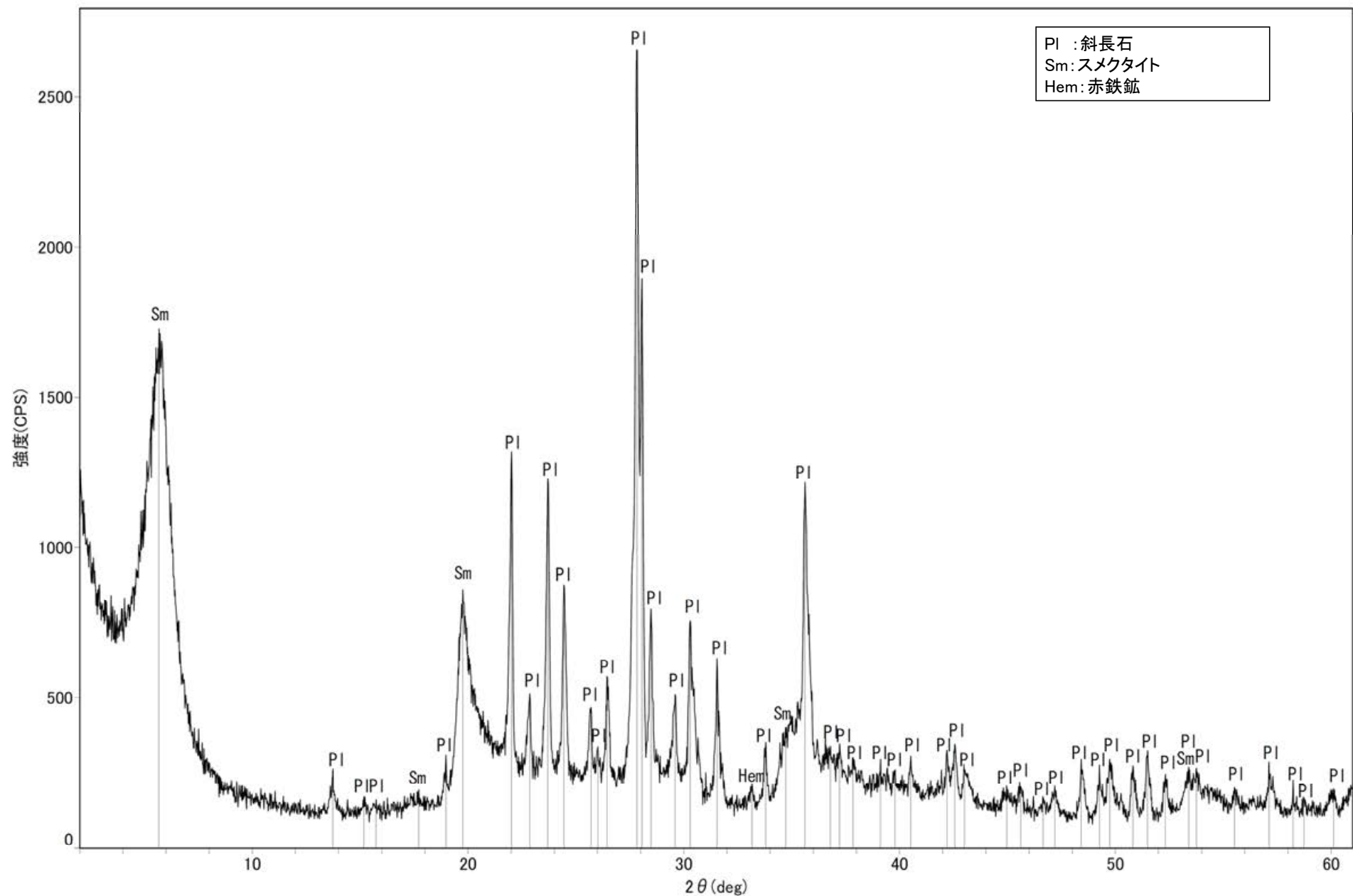
粘土状破砕部 S-4 E-11.1SE-2孔 ―X線回折チャート 不定方位―



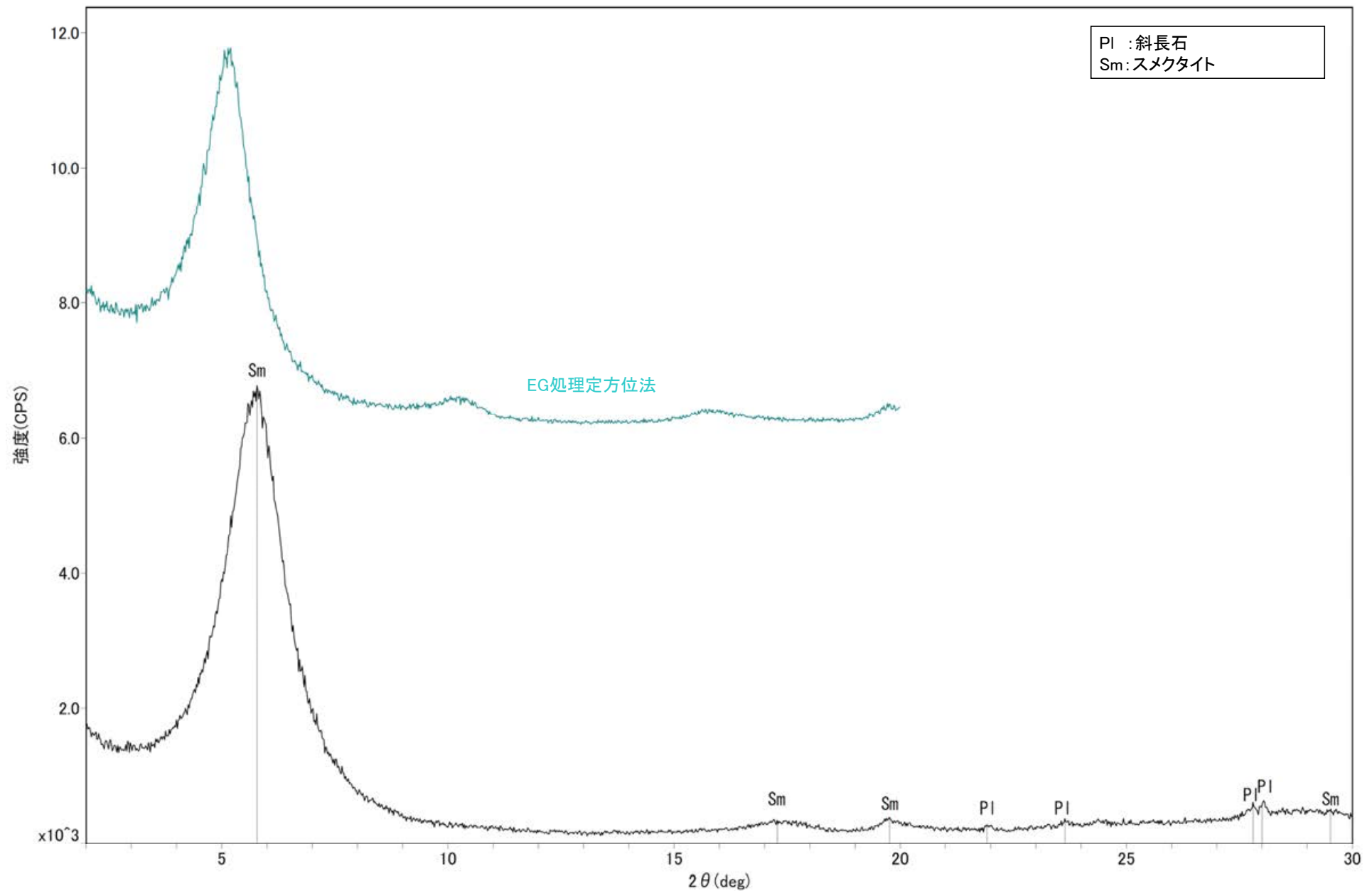


回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

粘土状破碎部 S-5 R-8.1-1-3孔 ―X線回折チャート 不定方位―

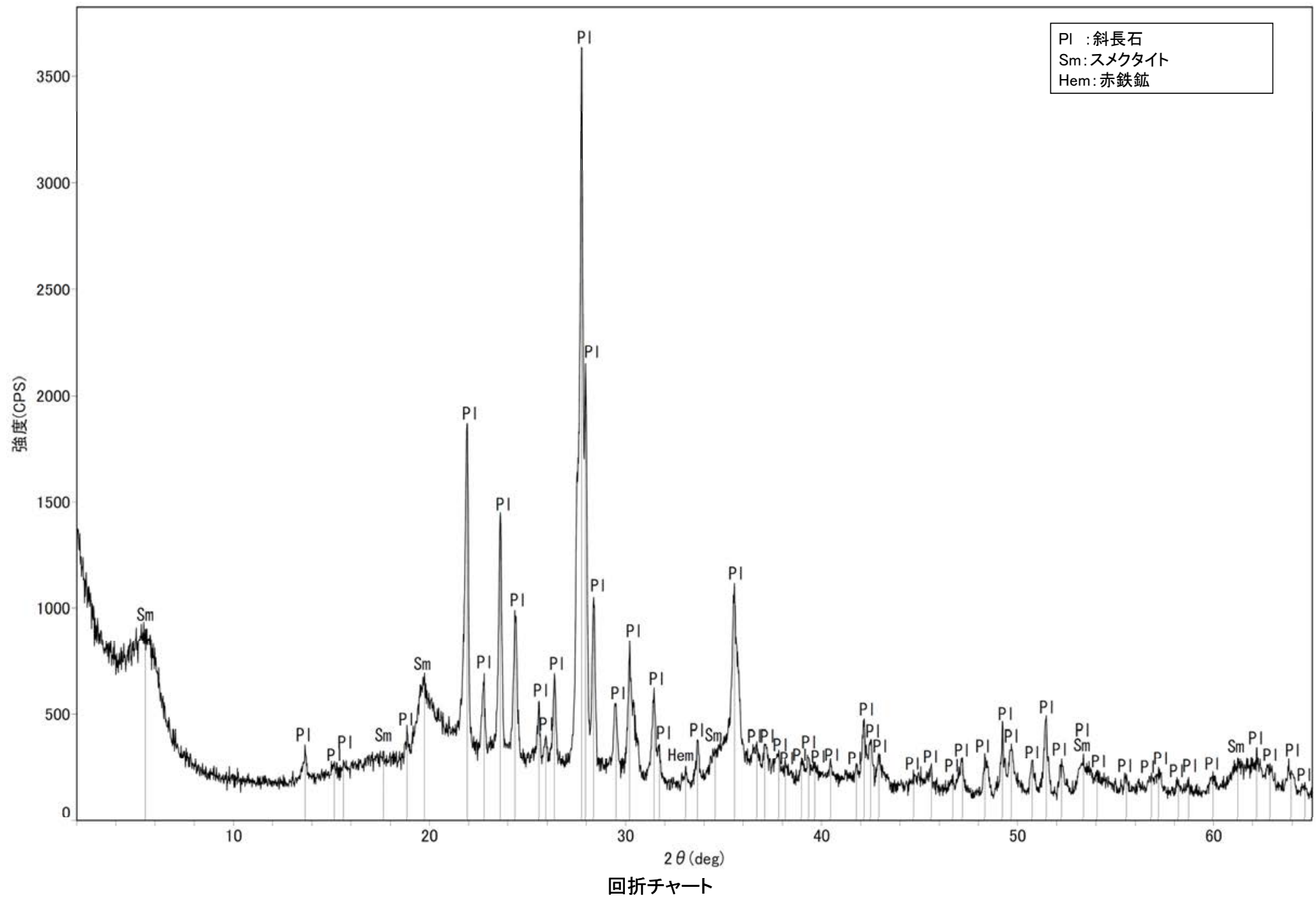


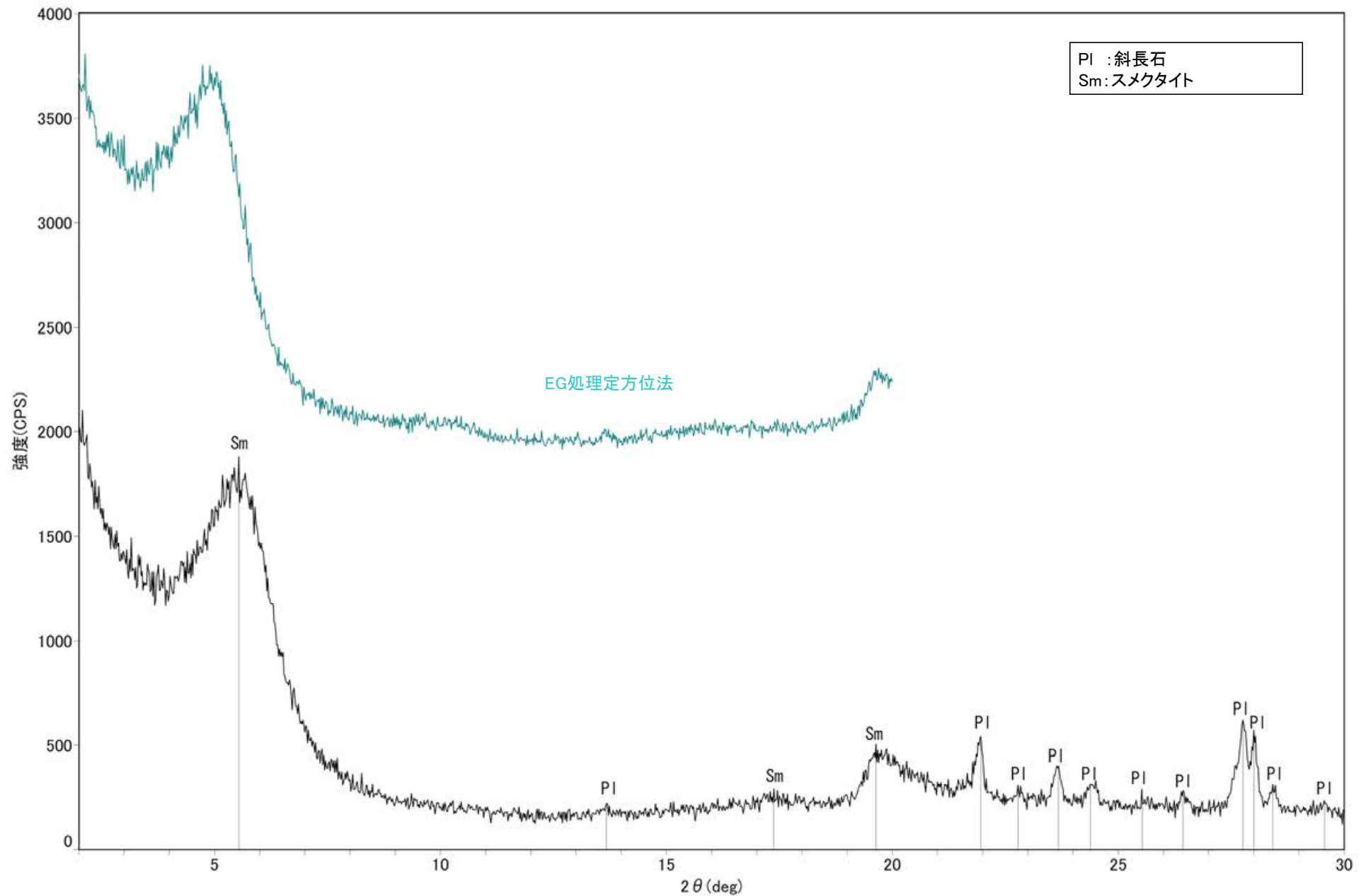
回折チャート



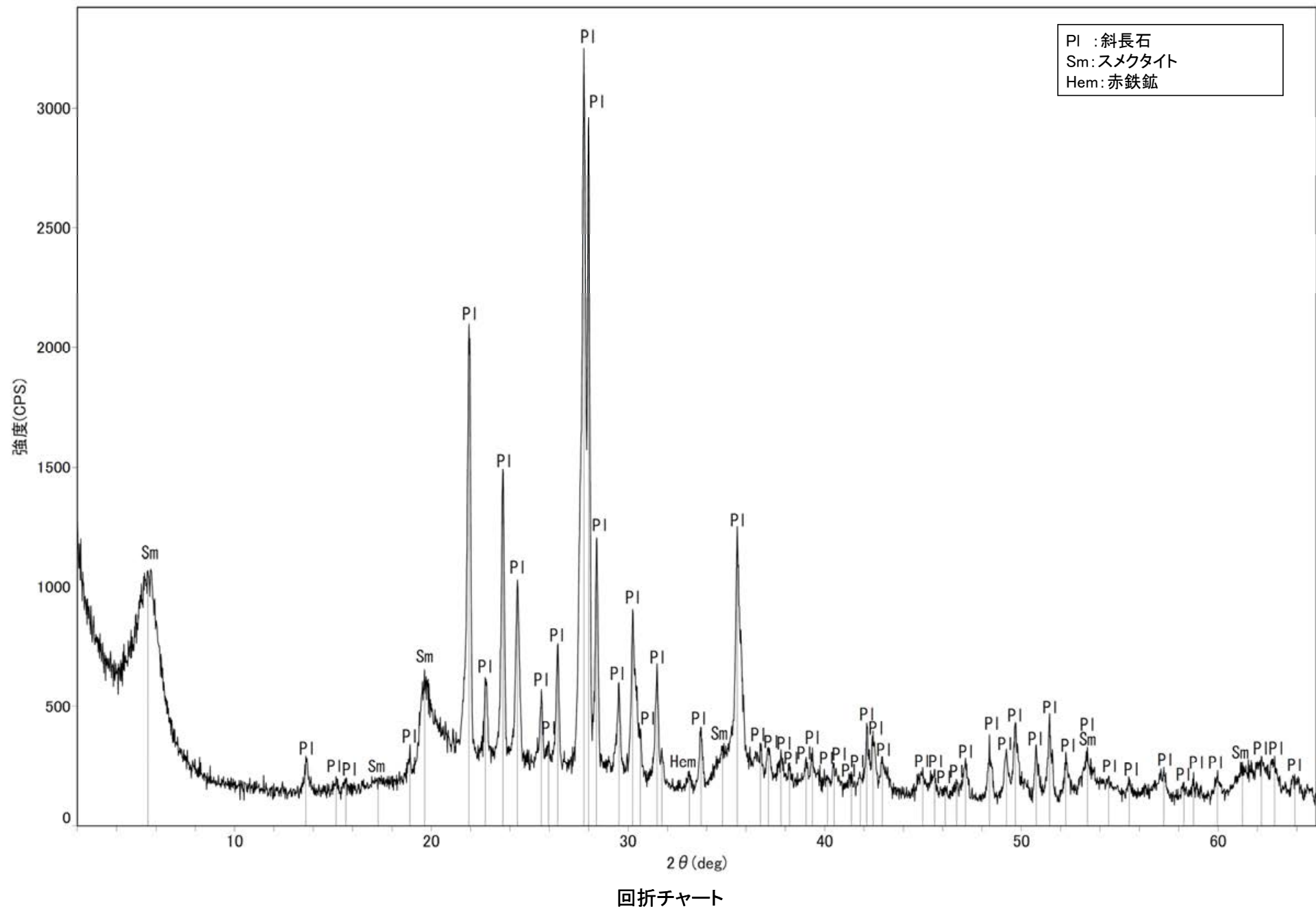
回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

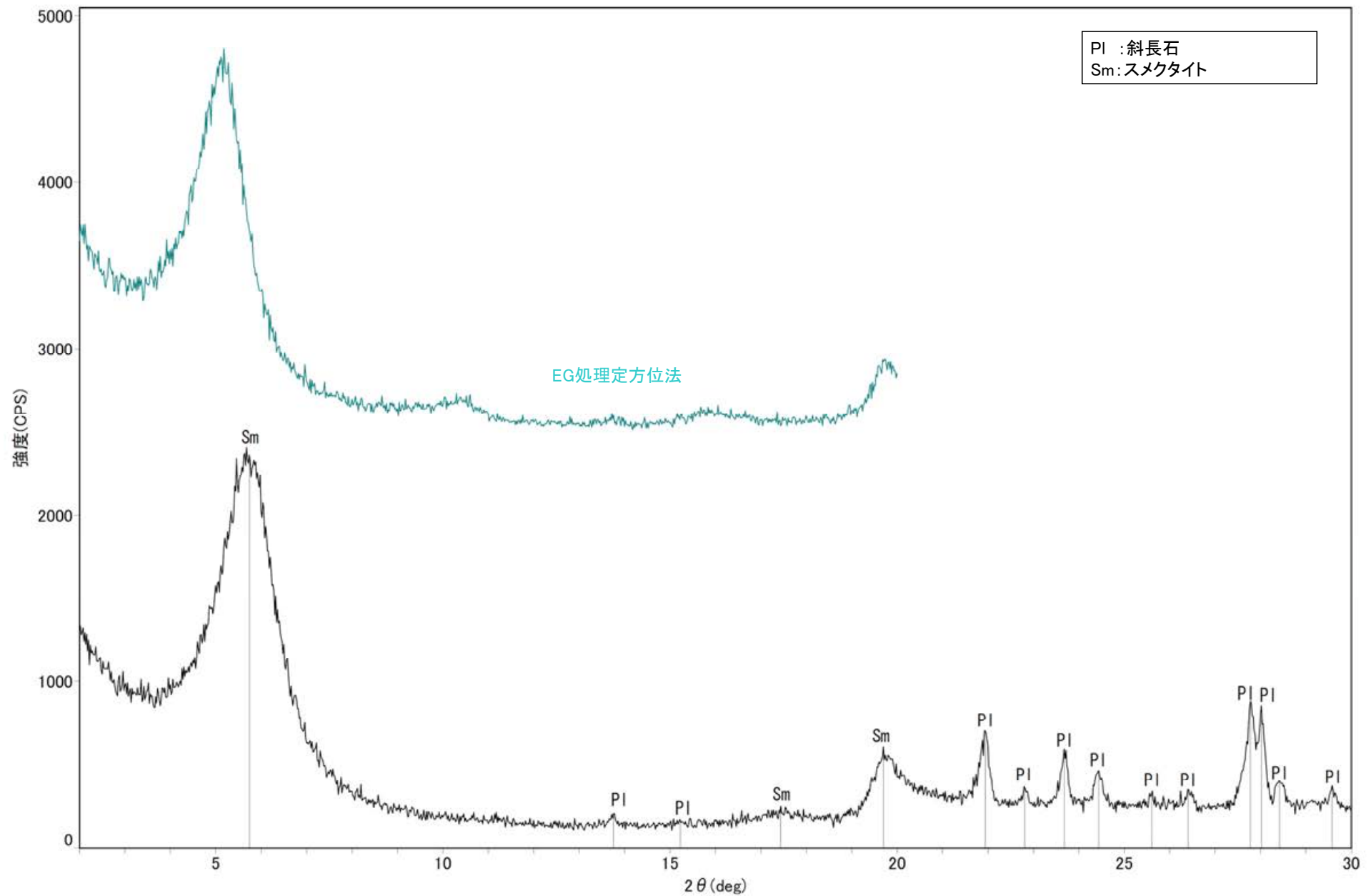
粘土状破碎部 S-7 H-5.7' 孔 ―X線回折チャート 不定方位―





回折チャート
(EG処理も合わせて表示)





回折チャート
(EG処理も合わせて表示)

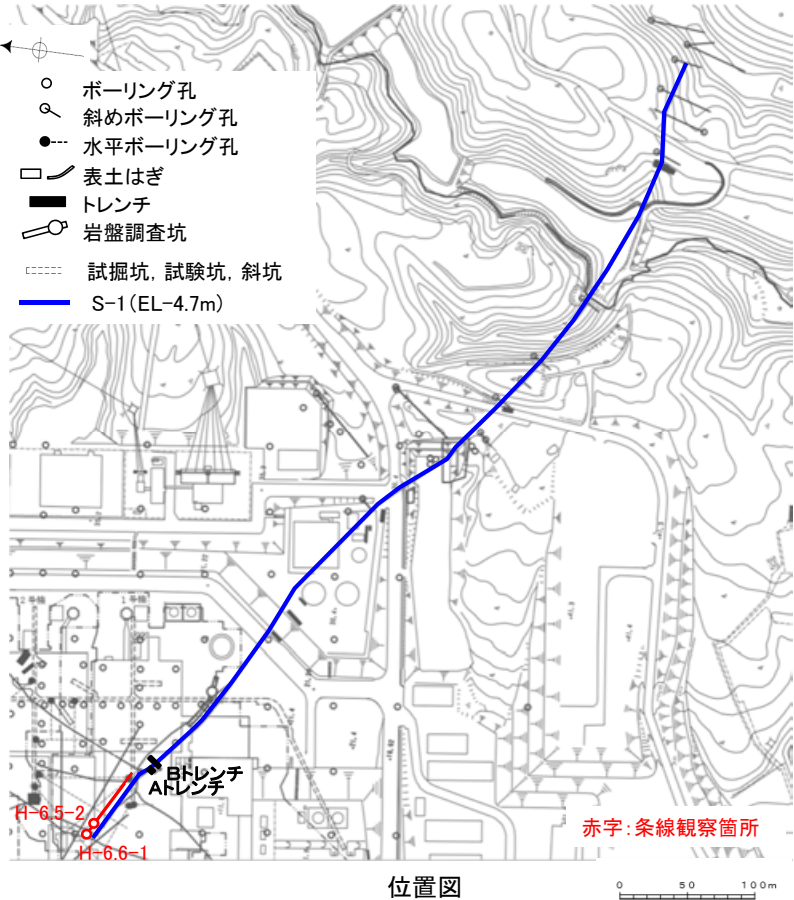
(2) 条線觀察結果

(2)-1 S-1の条線観察結果

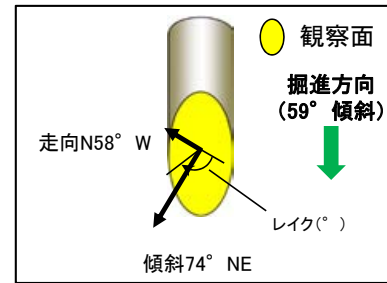
S-1の条線観察結果

試料名		走向／傾斜 (走向は真北)	条線の レイク※1	変位センス (条線観察)
ボーリングH-6.5-2孔 [深度70.70m]	上盤側	N58° W/74° NE	66° R	(不明)
ボーリングH-6.6-1孔 [深度57.20m]	下盤側	N66° W/80° NE	71° R	(不明)

※1 上盤側で確認したレイクは下盤側に換算して示す。



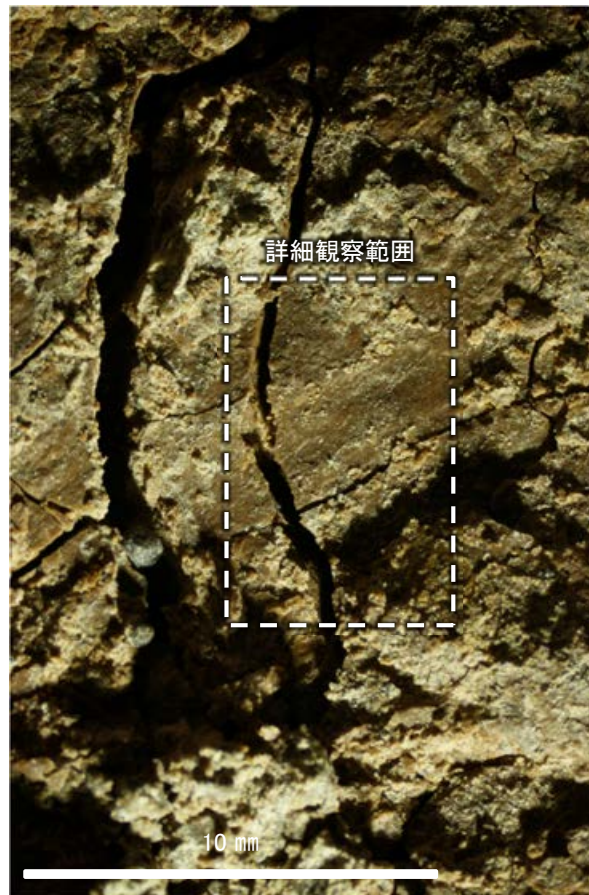
条線観察結果 ボーリングH-6.5-2孔[深度70.70m](上盤側)



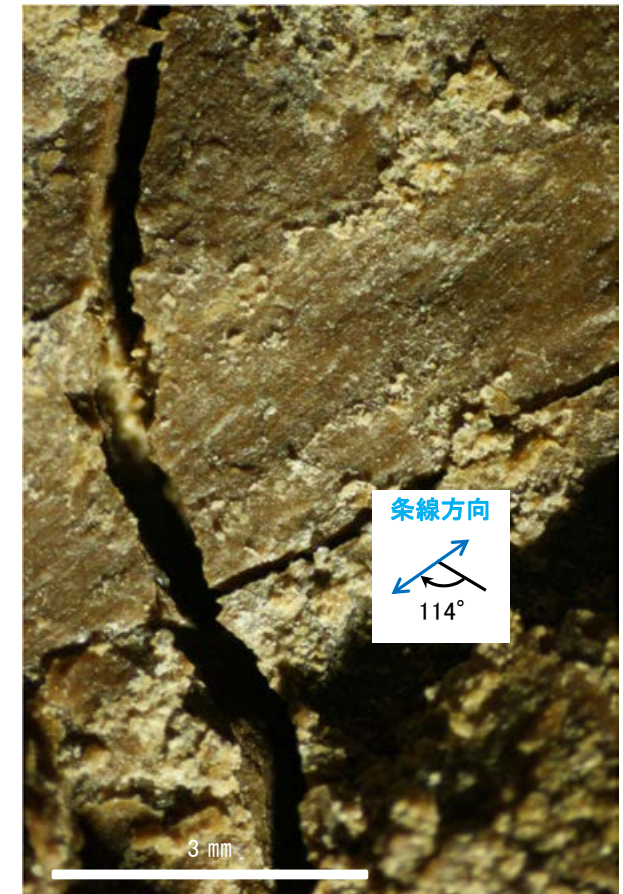
概念図
※走向は真北で示す。



観察面写真



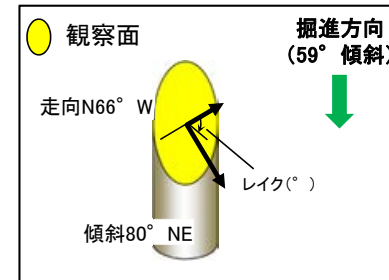
観察面拡大写真



詳細観察写真

・条線のレイクは66° R(下盤側換算), 変位センスは不明

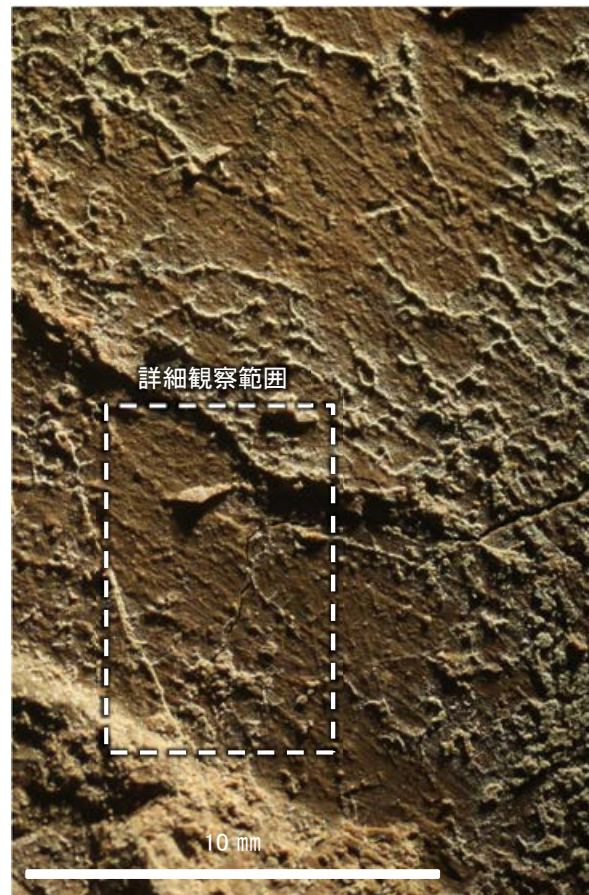
条線観察結果 ボーリングH-6.6-1孔[深度57.20m](下盤側)



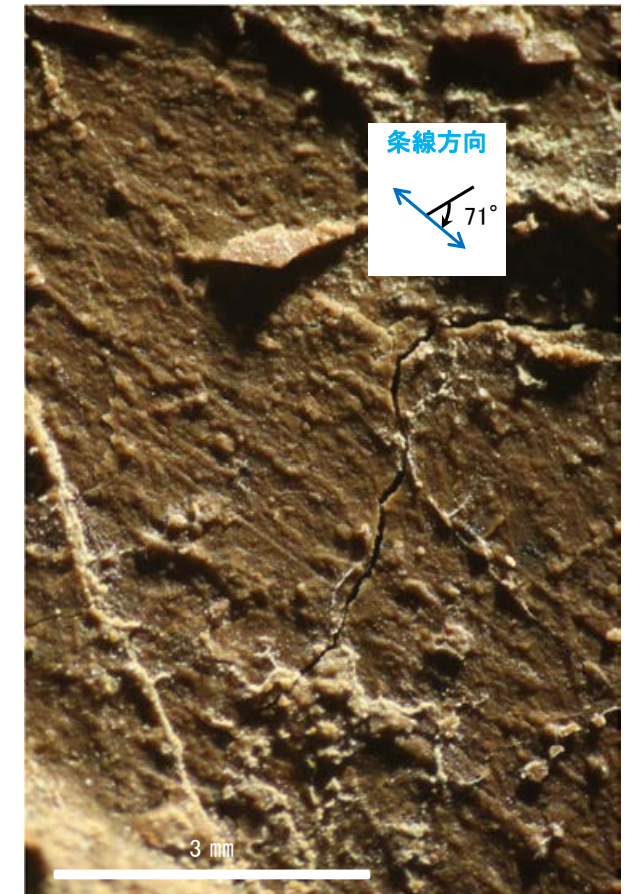
概念図
※走向は真北で示す。



観察面写真



観察面拡大写真



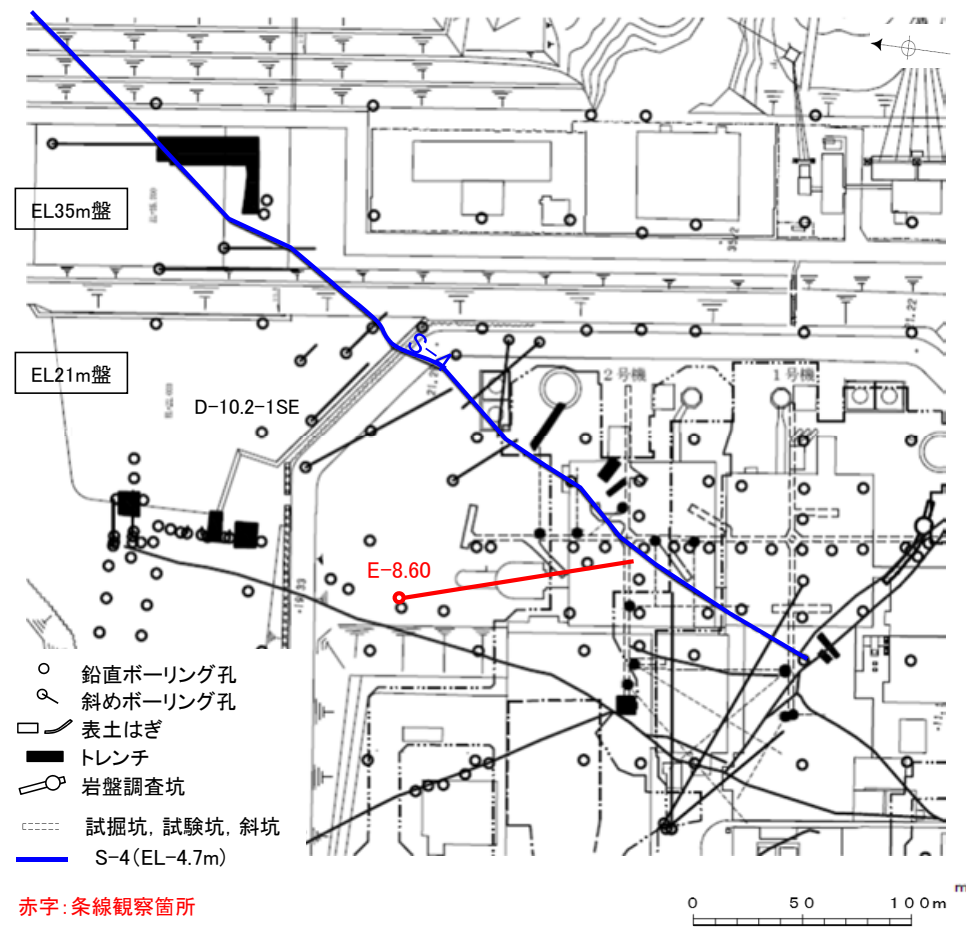
詳細観察写真

・条線のレイクは71° R, 変位センスは不明

(2)-2 S-4の条線観察結果

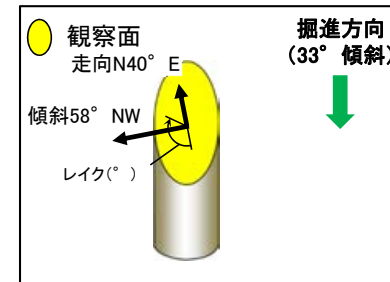
S-4の条線観察結果

試料名		走向/傾斜 (走向は真北)	条線のレイク	変位センス
ボーリングE-8.60孔 [深度104.68m]	下盤側	N40° E/58° NW	126° R	左横ずれ逆断層



位置図

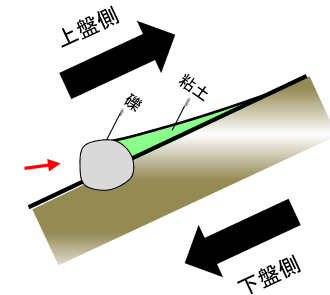
条線観察結果 ボーリングE-8.60孔[深度104.70m](下盤側)



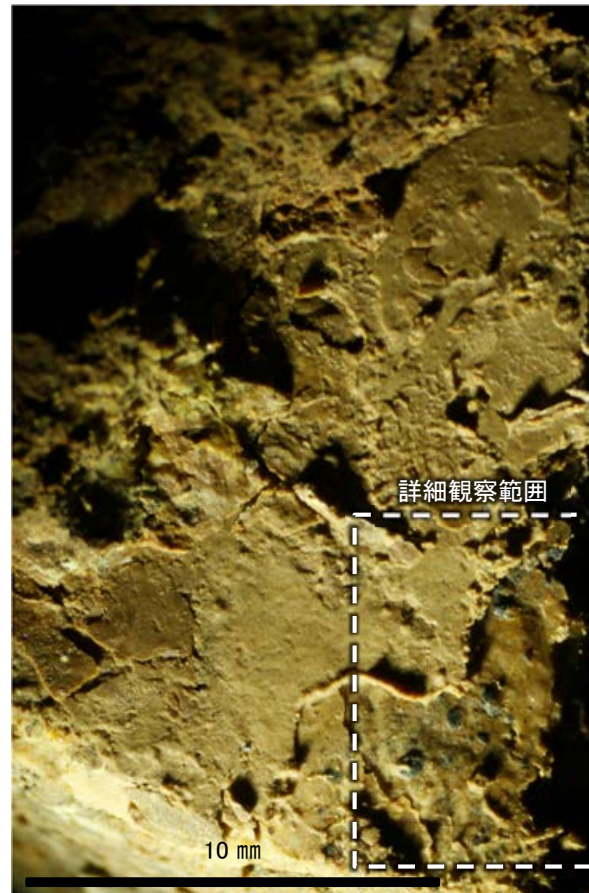
概念図

※走向は真北で示す。

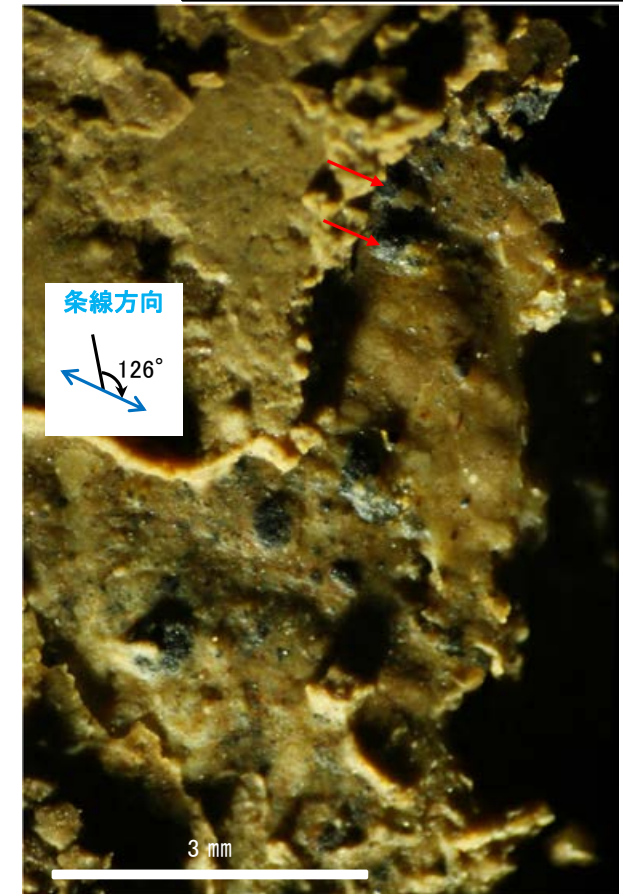
条線方向及び礫周りの粘土の非対称構造から、逆断層センスを示す。



観察面写真



観察面拡大写真



詳細観察写真

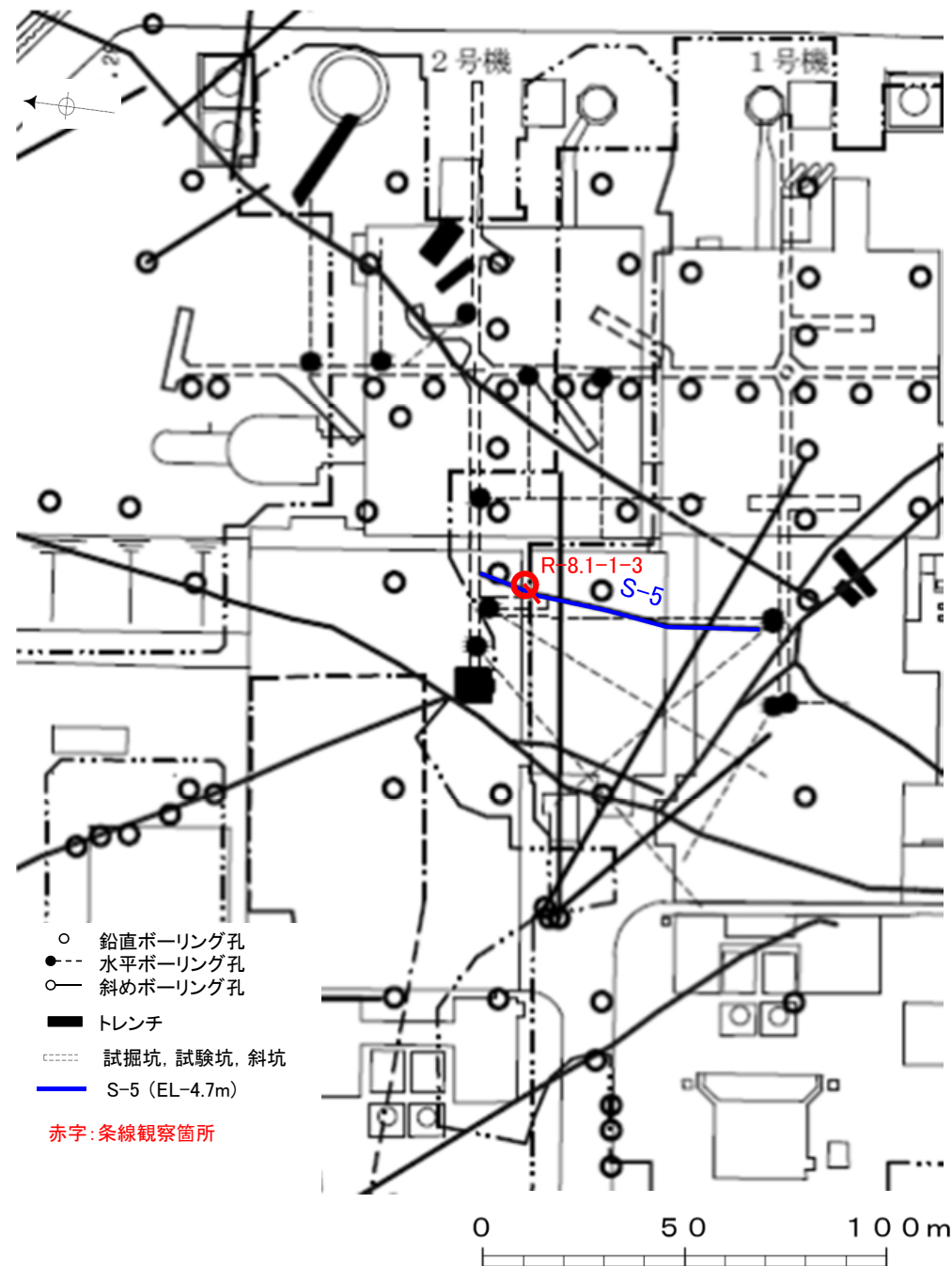
・条線のレイクは126° R, 変位センスは左横ずれ逆断層

(2)-3 S-5の条線観察結果

S-5の条線観察結果

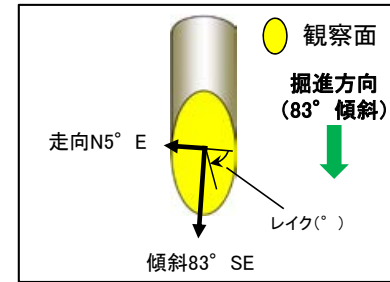
試料名		走向/傾斜 (走向は真北)	条線のレイク※1	変位センス
ボーリングR-8.1-1-3孔 [深度22.30m]	上盤側	N5° E/83° SE	109° R	(不明)
			149° R	(不明)

※1 上盤側で確認したレイクは下盤側に換算して示す。



位置図

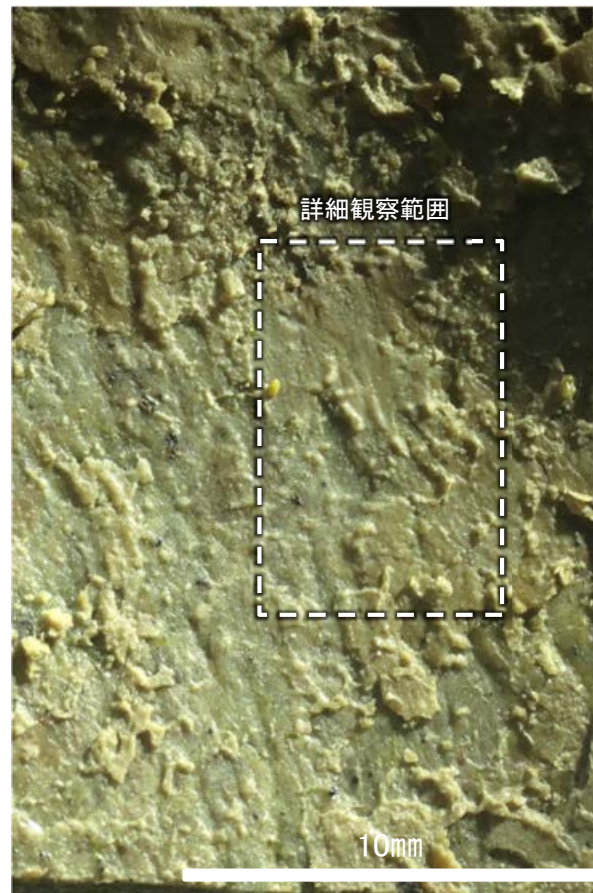
条線観察結果 ボーリングR-8.1-1-3孔[深度22.30m](上盤側)



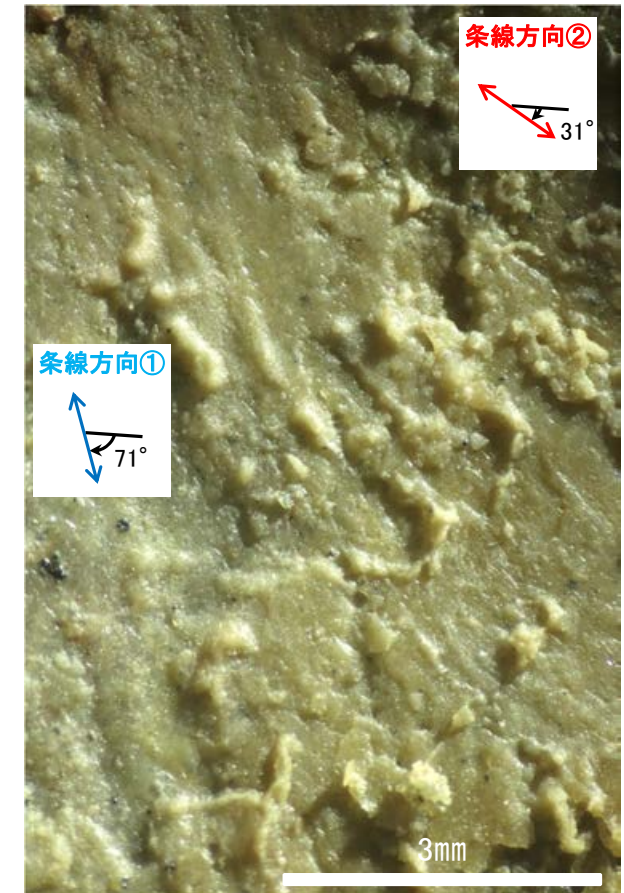
概念図
※走向は真北で示す。



観察面写真



観察面拡大写真



詳細観察写真

- ・条線①のレイクは109° R (下盤側換算), 変位センスは不明
- ・条線②のレイクは149° R (下盤側換算), 変位センスは不明

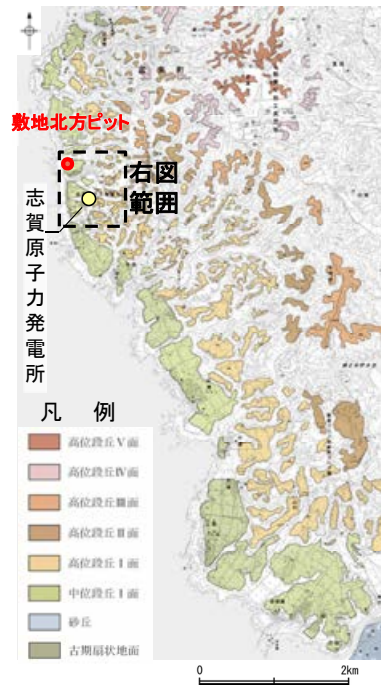
補足資料5. 3－1

上載地層法に用いる地層に関する調査結果

(1) 地質調査結果

(1)-1 中位段丘 I 面 敷地北方ピット

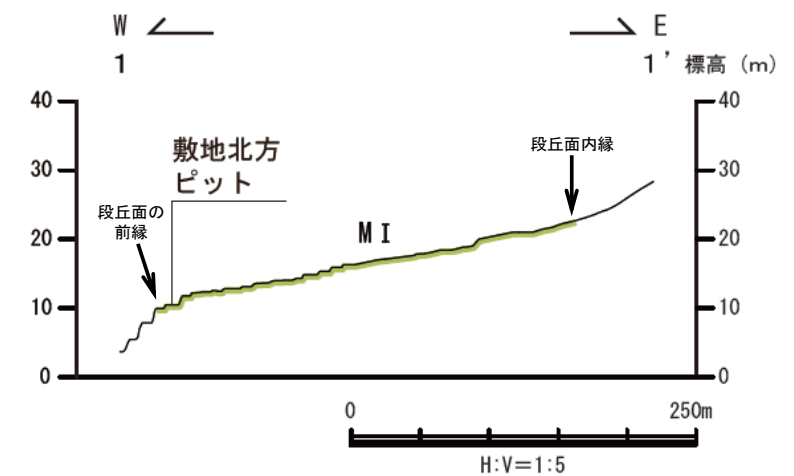
【 敷地北方ピット地点 調査位置 】



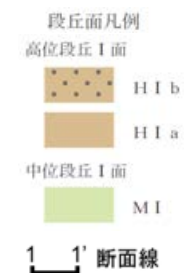
位置図



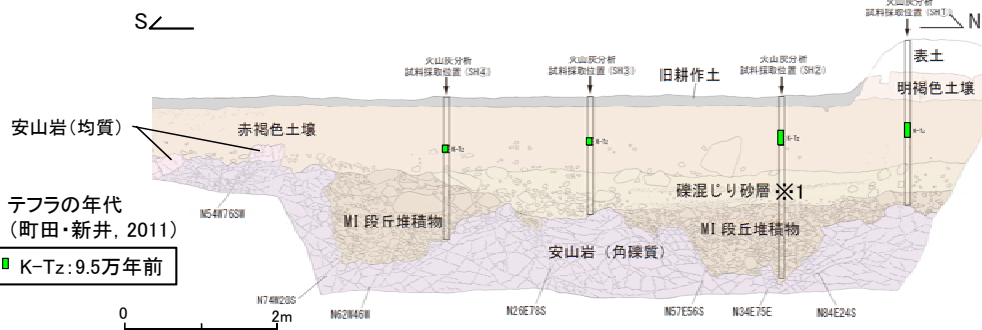
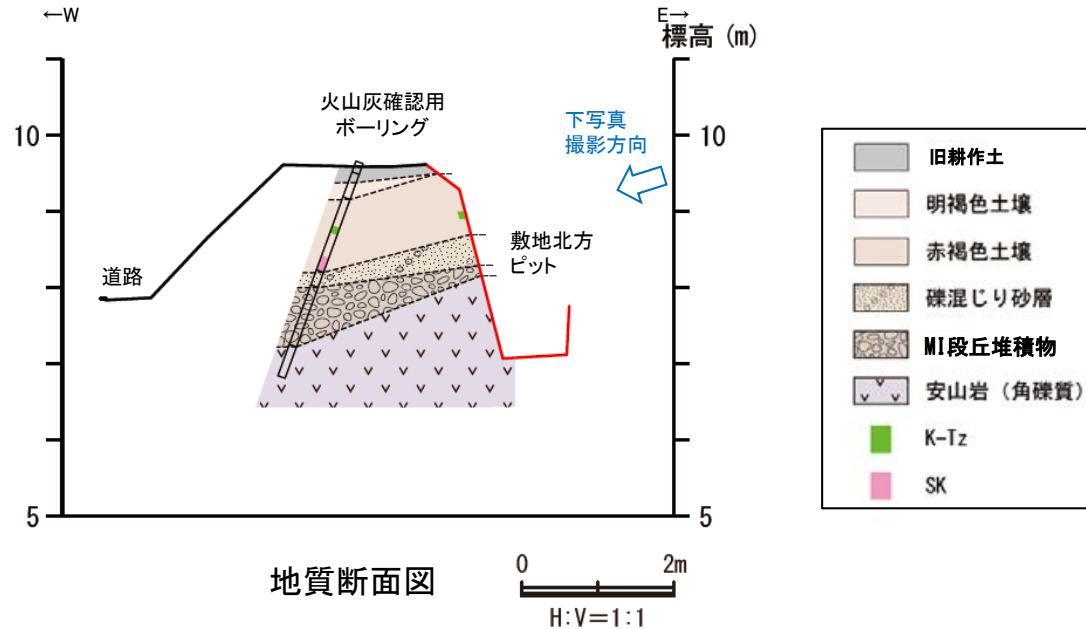
調査位置図



地形断面図

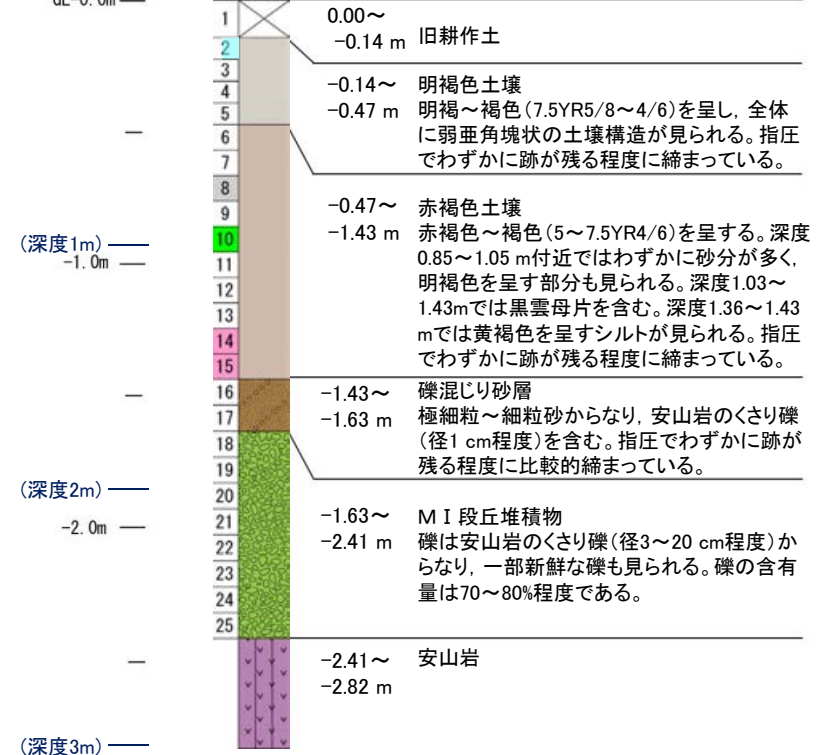


【 敷地北方ピット地点 調査結果 】



敷地北方ピット調査結果(西壁面)

<柱状図>
(EL. 9.6 m)
GL-0.0m



火山灰確認用ボーリング調査結果

※1 下位層を侵食した緩いチャネル部に分布し、基質部に下位層由来の円磨された数mmの安山岩粒子が混ざることから、本層は下位のMI段丘堆積物(砂層)が離水後に局所的に侵食され、再堆積したものと判断。



テフラの年代
(町田・新井, 2011)

DKP: 5.5万年前以前
Aso-4: 8.5万～9万年前
K-Tz: 9.5万年前
SK: 10.5万年前

・火山灰分析結果については、P.5.3-1-71を参照。

- ・敷地北方ピットのMI段丘堆積物は、亜円～亜角礫主体で円礫を含み、基質中に粒径0.1～0.2mm主体の石英を含むという特徴を有する。
- ・MI段丘堆積物を覆う赤褐色土壌の最下部に、SK(10.5万年前)が挟在している。

【敷地北方ピット地点 写真・スケッチ】

明褐色土壌

- ・色調7.5YR5/8～4/6で、シルトからなる。やや締まっており、壁状を呈する。

赤褐色土壌

- ・色調5YR4/8及び5YR5/6で、粘土質シルトからなる。よく締まっており、弱い～中程度の垂角塊状土壌構造が認められる。
- ・下部では、径2～20cm(最大50cm)の安山岩角～亜円礫を不均質に含む。

礫混じり砂層

- ・下位層を侵食した緩いチャネル状に分布。
- ・色調は2.5Y6/6及び7.5YR5/8で、基質はシルト質極細～中粒砂からなり、やや淘汰が悪く、下位層由来の円磨された数mmの安山岩粒子を含む。径1～20cm(最大50cm)の安山岩亜円～亜角礫を5～15%含む。
- ・よく締まっている。

MI 段丘堆積物

- ・岩盤の凹みを埋積するように分布する砂礫層。
- ・色調は7.5Y5/6及び10YR5/6で、基質は淘汰のよい極細粒砂からなり、よく円磨された数mmの安山岩粒子を含む。礫は径2～10cm(最大75cm)の安山岩亜円～亜角礫であり、円礫を含む。礫の含有率は40～60%程度で、礫支持構造が認められる。
- ・基質部はやや固結している。

穴水累層 安山岩(角礫質)

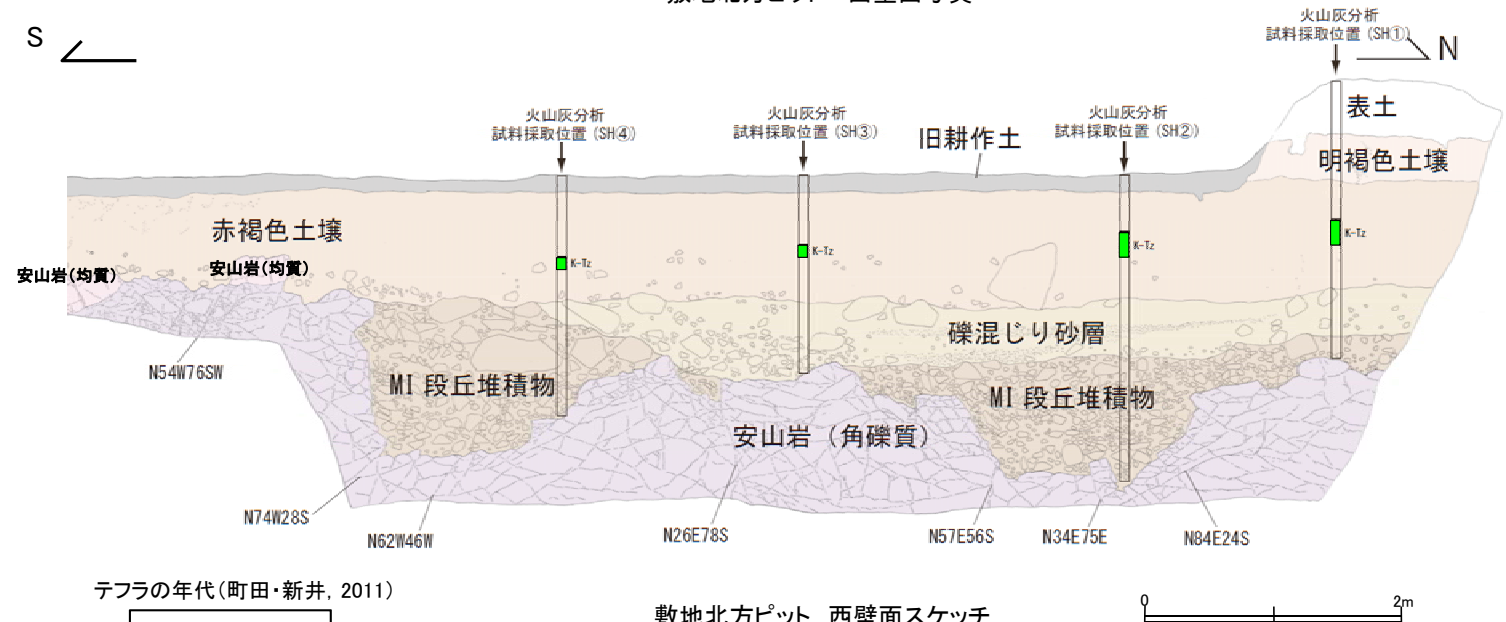
- ・風化により緑灰色、灰赤色を呈する。
- ・不規則な割れ目に褐色の流入粘土や白色細粒物が挟在する。

穴水累層 安山岩(均質)

- ・風化により褐灰～浅黄色を呈する。
- ・高角度の割れ目と低角度の割れ目が10～40cmの間隔で分布。



敷地北方ピット 西壁面写真



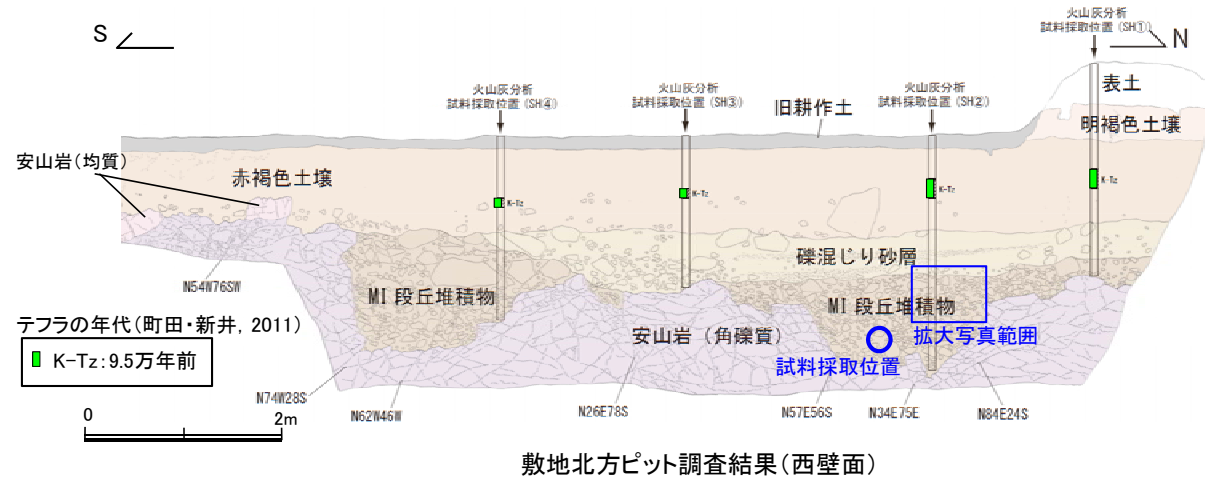
テフラの年代(町田・新井, 2011)

■ K-Tz: 9.5万年前

敷地北方ピット 西壁面スケッチ

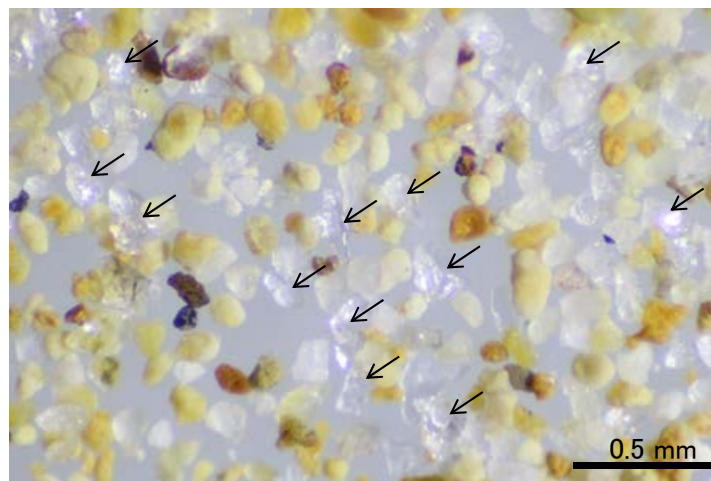
・MI 段丘堆積物の石英粒子の含有に関する調査結果は次頁を参照。
・火山灰分析結果については、P.5.3-1-72を参照。

【敷地北方ピット 拡大写真】



拡大写真

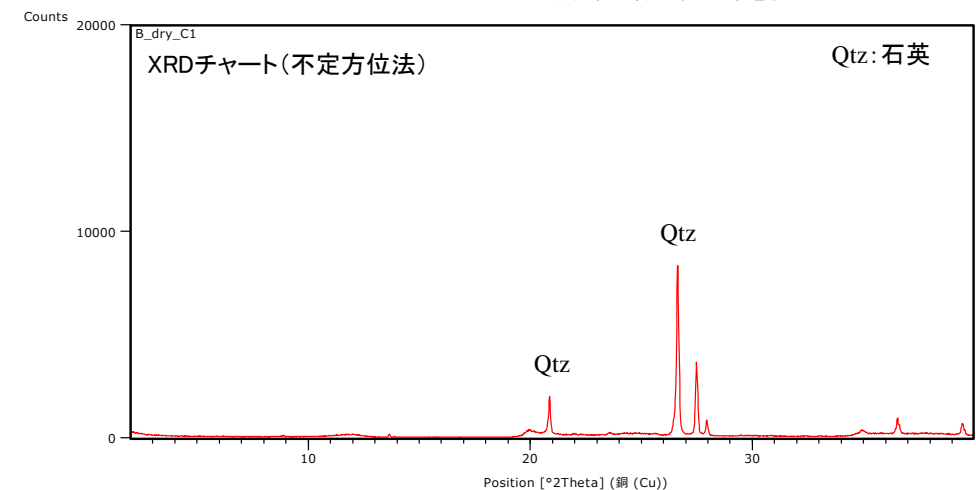
垂円～垂角礫主体で、円礫を含む



実体顕微鏡写真

石英粒子の例

粒径0.1～0.2mm主体の石英粒子を含む。



【石英同定方法】

- ・未乾燥試料約20gを供試
- ・乳鉢で軽くほぐした試料に蒸留水を加え、パンニング(わん掛け法)しながら細粒分を少しずつ除去し、粗粒分(ほぼ細粒砂以上)を分離
- ・パンニングの途中で上澄みがほぼ透明になるまで超音波洗浄(30秒, 20kHz)を繰り返し実施
- ・細粒分の除去が終了後、スミアスライド用試料とXRD分析用試料に区分
- ・作成したスミアスライドは実体顕微鏡で観察し、写真を撮影
- ・XRD分析用試料は60℃で乾燥後、メノウ乳鉢で粉碎し、粉末法により右記の条件で分析

装置名: スペクトリス(株)社(PANalytical)製 PW3040
X線管球: Cu、波長: CuK α , 1.54178 Å
電圧・電流: 40kV・50mA
測定角度・測定速度: 2~40°, 2° /分
サンプリング幅: 0.02°
スリット条件: DS: AS: RS = 15 mm: 15 mm: 0.2mm
※DS(発散スリット), AS(散乱防止スリット), RS(受光スリット)

(1)-2 中位段丘 I 面 安部屋表土はぎ

【 安部屋表土はぎ地点 調査位置 】

